者ノ資格ヲ定ム　明治二十年七月
閣令第十九號

四箇年以上裁判官檢察官ノ職ヲ奉シ他ニ轉官シ又ハ四箇年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者四箇年以上司法省ノ民事局長刑事局長又ハ參事官ノ職ヲ奉シタル者及代言人試驗ニ及第シ五箇年以上代言人タル者ハ當分ノ內高等試驗及實務練習ヲ要セスシテ司法官ニ任スルコトヲ得

●文官試驗試補及見習規則第二十九條在職判任官ニシテ直ニ任スルヲ得ル者ノ制限ヲ定ム　明治二十年十一月
閣令第二十三號

本年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第二十九條在職判任官ニシテ直ニ本官ニ任スルヲ得ル者ハ在職三年ニ滿ル者ニ限ル若三年ニ滿サル者ハ先試補ニ任用シ前後通算シテ三年ニ滿ルヲ待テ本官ニ任スルモノトス

●判任官高等試驗ヲ受クルヲ得ルノ件　明治二十年十二月
勅令第六十四號

判任官高等試驗ヲ受クルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則施行ノ後五箇年間ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ニ敘セラレタル者ハ同則第十七條第五項ニ準シ高等試驗ヲ受クルコトヲ得其當選シタル者ノ本官ニ任スルハ同則第二十九條ニ據ル

●文官試驗ノ件　明治二十三年二月
勅令第八號

判文官試驗ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　前ニ奏任文官ヲ勤メタル者及滿三年以上判任文官ヲ勤續シタル者ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ高等試驗ヲ受クルコトヲ得

第二條　明治二十年勅令第三十七號ニ依リ高等試驗ヲ受ケテ合格シタル者ハ文官試驗局長官ヨリ高等試驗合格證書ヲ付與スヘシ

高等試驗合格證書ヲ得タル者ハ官廳ノ需要アルニ當リ高等官試補ニ任スルコトヲ得

第三條　滿三年以上奏任文官ヲ勤メ退官シタル者ハ試驗及事務練習ヲ要セスシテ前官同等若ハ其ノ以下ノ文官ニ任スルコトヲ得

第四條　奏任又ハ判任ノ文官ヨリ轉任シタル官立學校ノ教官及府縣立學校ノ職員ハ

更ニ前官同等若ハ其ノ以下ノ文官ニ轉任スルコトヲ得

第五條　各官廳ハ其ノ需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ此ト同等ナル官立府縣立學校及特別認可學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ普通試驗ニ及第シタル者ヲ擧ケテ直ヲニ判任文官ニ任スルコトヲ得

第六條　試驗ハ本邦ノ成法慣例及一般ノ學理ヲ以テ問題ト爲スヘシ但シ受驗者應答ヲ爲スニ當リ外國ノ法例ヲ參照ニ引擧スルコトヲ得

特別ノ必要ニ依リ外國語ヲ試驗問題ト爲スハ前項ノ限ニ在ラス

第七條　本令ハ明治二十年勅令第三十七號第二十條ニ依リ試驗ヲ經スシテ任官シタル者竝ニ明治二十一年以後郡區長ノ試驗ニ及第シテ任官シタル者ニ適用セス

●技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者任用例規ヲ定ム

明治二十年十二月
閣令第二十八號

本年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第二十條ニ據リ別段ノ試驗法ヲ定ムルマテハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者ヲ任用スルニハ左ノ例規ニ依ルヘシ

一奏任官ハ本則第三條ニ準シ各種ノ學術技藝ニ就キ一定ノ資格アルヘキ者又ハ第十七條ニ依リ準シ其經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等ノ書類ヲ添ヘ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經各省大臣ヨリ奏聞ノ手續ニ及フヘシ

本則第三條ニ準シ各種學術技藝ニ就キ一定ノ資格アルヘキ者又ハ第十七條ニ依リ準シ其經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等ノ書類ヲ添ヘ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經各省大臣ヨリ奏聞ノ手續ニ及フヘシ

一奏任官ハ本則第四條ニ準シ各種ノ學術技藝ヲ修メ一定ノ資格アル者ヲ命シ其他ノ者ハ經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等豫メ普通試驗委員長ノ調査ヲ經テ之ヲ命スヘシ

本年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則其他之ニ關スル法令中試驗ニ關スル條項ノ外通則試補判任官見習ニ就キ規定シタルモノハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スルモノニモ適用スルモノトス

●試補及見習ノ待遇任用方

明治二十年十一月
勅令第五十七號

脫試補及見習ノ待遇並ニ任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

本年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ據リ試補及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試補ヲ奏任トシ見習ヲ判任トス

同則ニ據リ試補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試補ハ奏任官四等以下トシ見習ハ判任官五等以下トス

●郡區長試驗條規　明治二十年十二月　內務省令第五號

郡區長ノ試驗ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條　郡區長ノ試驗ハ左ノ科目ヲ以テ內務省ニ於テ之ヲ行フ

一　就職スヘキ地方ノ風土慣例及物產

一　郡區長職務ニ必要ナル法令

一　郡區長職務ニ關スル公文ノ立案

第二條　郡區長ノ試驗ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五箇年以上奏任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉シタル者ハ此限ニアラス

第三條　試驗出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳又ハ府縣廳ヲ經テ試驗委員長ニ差出スヘシ

第四條　試驗委員ハ內務大臣內務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之ヲ命シ又ハ囑託シ內務省總務局長ヲ以テ委員長トス

第五條　試驗委員ハ必要アル場合ニ於テハ問題ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ該地方高等官三名以上ノ列席ニ於テ其應答ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　試驗ノ手續ニ關スル細目ハ試驗委員長ノ定ムル所ニ依ル

●郡區長任用ノ件　明治二十三年二月　勅令第九號

朕郡區長任用ノ作ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　郡區長ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ノ現職ニ在ルモノニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條　郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ郡區長ニ任用シタル者他ノ道廳府縣ノ郡區長ニ轉任スルトキハ更ニ郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經ヘシ

第三條　郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ任用シタル郡區長ハ高等試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得

●郡區長ハ內務大臣ノ指定シタル試驗科目ニ依リ試驗シ又高等試驗ヲ經サレハ他ノ高等官ニ轉スルヲ得ス　明治二十年七月　閣令第二十號

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試驗ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試驗科目ハ當分ノ內地方ノ實況ヲ斟酌シテ內務大臣ノ指定スル所ニ依ル

但郡區長ハ高等試驗ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

●北海道廳ノ官吏ニシテ試驗ヲ要セス同廳ノ郡區長ニ任用ヲ得ルモノヽ資格ヲ定ム　明治二十二年一月閣令第三號

北海道廳ノ郡區長ハ當分ノ內三箇年以上北海道廳ノ官務ニ從事シ判任官五等以上ニ叙セラレ現ニ在官セル者ニ限リ試驗ヲ要セス郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ郡區長ニ任スルコトヲ得

●陸軍武官進級令　明治二十二年五月勅令第六十一號

陸軍武官進級條例ヲ廢止シ陸軍武官進級令制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍武官進級令

第一條　陸軍武官ノ進級ハ級ヲ逐テ歷進セシム又缺員ナキトキハ補除スルコトヲ得ス

第二條　陸軍武官ハ實役停年最下期限ヲ超ユルニアラサレハ進級スルコトヲ得ス

第三條　實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

二等軍曹ヨリ一等軍曹ニ進ムハ實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一年曹長ヨリ少尉ニ進ムハ實役停年二年

少尉ヨリ中尉ニ中尉ヨリ大尉ニ進ムハ實役停年各二年大尉ヨリ少佐ニ進ムハ實役停年四年

少佐ヨリ中佐ニ進ムハ實役停年三年中佐ヨリ大佐ニ大佐ヨリ少將ニ進ムハ實役停年各二年

少將ヨリ中將ニ進ムハ實役停年三年

中將ノ大將ニ進ムハ歷戰者ニ就キ特旨ヲ以テ親任スルヲ例トシ最下期限ヲ定ムルコトナシ

第四條　戰時ニ在テハ各官ノ實役停年ヲ其半ニ減スルコトヲ得

第五條　休職停職ノ年月ハ實役停年ニ算入セス但敵ノ捕虜トナリ休職ニ入ル者正當ノ理由アルトキハ其年月ヲ實役停年ニ算入スルコトヲ得

第六條　陸軍武官進級ノ法二アリ一ヲ抜擢補除トシ一ヲ停年補除トス

第七條　停年補除トハ實役停年最下期限ヲ超エタル順次ニ依リ進級セシムルヲ云ヒ抜擢補除トハ實役停年最下期限ヲ超エタル者ニ就キ抜擢進級セシムルヲ云フ其區別左ノ如シ

二等軍曹ヨリ一等軍曹ニ一等軍曹ヨリ曹長ニ進ムハ皆抜擢トス

少尉ヨリ中尉ニ進ムハ實役停年三分二抜擢三分一トス

●陸軍武官進級令中改正　明治二十三年三月勅令第二十九號

陸軍武官進級令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍武官進級令第十七條左ノ通改正ス

軍將校相當官竝ニ軍吏部衛生部ノ下士騎砲輜重兵諸工長騎砲輜重兵諸工長ノ進級ハ本令ヲ適用ス軍樂部準士官下士及砲工兵監護ノ進級ハ別ニ定ムル所ニ依ル

●陸軍武官進級令中改正
明治二十三年七月勅令第百三十六號

陸軍武官進級令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍武官進級令第十七條左ノ通改正ス、將校相當官竝軍吏部ノ下士及諸工下長ノ進級ハ本令ヲ適用ス、砲工兵監護ノ砲工兵上等監護ニ進ミ軍樂次長ノ二等軍樂長ニ進ムハ下士進級ノ例ニ同シ但實役停年二年トス、二等軍樂長ニ進級スルハ實役停年五年以上ニシテ隊長ノ職ヲ奉シ功勞顯著ナル者ニ就キ進級セシム

中尉ヨリ大尉ニ進ムハ停年拔擢相半ス

大尉ヨリ少佐ニ少佐ヨリ中佐ニ中佐ヨリ大佐ニ進ムハ皆拔擢トス

第八條　將校ハ職權ニ依テ部下ヲ拔擢スルノ權ヲ有ス但直屬長官アル者ハ其監督ノ下ニ在テ之ヲ行フ

第九條　將官ノ進級及將官ニ進級スルハ特例トス此選ニ當ルヲ得ル者ハ功績拔群ニシテ士官タルノ學力ヲ有スルモノニ限ル

第十條　曹長ノ少尉ニ進級スルハ將校ノ實役停年名簿ヲ作リ之ヲ奏上スヘシ

第十一條　陸軍大臣ハ每年將校ノ拔擢進級侯補ハ上裁ニ出ルモノトス陸軍大臣ハ上旨ヲ奉シテ決定

第十二條　將校ノ拔擢進級侯補名簿ヲ調製スヘシ

第十三條　下士ノ進級侯補ハ師團長及之ト同等以上ノ權アル長官竝ニ會計局長醫務局長之ヲ裁決シテ決定侯補名簿ヲ調製スヘシ

第十四條　決定侯補名簿ハ其調製ノ日ヨリ次年決定侯補名簿調製ノ日迄之ヲ用ユヘシ

第十五條　左ノ場合ニ在テハ前諸條ノ例ニ依ラス進級セシムルコトヲ得

一　敵前ニ在テ殊勳ヲ奏シ首將之ヲ全軍ニ布告セシ者

二　敵前ノ軍隊ニ在テ人員缺乏シ補除定規ヲ履ム能ハサルトキ

第十六條　與軍ノ日ニ方リテ戰地ニ臨ムノ首將ニハ特ニ進級補除ノ權ヲ假スコトアルヘシ

第十七條　將校相當官竝ニ軍吏部衞生部ノ下士及砲兵火工長砲兵火工下長ノ進級ハ本令ヲ適用ス

軍樂部准士官下士砲工兵監護騎砲兵諸工長騎砲兵諸工下長ノ進級ハ別ニ定ムル所ニ依ル

●陸軍武官進級取扱規則並陸軍武官考科表規則

明治二十二年五月
陸軍省達第七十六號

陸軍武官進級取扱規則竝陸軍武官考科表規則別冊ノ通被定

但明治八年七月達第二十三號達同二十一年六月陸達第百二十七號達廢止ス

（別冊）

陸軍武官進級取扱規則

第一條　陸軍武官進級令第一條ニ基キ補除ノ區域ハ左ノ範圍ニ依ル

一大尉ヲ少佐ニ少佐ヲ中佐ニ中佐ヲ大佐ニ補除スルハ各兵科
二少尉ヲ中尉ニ中尉ヲ大尉ニ補除スルハ各將校團
三憲兵、屯田兵、監督部、軍吏部、衛生部、獸醫部ノ上長官士官ハ各兵科、各部
四下士ハ各隊、各官衙（第七條第二ノ決定候補名簿ノ區域）

第二條　陸軍武官進級令ノ範圍ニ於テ部下ヲ拔擢スル權アル諸官ハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

二等軍曹ヨリ一等軍曹ニ一等軍曹ヨリ曹長ニ拔擢スルハ圖例第一ニ曹長ヨリ少尉ニ少尉ヨリ中尉ニ中尉ヨリ大尉ニ拔擢スルハ圖例第二ニ大尉ヨリ少佐ニ少佐ヨリ中佐ニ中佐ヨリ大佐ニ拔擢スルハ圖例第三ニ依ル其相當官ニ在テモ之ニ同シ

第三條　拔擢スヘキ者ノ內圖例第三ノ拔擢官タル上長官ヲ拔擢スヘキ塲合ニ在テハ其拔擢官ハ直上ノ判定官トス

第四條　拔擢諸官ハ拔擢スヘキ者ノ優劣ニ依リ順序ヲ立テ拔擢人名簿ヲ作リ之ニ考科表ノ寫ヲ添ヘ左ノ區別ニ從ヒ順序ニ判定官ニ進達ス但圖例第一ニ在テ全ク判定官ナキモノ圖例第二ニ在テ第一第二判定官ナキモノ圖例第三ニ在テ第一判定官ナキモノハ此取扱ヲ爲サヽルモノトス

一圖例第一ニ在テハ第一判定官（第一判定官ナキモノハ第二判定官第一第二判定官ナキモノハ第三判定官）ニ第一判定官ハ第二判定官ニ第二判定官ハ第三判定官ニ順次點檢取捨シテ之ヲ進達ス
二圖例第二ニ在テハ第一判定官（第一判定官ナキモノハ第二判定官）ニ進達シ第一判定官ハ點檢取捨シテ第二判定官ニ進達ス
三圖例第三ニ在テハ第一判定官ニ進達ス

第五條　圖例第一ノ第三判定官（第三判定官ナキモノハ拔擢官）圖例第二ノ第二判定官（第二判定官ナキモノハ拔擢官）及圖例第三ノ第一判定官（第一判定官ナキモノハ拔擢官）ハ第四條ノ拔擢人名簿ニ就キ點檢取捨ヲ加ヘ（拔擢官ニシテ本條ノ取扱ヲナスモノハ第四條ノ拔擢人名簿ナキヲ以テ直ニ）左ノ區別ニ從ヒ一連ノ拔擢順序ヲ定メ別紙雛形ニ依リ拔擢名簿ヲ作リ考科表ノ寫ヲ添ヘ上長官士官ノ名簿ハ最終ノ判定官ニ下士ノ名簿ハ裁決官ニ進達ス

一大尉以上ハ各兵科
二中少尉ハ近衞師團隊附ハ各將校團其他ノ者ハ圖例第二ノ第二判定官ノ區畫ニ於テ各兵科ニ分ツ
三憲兵、屯田兵、監督部、軍吏部、衛生部、獸醫部ノ上長官士官ハ各兵科、各部
四下士ハ近衞師團隊附ハ各隊其他ノ者ハ各兵科ハ圖例第一ノ第三判定官軍吏部、衛生部ハ圖例第一ノ裁決官ニ於テ便宜其區域ヲ定ム

圖例第二ニ在テ第一第二判定官圖例第三ニ在テ第一判定官ナキ扱擢區域ニ於テ扱擢官トナリタル者他ノ扱擢區域ニ於テ判定官タル者ハ其兩區域ヲ合シ扱擢名簿ヲ作ルモノトス

第六條　停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス

第七條　決定候補名簿ヲ作ルハ左ノ例ニ依ル

一上長官士官ニ在テハ上裁ノ人名ニ就キ第一條各項ノ範圍毎ニ之ヲ作ル

二下士ニ在テハ裁決官扱擢名簿ト考科表ニ就キ候補者ヲ裁決シ第五條第一項第四ノ區域毎ニ優劣ニ從ヒ列序ヲ定メ之ヲ作ル但其副本ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八條　已ニ決定候補名簿ニ登載スル者若シ進級セシムヘカラサル事由アルモノハ其長官ヨリ之ヲ具申シ削除ヲ乞フヘシ

第九條　上長官士官ノ進級除任ハ陸軍大臣之ヲ奏上ス

第十條　下士ノ進級除任ハ裁決官順序ヲ經テ除任ヲ行フヘキ各官ニ其決定候補名簿ヲ下シ各官ハ該名簿ノ列序ニ從ヒ之ヲ除任ス

第十一條　決定候補名簿ニ登載セル下士進級區域ヲ轉換スルトキハ候補名簿ノ位次即チ第何番タルコトヲ甲所管ヨリ乙所管ニ通報シ乙所管ニ於テハ其位次ニ從ヒ候補名簿ニ組入レ置キ順序ニ進級セシメ若シ同時ニ二名以上ヲ進級セシムルコト能ハサルトキハ停年順序ニ從ヒ進級セシムヘシ

第十二條　扱擢ノ方法ハ概ヲ左ノ例ニ準據スヘシ

一旅團長ノ部下大尉ヲ扱擢スルハ同級中ニ於テ優秀ナル者ヲ選定扱擢スヘシト雖モ其人員二名以上ナルトキハ優劣ノ等差ヲ比較シテ順次ヲ付スルモノトス

二扱擢スヘキ者ノ伎倆ノ證明ヲ要スルコトニ就テハ將校團教育令ノ各項中ノ一ニヲ材料トシテ之ヲ添加シ又ハ豫メ上官ノ諮問ニ答ヘ若クハ參閲ニ供スルノ準備アルヲ要ス

三師團長ハ旅團長ヨリ進達シタル考科表ヲ點檢シ曾テ自カラ見聞スル所ニ合スルヤ否若シ認識ニ乏シキトキハ特ニ作業若クハ任務ヲ與ヘ其伎倆果シテ扱擢スヘキモノナルヤ否ヲ判定シ更ニ兩旅團ノ扱擢スヘキ者ヲ合シ優劣順次ヲ立ツヘシ

四師(旅)團長ハ聯隊各地ニ屯在スルヲ以テ諸檢閲其他將校ト會合スルノ時機アル毎ニ常ニ各將校ノ人ト爲リヲ鑑識シ又之カ爲メ特ニ作業ヲ施行シ豫メ注意ノ周到ナルヲ要ス

第十三條　前條ハ歩兵聯隊大尉ノ扱擢ニ就テ其例ヲ示スモノトス故ニ其他ノ士官ニ

（明治二十三年二月陸軍省達第十八號ヲ以テ表中改正明治二十二年（五月）陸達第七十六

（陸軍武官進級取扱規則別表第一、第二並同例第一、第二並陸軍武官考科表規則別表中左ノ通改メラル「近衛、師團軍隊部」ノ次ニ「屯田兵」ノ三字ヲ挿入ス）（「教導團、病院、同各隊附、要塞砲兵幹部練習所附」ノ次ニ「衛生部一ノ班、要塞砲兵幹部練習所附ノ兵、屯田兵衛生部ノ全班」ノ十字ヲ削除ス、屯田兵衛生部ノ全班ヲ削除ス）

在テモ此例ニ依ル

下士ニ在テハ其例ヲ掲ケス概ネ前條ノ旨趣ニ準據スヘシト雖モ專ラ實際勤務ノ成績ヲ基礎トシ拔擢スヘシ

附　則

第十四條　本年ニ限リ圖例ニ掲クル各期日ヲ既ニ經過シタルモノハ此際便宜整理スルモノトス

第十五條　騎兵第一大隊ニ限リ騎兵監ノ管理タル間ハ本則ニ係ル取扱ハ都テ監軍ノ區處ニ屬ス

（拔擢名簿雛形甲乙略ス）

拔擢圖例第一

被拔擢者	拔擢官	第一拔擢判定官	第二拔擢判定官	第三拔擢判定官	候補者裁決官	除任官
歩兵中隊長	中隊長	大隊長				
歩兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			聯隊長
歩兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					

被拔擢者	拔擢官	第一拔擢判定官	第二拔擢判定官	第三拔擢判定官	候補者裁決官	除任官
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
砲兵中隊	中隊長					
砲兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
砲兵聯隊本部	聯隊副官					
騎兵中隊	中隊長					
騎兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
騎兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
工兵中隊	中隊長					
工兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
工兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
輜重兵中隊	中隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
輜重兵聯隊本部	聯隊副官					
旅團司令部	高級ノ副官					
大隊區司令部	副官		大隊區司令官			
監視區監獄	監獄長					
東京砲兵工廠生徒學舍	舍長	當該砲兵方面副提理				
砲兵方面統轄ノ隊附各官衙附	副提理		大隊長			
臨時砲臺建築部	高級ノ事務官		隊長			
砲兵工廠	副提理					
工兵方面	副提理					
電田兵大隊本部	大隊副官		大隊長			
電田兵中隊	中隊長		隊長			
憲兵分隊	分隊長					
憲兵隊本部	副官					
調馬主管	主管					
憲司令部	副官					
近衛、師團司令部	高級ノ副官					
警備隊本部	副官					
警備隊中隊	隊長					
輜重兵大隊本部	大隊副官		聯隊長			
警備隊歩兵中隊	中隊長					
輜重兵中隊	中隊長					
電田兵本部	課長					
砲兵方面	提理					

	拔擢期 每年一月三十一日迄	進級期 每年三月三十一日迄		每年八月三十一日迄	裁決期 每年十月	
軍馬育成所	所長			騎兵局長		騎兵局長
蹄鐵學舍	舍長					
陸地測量部	副官、各科長、材料主管、修技所幹事		部長	參謀次長	參謀總長	部長
大學校	幹事					
乘馬學校	副官、高級ノ教官、廐長		校長	騎兵監	監軍	校長
砲兵射的學校	副官、教導中隊長			砲兵監		
要塞砲兵幹部練習所	副官、生徒中隊長		所長			所長
砲兵會議	高級ノ事務官		議長			議長
工兵會議				工兵監		
士官學校本部	高級ノ副官		校長	將校學校監		校長
同中隊	中隊長					
幼年學校本部	高級ノ副官					
同中隊	中隊長					
戶山學校	高級ノ副官、各科長			校長		
教導大隊本部	大隊附大尉		大隊長			
同中隊	中隊長					
教導團本部	副官			團長		團長
步兵大隊本部	大隊副官		大隊長			
砲兵大隊本部						
各兵中隊	中隊長					
陸軍省會計局	各課長			會計局次長	會計局長	會計局次長
中央司契部	司契					
被服廠	主管					
近衞、師團監督部	各課長			監督部長		監督部長
近衞、師團司令部、各隊附、各官衙附軍吏部	當該監督部長					當該監督部長
近衞、師團、軍、醫部、	高級ノ部員醫官、藥劑官			軍醫長		軍醫長
各隊附、各官衙附衞生部	高級ノ醫官藥劑官			當該軍醫長	醫務局長	當該軍醫長
衞戍病院衞生部			病院長			
教導團病院、同各隊附、要塞砲兵幹部練習所附、衞生部						
陸軍省醫務局	各課長			醫務局次長		醫務局次長
屯田兵衞生部	醫務課長					
軍醫學校	高級ノ教官			校長		校長

進級者拔擢圖例第二

被拔擢者	拔擢官	拔擢判定官 第一	拔擢判定官 第二	拔擢判定官 第三	拔擢候補者裁決
步兵隊附	聯隊長	旅團長	部督、師團長		
大隊區司令部各兵科共	大隊區司令官				
近衞、師團司令部	參謀長				
監獄					
調馬主管					
旅團司令部	旅團長				
監獄各兵科共					
砲兵隊附	聯隊長				

	騎兵隊第	工兵隊第	輜重兵隊附	憲兵隊附	陸軍省副官	陸軍省總務局	陸軍省騎、砲、工兵局	軍馬育成所	蹄鐵學舍	獸醫部	砲兵方面	工兵方面	砲兵工廠	砲兵方面統轄ノ隊附各官衙附	臨時砲塁建築部	參謀本部副官部	參謀本部第一、第二局	參謀本部編纂課	陸地測量部	大學校	戶山學校	士官學校	幼年學校	乘馬學校	砲兵射的學校	要塞砲兵幹部練習所	砲兵會議	工兵會議
參謀長	大隊長																											
監				司令官	陸軍次官	各課長	各局長	騎兵局長	獸醫課長	提理																		
副官																												
團長																												
隊長																												
司令官																												
隊長																												
本部次長																												
大隊長																												
監督部長																												
會計局次長																												
會計局長																												
本部長																												
司令官																												
團長																												
監																												
長																												

	騎兵監	砲兵監	工兵監	將校學校監	參謀次長	參謀總長	部長	陸軍次官	陸軍大臣	親裁
參謀次長										
參謀總長										
陸軍次官										
陸軍大臣										
親裁										

	監軍部副官	參謀長
各	監	
教導團副長	各隊長	
同	團長	
憲兵司令部	各隊長	
憲兵隊附	司令官	
電田兵本部	本部次長	
電田兵隊附	大隊長	
近衛、師團司令部、近衛、師團監督部	監督部長	
各隊附、各官衙附、陸軍省會計局	會計局長	
中央司契部	會計局次長	
被服廠	會計局長	
軍吏學舍	軍醫長	
近衛、師團軍醫部	當該軍醫長	
各隊附各官衙雇、衛生部		
衛戍病院、衛生部	病院長	
教導團病院、同各隊附、要塞砲兵幹部練習所附、衛生部	當該軍醫長	
陸軍省醫務局	醫務局次長	
電田兵衛生部		
軍醫學校	校長	
	拔擢期	每年一月三十一日迄
	進達期	每年三月三十一日迄
		每年八月三十一日迄
	裁決期	每年十月

抜擢圖例第三

被抜擢者	抜擢官	抜擢判定官
近衛、師團司令部	旅團長	部督、師團長
騎兵隊附	旅團副官	
砲兵隊附		
工兵隊附		
輜重兵隊附		
憲兵隊附		
監獄		
調馬主管		
陸軍省副官		
陸軍省總務、騎砲、工兵局	陸軍次官	陸軍大臣
獸醫部		
軍馬育成所		
鐵道學舍	騎兵局長	
砲兵方面		
工兵方面	提理	
砲兵工廠		
武庫	當該砲兵方面提理	
臨時砲臺建築部	長	

抜擢候補者裁決

官	抜擢期	進達期	裁決期
參謀本部	毎年一月三十一日迄	毎年三月三十一日迄	毎年八月三十一日迄
參謀次長			
參謀總長			
大學校			
陸地測量部			
監軍部副官			
戸山學校			
參謀校長			
騎兵監副官			
騎兵監			
乘馬學校			
砲兵監副官			
砲兵監			
砲兵會議			
砲兵射的學校			
要塞砲兵幹部練習所			
工兵監副官			
工兵監			
工兵會議			
輜重兵監副官			
輜重兵監			
將校學校監副官			
將校學校監			
士官學校			
幼年學校			
教導團			
憲兵司令部			
憲兵司令官			
憲兵隊附			
電田兵本部			
電田兵本部長			
電田兵隊附			
監督部			
會計局長			
監督部			
醫務局長			
衛生部			

陸軍武官考科表規則

第一條　陸軍武官考科表ハ上長官、士官、下士ノ才能技倆其他一身上ニ係ル諸般ノ事項ヲ詳悉シテ考科ノ用ニ供スルモノトス其要旨概子左ノ如シ

一　性質、氣概、體格
二　出身時ノ景況及進級ノ經過
三　勤務上ノ結果
四　學術上ノ技能及特有ノ技能
五　義務心ノ狀態
六　家計ノ景況及交際ノ景況
七　既往ト現在ノ變易及將來ノ見込

第二條　前條諸項ハ概例ヲ示スコト止ル考科表ハ本人一身上ニ就テノ事實品格ヲ詳悉確證スルモノタルヲ以テ務メテ實ヲ得修飾スルコトナク又毫モ忌諱スルコトナク記注スヘシ

第三條　考科表ハ別表ニ記スル調製官別紙雛形ニ依リ記注シ毎年十二月三十一日調ヲ以テ補修訂正スルモノトス

第四條　參謀官ノ考科表ハ都督、師團長其他ノ長官ヨリ最初其正本ヲ參謀總長ニ移シ其副本ヲ留メ置キ爾後ハ補修訂正セシ毎ニ之ヲ通報スヘシ參謀總長ハ更ニ參謀職務上ニ係ル考科ヲ記入シ之ヲ參謀本部ニ備ヘ置クモノトス

第五條　騎、砲、工、輜重兵科將校ノ考科表ハ都督、師團長其他ノ長官ヨリ最初其副本ヲ各兵監ニ移シ爾後ハ補修訂正セシ毎ニ之ヲ通報スヘシ各兵監ハ更ニ特科兵專門ニ係ル考科ヲ記入シ備ヘ置クモノトス

第六條　考科表（第四條ニ掲クルモノヲ除ク）ハ進級取扱規則ノ各扱擢例ニ掲クル扱擢官ト別表調製官ヨリ扱擢官ニ最初其副本ヲ移シ爾後ハ補修訂正セシ毎ニ之ヲ通報スヘシ但扱擢官上官ナルモノニ在テモ此例ニ準シ進達及申報スヘシ

第七條　近衛、師團及各官衙ニ屬スル監督、軍吏、衛生部上長官士官竝武庫主管タル士官ノ考科表ハ調製官ヨリ左ノ區別ニヨリ最初其副本ヲ移シ爾後ハ補修訂正セシ毎ニ之ヲ通報スヘシ

監督部、軍吏部ハ　會計局長
衛生部ハ　醫務局長
武庫主管ハ　砲兵方面提理

第八條　第四條乃至第七條ノ考科表補修訂正ノ通報ハ毎年十二月補修訂正ノ時ヲ以

テスト雖モ緊要ナル事項アレハ臨時通報スヘシ

第九條　考科表ハ調製官及ヒ之ヲ收受スル諸官ニ於テ收藏シ置クモノトス

第十條　考科表ハ本人轉職ノ際ハ新所管調製官ニ移スヘシ

雛形

（△印ハ朱書）

考科表	所管職官姓名
族籍	△何府縣何々
陸軍出身	△年號月日任何官
誕生	△年號月日生
現官除任	△年號月日除任
進級	
戰役	
賞	
罰	
上官所見	
調製官所見	
	△第一條各項ノ事項其他必要ナル件々ヲ記ス

一　戰役ハ出身前後ニ係ハラス之ヲ簡短ニ記スヘシ

二　賞罰ハ出身以後ニ係ルモノヲ記スヘシ

三　上官ノ所見ハ調製官ヨリ進達シタルモノヲ記載スルモノニシテ調製官ノ收藏スルモノニハ之ヲ記載セサルモノトス

四　調製官及上官ハ所見ヲ記スル毎ニ其終ニ署名捺印スヘシ

五　用紙ハ美濃紙トス一葉ニテ不足スルトキハ數葉連綴スルモノトス

官衙	考科	調製官	考科	調製官	考科	調製官
陸軍省	副官	陸軍次官	上長官、士官			
同總務局	各課長			各課長		
同各局	各局長			各局長		各課長
砲兵方面	提理			提理	下士	副提理
工兵方面						
砲兵工廠						
東京砲兵工廠生徒學舍						舍長
憲兵	司令官		上長官、司令部附士官、隊附士官	司令官、隊長	下士（司令部附、隊附、分隊附）	副官、分隊長
屯田兵			上長官、本部附士官、隊附士官	本部長、大隊長	下士（本部附、大隊附、中隊附）	各課長、副官、中隊長
軍馬育成所			士官	騎兵局長	下士	所長
蹄鐵學舍						舍長
臨時砲臺建築部			上長官、士官	部長	下士	高級ノ事務官
參謀本部副官部	副官	參謀次長	士官	高級ノ副官		
同第一局、第二局	局長		上長官、士官	局長		
同編纂課	課長			課長		
陸地測量部	部長			部長	下士	各科長、材料主管、副官、修技所幹事
大學校	校長			校長		幹事
監軍部幕僚	參謀長			參謀長		
同各監	各兵監	監軍		各監		

戸山學校	校長			校長	下士 本部附 教官部附	高級ノ副官 各科長
同教導大隊					下士 大隊附 中隊附	大隊附大尉 中隊長
教導團	團長	監軍	上長官、士官	團長	本部附下士	副官
同步、砲兵大隊			上長官 士官	團長 大隊長	下士 大隊附 中隊附	大隊副官 中隊長
同騎、工兵中隊			士官 中隊長 中隊附	團長 中隊長	中隊附下士	中隊長
士官學校	校長	學校監	上長官、士官	校長	下士 本部附 中隊附	高級ノ副官 中隊長
幼年學校						
乘馬學校		騎兵監			下士 本部附 教官部附 廐舍附	副官 高級ノ教官 廐長
砲兵射的學校		砲兵監			下士 本部附 教導中隊附	副官 中隊長
要塞砲兵幹部練習所	所長			所長	下士 本部附 生徒中隊附	副官 中隊長
砲兵會議	議長					
工兵會議		工兵監		議長		
近衛、師團參謀部	參謀長	都督、師團長		參謀長	下士	高級ノ事務官
同副官部						高級ノ副官
武庫			士官			主管
監獄						監獄長
調馬主管						主管
旅團司令部				旅團長	下士	高級ノ副官
大隊區司令部	司令官	旅團長		司令官		副官
武庫				旅團長		主管
監獄						監獄長
步兵聯隊	聯隊長	旅團長	上長官、士官	聯隊長	下士 聯隊、大隊附 中隊附	聯隊、大隊副官 中隊長

騎兵大隊	大隊長	都督、師團長	士官	大隊長	下士 大隊附 中隊附	副官 中隊長
砲兵聯隊	聯隊長		上長官、士官	聯隊長	下士 聯隊、大隊附 中隊附	聯隊大隊副官 副醫官 中隊長
工兵大隊	大隊長		士官	大隊長	下士 大隊附 中隊附	副官 中隊長
輜重兵大隊					下士 大隊附 中隊附 輜重廠附	副官 中隊長 廠長
對馬警備隊	司令官			司令官	下士 本部附 步兵中隊附 砲兵隊附	副官 中隊長 隊長
軍樂隊			士官、准士官	近衛、師團參謀長 戸山學校長	下士	隊長
近衛、師團監督部	部長	會計局長	上長官、士官	部長		各課長
軍吏學舍	舍長			舍長		
陸軍省會計局	次長、各課長			會計局次長		各課長
近衛師團司令部各隊附各官衙附軍吏部			士官	當該監督部長	下士	高級ノ軍吏
中央司契部				會計局次長		司契
被服廠						主管
陸軍省醫務局	次長、各課長	醫務局長		醫務局次長		各課長
近衛、師團軍醫部	軍醫長			軍醫長		高級ノ部員 醫官 藥劑官
軍醫學校	校長		上長官、士官	校長		高級ノ教官
屯田兵衛生部	醫務課長		士官	醫務局次長		醫務課長
各隊附、各官衙附衛生部			上長官、士官	當該軍醫長		高級ノ醫官
衛戍病院衛生部						高級ノ醫官

教導團病院、同各隊附、要塞砲兵幹部練習所附衛生部	院長	當該軍醫長	士官	院長		（藥劑官）
近衛、師團獸醫部				總務局獸醫課長		獸醫長
各隊附獸醫部						高級ノ獸醫
各官衙附獸醫部						

備考　各官衙部軍吏部下士ノ考科調製官ハ本表ニ掲クル如シト雖モ軍吏ノ附屬セサル各官衙ニ在テハ其長若クハ副官等ニ於テ之ヲ調製スヘシ

（參照）陸軍省達第二十三號達（明治八年七月二十五日）
陸軍武官考科表並其概旨別冊之通相定候此旨相達候事（別冊略ス）
陸軍省陸達第百二十七號達（明治二十一年六月八日）
陸軍武官拔擢進級取扱規則別冊ノ通改定ス（別冊略ス）

◎陸軍武官進級取扱規則及陸軍武官考科表規則中追加

明治二十二年七月
陸軍省達第百十五號

本年五月陸達第七十六號陸軍武官進級取扱規則拔擢圖例並陸軍武官考科表規則別表ヘ左ノ通追加セラル

武官進級取扱規則拔擢圖例第一中

被拔擢者	拔擢官	第一第二第三	拔擢判定官	候補者裁決官	除任官
砲工學校	高級ノ副官	校長	砲兵監 工兵監	監軍	校長
	拔擢期	進達期		裁決期	
	每年一月三十一日迄	每年三月三十一日迄	每年八月三十一日迄	每年十月	

同拔擢圖例第二中

被拔擢者	拔擢官	第一第二第三	拔擢判定官	拔擢候補者裁決
砲工學校	校長	砲兵監 工兵監	監軍	陸軍大臣	親裁
	拔擢期	進達期		裁決期
	每年一月三十一日迄	每年三月三十一日迄	每年八月三十一日迄	每年十月

同拔擢圖例第三中

被拔擢者	拔擢官	第一第二	拔擢判定官	拔擢候補者裁決
砲工學校	砲兵監 工兵監	監軍	陸軍大臣	親裁
	拔擢期	進達期		裁決期
	每年一月三十一日迄	每年三月三十一日迄	每年八月三十一日迄	每年十月

武官考科表規則別表中

官衙	考科	調製官	考科	調製官	考科	調製官
砲工學校	校長	砲兵監 工兵監	上長官、士官	校長	下士本部附 廐舍附	高級ノ副官 廐長

●各兵科曹長ニシテ進級條例第二十條ニ當該スル者進達方

明治十九年七月
陸軍省令乙第百十二號

各兵科曹長ニシテ進級條例第二十條ニ當該スル者アルトキハ陸軍武官拔擢進級取扱規則第八條之例ニ準シ拔擢名簿ヲ製シ之ニ所管長官ノ確認書ヲ添ヘ士官學術檢査書額ト共ニ進達スヘシ

●陸海軍將校分限令

明治二十一年十二月
勅令第九十一號

朕陸海軍將校分限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍將校分限令

第一條　將校ハ終身其官ヲ保有シ其制服ヲ着シ其官ニ對スル禮遇ヲ享ク之ヲ將校ノ分限トス

第二條　將校ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ因ルニ非レハ其分限ヲ失フコトナシ

第一　本人ノ請願ヲ許容シ其官ヲ免セラレタルトキ

●陸海軍將校分限令中追加

明治二十二年十二月
勅令第百二十五號

朕陸海軍將校分限令中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍將校分限令第五條ニ左ノ一項ヲ追加ス、第五貴族院令第四條ニ依リ貴族院議員ト爲リタルトキ

第二　日本人タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

第三　重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四　剝官ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第五　禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ヒタルトキ

第六　武官タルノ本分ニ背キ勅裁ニ依リ免官トナリタルトキ

第三條　將校ノ位置ヲ分ツコト左ノ如シ

第一　現役

第二　豫備

第三　後備

第四　退役

第四條　現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者修學ヲ命セラレタル者及陸海軍將官各其部內ノ文官ニ任セラレタル者ヲ云フ休職及停職ニ在ル者ハ現役ニ準ス

休職トハ左ニ掲クル事項ノ一ニ因リ職務ナキ者ヲ云フ

一　解隊

二　廢職

三　定員改正

四　滿期解任
五　俘虜トナリタル者歸朝シ他員已ニ代リテ其職ニ在ルトキ
六　特別ノ職務ヲ終ヘ又ハ修學滿期ニシテ就職ノ命ナキトキ
七　傷痍若クハ疾病六箇月ニ至リ尚快復ノ候ナキトキ但本人ノ請願或ハ職務ニ因リ代員ヲ必要トスルトキハ六箇月ヲ待ツノ限ニアラス
八　本人ノ請願ニ依リ修學ヲ許容シタルトキ
九　陸海軍上長官士官各其部内ノ文官ニ專任シタルトキ

停職トハ其行爲懲戒スヘキコトアリ其情狀稍輕ク在職又ハ就職ヲ停メラルヽ者ヲ云フ但停職者ハ一箇年ノ後ニ非レハ就職スルコトヲ得ス

第五條　豫備トハ年齡滿限ニ至ラスシテ左ニ揭クル事項ノ一ニ因リ現役ヲ退キタル者及一年志願兵ヨリ士官ニ任シタル者ヲ云フ

第一　恩給令ニ依リ旨ヲ諭サレ現役ヲ退キタルトキ
第二　休職ニ入リ五年ニ至リ就職セサルトキ
但第四條第二項ノ第八第九ニ該ル者ハ此限ニアラス
第三　停職ニ入リ二年ニ至リ就職セサルトキ
第四　陸海軍各部外ノ文官ニ專任シタルトキ

第六條　後備トハ年齡滿限ニ至リ現役ヲ退キタル者及豫備滿期ニ至リタル者ヲ云フ豫備後備ノ服役年期ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　退役トハ後備滿期ニ至リタル者又ハ傷痍疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ヘスシテ現役又ハ豫備又ハ後備ヲ退キタル者ヲ云フ

第八條　豫備後備者ハ召集ニ應スヘキモノトス

第九條　本令ハ將校相當官ニ適用ス

附則

第十條　陸軍將校免黜條例將官退職令及海軍將校准將校免黜條例ハ廢止ス

第十一條　陸軍將校免黜條例及海軍將校准將校免黜條例ニ依リ待命若クハ非職タリシ者ノ位置ハ左ノ通之ヲ定ム但陸軍將官ニシテ現ニ陸軍部外ノ文官ニ專任ノ者ハ豫備トス

一　待命ノ者ハ休職トス

二　非職ノ者ハ休職トシ其停職解職ニ因テ非職タリシ者ハ停職トシ其年數ハ各非職タリシ當日ヨリ起算ス但定期ノ年數ヲ越エタル者ハ豫備トス

三　海軍將校ニシテ現ニ海軍部外ノ文官ニ專任ノ者ハ豫備トス

第十二條　海軍將校ニシテ年齡滿限ニ依リテ退職罷役ノ者ハ後備トス

●陸海軍將校及相當官退役ノ際名譽進級ノ件

明治二十三年三月
勅令第二十四號

陸海軍將校及同相當官退役ノ際名譽進級ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸海軍將校及同相當官現役中多年軍務ニ從事シ且ツ戰役ニ於テ功勞アル者ニシテ陸海軍將校分限令第五條第一項第二項第四項第五項及第六條第七條ニ依リ現役ヲ退クトキハ特ニ官等ヲ進ムルコトヲ得但恩給ヲ受クル資格ニ在テハ前官等ニ依ル

●陸海軍將校分限令中休職竝停職者取扱方

明治二十二年二月
陸軍省達第二十號

陸海軍將校分限令第四條ニ揭ク休職竝停職者取扱方左ノ通定ム

但明治八年六月達非職將校概則廢止ス

第一項　休職停職ノ將校竝相當官ハ本籍ニ歸住シ師團司令部ノ管轄ニ屬ス師管外ノ地ニ寄留スル者ハ尙其地師團司令部ノ管理ニ屬ス

第二項　總テ願届ハ所管師團司令部ヘ差出ヘシ

但第一項ノ諸官本籍ニ歸住セス直ニ某地ニ寄留セントスル者ハ舊所管ニ願出ヘシ其願書ヲ受ケタル所管ニ於テ之ヲ許可セシ上ハ本人本籍及寄留地所管師團司令部ヘ通報スヘシ

第三項　師管外ノ地ニ寄留センコトヲ願出ヘシ該所管ニ於テ許可セシ上ハ本人本籍及ヒ寄留地所管師團司令部ヘ通報スヘシ

第四項　寄留地師管ノ兵籍ニ轉セントスル者ハ本籍所管師團司令部ヘ願出ヘシ

第五項　兵籍上異動ヲ生スルトキハ其旨所管師團司令部ヘ届出ヘシ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管師團司令部ヘモ届出ヘシ

第六項　轉地療養又ハ旅行等ノ類ハ所管（寄留者ナレハ其地）師團司令部ヘ届出ヘシ

第七項　准士官ニシテ休職ノ者ハ前諸項ヲ適用ス

●陸海軍士官並同等官以上ノ者ハ試驗ヲ要セス文官ニ任用ノ件

明治二十年十二月
勅令第六十三號

陸海軍士官並同等官以上ノモノ文官ニ任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸海軍士官並同等官以上ノ者ハ更ニ試驗ヲ要セス文官ニ任用スルコトヲ得

●休職停職ヨリ豫備後備又ハ退役等ニ移ル者取扱方

明治二十一年十二月
陸軍省達第二百四十五號

今般勅令第九十一號ヲ以テ陸海軍將校分限令制定相成候ニ付休職停職ヨリ豫備ニ豫備ヨリ後備ニ後備ヨリ退役ニ移リ又ハ本令第五條第四項ニ該ル者ハ辭令ヲ用ヒス都テ本令ニ依リ其位置ニ轉スヘキ儀ト心得ヘシ

但本令第十一條ニ該ル者ハ辭令ヲ用ヒス本令發布ノ當日ヨリ其位置ニ轉セシム

●志願軍吏生、同獸醫生ヲ陸軍軍吏部、獸醫部豫備士官ニ補任方

明治二十三年九月
勅令第百九十五號

陸軍軍吏部竝獸醫部豫備士官ニ補任スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一志願軍吏生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試驗ニ及第シタル者ハ當該監督部長本人所屬隊ノ軍吏ヨリ其勤務勉勵品行方正學術適當ノ者ニシテ軍吏部士官タルヲ得ヘキ保證書ヲ出サシメ且自ラ是認シタル後其意見書ヲ添ヘ三等軍吏ニ補任ノコトヲ會計局長ニ稟申ス會計局長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

大臣ニ進達スヘシ監督部長之ヲ否認シタルトキハ其事由ヲ悉シ會計局長ニ稟申シ會計局長ハ更ニ理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

二志願獸醫生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試驗ニ及第シタル者ヲ獸醫部豫備士官ニ補任スルハ陸軍獸醫部現役士官補充條例第十五條ニ依ル但シ獸醫部士官タルノ資格ナシト認ムルモノハ獸醫長ヨリ其事由ヲ具シテ軍務局獸醫課長ニ呈シ獸醫課長ハ之ヲ審査シテ軍務局長ニ上申シ軍務局長ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ鐵蹄工長ニ任シ豫備役ニ編入ス

●退職罷役ヲ總テ退役ト心得シメ其豫備後備退役者ハ官名ノ上ニ該字ヲ冠セシム

明治二十二年六月
陸軍省告示第十四號

陸海軍將校分限令及陸軍豫備後備將校補充條例制定ニ就テハ退職罷役ニシテ現今後備役タル者ハ自然消滅ス又從前後備軍艦員ヲ畢リ若クハ後備軍艦員タラスシテ退職罷役ノ地位ニ在ル者ハ總テ退役ト心得ヘシ

豫備後備退役ノ者ハ官名ノ上ニ各其豫備後備退役ノ字ヲ冠スル儀ト心得ヘシ

●砲工兵上等監護二等軍樂長ニシテ過員トナリ又ハ疾病ノタメ職務ニ堪難キ者ニハ非職ヲ命ス

明治二十年十一月
陸軍省達第百二十一號

自今砲兵上等監護工兵上等監護二等軍樂長ニシテ一時過員トナリ又ハ疾病ノ爲メ一時職務ニ堪ヘ難キ者アルトキハ非職申付可シ

但其取扱ハ非職將校概則ニ準スル儀ト心得ヘシ

●陸海軍軍人現役定限年齢

明治二十三年六月
勅令第九十九號

朕陸海軍軍人現役定限年齢ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸海軍軍人左ニ掲クル定限年齢ニ達スルトキハ現役ヲ退クヘシ

陸軍

中將	定限年齢　七十年
少將　監督長	同　六十五年
軍醫總監	同　六十年
一等監督　軍醫監	同　五十七年
二三等監督　一二等軍醫正	同　五十四年
藥劑監　獸醫監	同　五十一年
步騎砲工輜重兵大中佐	同　四十八年
憲兵屯田兵大中佐	
一等軍吏　一等軍醫	
一等藥劑官　一等獸醫	
步騎砲工輜重兵少佐	
憲兵屯田兵大尉	
二等軍吏　二等軍醫	
二等藥劑官　二等獸醫	
一等軍樂長　砲工兵上等監護	
步騎砲工輜重兵大尉	
憲兵屯田兵中少尉　三等軍吏	
三等軍醫　三等藥劑官	
三等獸醫　二等軍樂長	

砲工兵監護	諸工長	同　四十五年
諸工下長		
歩騎砲工輜重兵中少尉		
憲兵屯田兵下士	軍吏部下士	同　四十年
衛生部下士	軍樂部下士	同　三十五年
歩騎砲工輜重兵下士		
憲兵屯田兵卒	看護卒	定限年齢　六十五年
樂手補	雜卒　諸卒	同　六十年
歩騎砲工輜重兵卒		
海軍		
中將		
少將	機技總監	
軍醫總監	主計總監	
大佐	機關大監　大技監	
軍醫大監		
主計大監		同　五十五年

少佐	機關少監	
少技監	軍醫少監	
藥劑監		
主計少監		
上等兵曹	軍樂師	同　五十年
機關師	上等技工	
船匠師		
大尉	大機關士	
大技士	大軍醫	同　四十五年
大藥劑官	大主計　下士	
少尉	少機關士　少技士	
少軍醫	少藥劑官	
少主計	卒	同　四十年

第二條　陸海軍軍人定限ノ年齢ニ達スルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ルトキハ留任ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　陸海軍軍人定限ノ年齢ニ達セサルモ現役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル

トキハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸海軍大臣准士官ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

●陸軍軍人傷痍疾病ニテ現役又ハ永久服役在職ニ堪ヘサル者取扱手續

明治二十二年七月陸軍省達第百十二號

陸軍軍人ニシテ傷痍疾病ニ罹リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ノ取扱手續左之通定ム

但明治十三年五月達乙第三十四號達隊外下士免官願云々ヲ廢ス

一陸軍軍人傷痍疾病ニ依リ准士官以上ニ在テ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキ下士以下ニ在テ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキハ軍醫長ノ審査若クハ判定シタル陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ニ依リ准士官以上ハ陸軍大臣成規ニ依リ之ヲ區處シ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官之ヲ區處ス但陸海軍將校分退令第四條第七項ノ職務ニ因リ代員ヲ必要トスル場合ノモノハ此限ニアラス

二陸軍醫官ハ前項ニ依リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサルモノト診斷シタルトキハ診斷證書ヲ製シ之ニ病床日誌ノ寫（病床日誌ヲ作ラサルトキハ病歷書）ヲ添ヘテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ但准士官以上ニ在テハ該書類ヲ本人ニ附與シ本人ハ自己ノ願書ニ之ヲ添ヘ

●陸達第百七十三號　明治二十二年（七月陸達第百十二號）陸軍々人ニシテ傷痍疾病ニ罹リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ノ取扱手續左ノ通加除改正ス　第五項第一節中但書ヲ削ル　同項第二節中「校（所）（團）」ノ下ニ「（舍）」ノ一字ヲ加フ　同項第三節ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ　軍吏部士官下士ニ係ルモノハ所屬長ヨリ其書類ヲ當該監督部長ニ移シ該監督部長ハ當該軍醫長ノ審査（判定）ヲ經テ（陸軍省ニ在テハ所屬長ヨリ）前節ノ順序ニ據リ審査（判定）ヲ經テ（會計局長ニ衛生部下士ニ係ルモノハ所屬長ヨリ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ之ヲ審査（判定）シタル後醫務局長ニ廻申スルモノトス　第八項中割註（「醫務局長次長」トアルヲ（「醫務局長」）ト改ム　同項第三節中割註（「醫務局次長」トアルヲ（「醫務局長課長」）ト改ム

テ所屬長ニ出スモノトス

三陸軍醫官ノ治療ヲ受ケサル准士官以上ニシテ傷痍疾病ニ依リ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト思考スルトキハ自己ノ願書ニ主治醫ノ病況書ヲ添ヘテ所屬長ニ出スヘシ但主治醫ニ於テ病況書ヲ調製シ難キ場合ニ在テハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クヘシ

四陸軍醫官アラサル地ノ下士以下ニシテ傷痍疾病ニ依リ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト其所屬長ニ於テ察セタルトキハ本人ヨリ主治醫ノ病況書ヲ出サシムヘシ

五所屬長ニ於テ第二項第三項第四項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ稟申書（第四項ノ所屬長ハ其現役若クハ永久服役ニ堪ヘサル見込ヲ記入ス）ヲ添ヘテ近衛都督又ハ師團長（屯田兵ニ在テハ司令官以下倣之）ニ呈スヘシ而シテ近衛都督又ハ師團長ハ其書類ヲ當該軍醫長ニ下付シテ審査（判定）セシメタル後第一項ノ取扱ヲナスヘシ

各官廨ニ在テハ其長官諸學校ニ在テハ校（所）（團）舍長、憲兵隊ハ隊長、陸地測量部ハ砲（工）兵會議ハ部（議）長ヨリ該書類ヲ當該軍醫長ニ移シテ其審査（判定）ヲ經タル後准士官以上ハ順序ヲ以テ陸軍大臣ニ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

陸軍省參謀本部監軍部ニ在テハ所屬長ヨリ其書類ヲ第一師團軍醫長（近衛部隊附醫官ノ製シタルモノハ衛軍醫長、醫務局醫官ノ製シタルモノハ醫務局課長）ニ移シテ審査（判定）ヲ經タル後准士官以上ハ陸軍省ニ在テハ陸軍大臣ヘ參謀本部ニ在テハ參謀總長ヘ監軍部ニ在テハ監軍ヘ各順序ヲ經テ進呈シ又總長監軍ハ更ニ之ヲ陸軍大臣ニ移牒ス其下士以下ハ所屬長ヨリ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

軍吏部士官下士ニ係ルモノハ所屬長ヨリ其書類ヲ當該監督部長ニ移シ監督部長ハ當該軍醫長ノ審査（判定）ヲ經テ（陸軍省ニ在テハ所屬長ヨリ前節ノ順序ニ據リ審査（判定）ヲ經テ）會計局長ニ衛生部下士ニ係ルモノハ所屬長ヨリ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ之ヲ審査（判定）シタル後醫務局長ニシテ在職者ノハ永久服役ニ堪ヘテ陸軍大臣ニ呈スヘシ大臣ハ醫務局長ヲシテ之ヲ軍醫長ニシテ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサル者アルトキハ之ヨリ出シタル書類ニ稟申書ヲ添ヘテ陸軍大臣ニ呈スヘシ大臣ハ醫務局長ヲシテ之ヲ審査セシム

六軍醫長ハ診斷證書ヲ病床日誌又ハ病歷書ニ照シテ審査シ適當ト認メタルトキハ之ヲ證明シ不適當ト認メタルトキハ意見書ヲ附シテ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致シ而シテ其各官ハ軍醫長ニ於テ適當ト證明シタルモノハ第五項ノ手續ヲナシ不適當ト認メタルモノハ之ヲ所屬長ニ返付シ再ヒ醫官ヲシテ診斷セシムヘシ

軍醫長ハ病況書ニ就キ其判定證書ヲ作リタルトキハ之ヲ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致スヘシ而シテ其各官ハ該判定證書ニ依リテ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ハ第五項ノ手續ヲナシ然ラサルモノハ其趣ヲ示シテ書類ヲ返付スヘシ

軍醫長ハ病況書ヲ判定スルニ方リ陸軍醫官ノ診斷ヲ必要ト認ムルトキハ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ其意見ヲ申告スヘシ而シテ其各官ハ本人ヲ陸軍醫官（在職者ヲ云フ）ノ所在地ニ呼出シ又ハ陸軍醫官ヲ本人所在地ニ派遣セシメテ診斷セシムヘシ

七陸軍病院入院患者ノ診斷證書ハ病院長參坐ノ上主任ノ醫官之ヲ調製スヘシ但病院長主任タルトキハ參坐ヲ要セス

入院セサル患者ノ診斷證書ハ主任ノ醫官一名ニテ之ヲ調製スト雖モ若シ高級又ハ古參ノ醫官ト協議シタル場合ニ在テハ該醫官ト調製スヘシ而シテ該高級古參ノ醫官ハ參坐ト肩書シテ職官氏名ヲ署シテ捺印スルモノトス

休職停職豫備後備又ハ退役ノ醫官之ヲ調製スルトキハ其府縣國郡市町村番地ヲ肩書シテ官氏名ヲ署シ捺印スヘシ病歷書モ亦同シ

診斷證書ヲ調製スル醫官ハ一等軍醫以上タルヘシ但其不在ノ場合ニ在テハ二三等軍醫之ヲ調製スルコトヲ得

八病床日誌病歷書ハ診斷證書ヲ審査スル爲メニ之ヲ要ス故ニ診斷證書ヲ審査シタル後ハ之ヲ軍醫部（醫務局長課長ノ醫官ニ係ルモノハ醫務局）ニ留メ置クヘシ

九診斷證書病況判定證書並病歷書病況書書式ハ左ノ如シ（書式ハ一ノ文例ヲ示ス故ニ病況書ノ記スヘシ如キハ原因經過療法並現症ヲ殊ニ詳但病況書ノ書式ハ患者ヨリ主治醫ニ示スヘシ

診斷證書書式（用紙在職醫官ニ在テハ美濃十三行罫紙其他ニ在テハ美濃白紙准士官以上ニ在テハ未文ヲ「不堪在職（永久服役）者ト診斷候也」ト書スヘシ）

診斷證書

第何師團何兵第何聯（大）隊第何中隊

陸軍何兵何等卒　氏　名

右何年何月何日何傷ヲ受ケ（何病ニ罹リ）爾來加療候處現今何々ノ症ヲ貽シ何々ノ用ヲ廢スル（妨クル）ニ由リ不堪現役（永久服役）者（生徒ニ在テハ「不堪生徒者」ト診斷候也

何年何月何日

主任職　官氏　名（自印）

參坐

何地衛戍病院長官　氏　名（自印）

右審査候處適當ノ診斷ト認定候也

第何師團軍醫長　氏　名（職印）

病況判定證書書式（用紙美濃十三行罫紙准士官以上ニ在テハ「不堪現役」ノ字ヲ「不堪在職（永久服役）」ト書シ又「在職ニ堪ユヘキ」ノ字ヲ「現役ニ堪ユヘキ」ト書スヘシ）

病況判定證書

第何師團何兵第何聯（大）隊第何中隊

陸軍何兵何等卒　氏　名

右別紙主治醫某ノ病況書ヲ審査候處何年何月何日何傷ヲ受ケ（何病ニ罹リ）現今何々ノ症ヲ貽シ何々ノ用ヲ廢スル（妨クル）ニ由リ不堪現役（永久服役）（現今何々ノ症狀アルモ何々ノ用ヲ廢スル（妨クル）ニ至ラサルニ依リ現役ニ堪ユヘキ）者ト判定候也

何年何月何日

第何師團軍醫長　氏　名（職印）

病歷書書式（用紙美濃罫紙或ハ半紙罫紙）

病歷書

第何師團何兵第何聯（大）隊第何中隊

病名
原因　何々
經過　何々
療法　何々
現症　何々
右之通ニ候也
何年何月何日

病況書書式（用紙美濃罫紙又ハ美濃白紙倶外國ニ在テ主治醫外國人タルトキハ適宜ノ洋紙ニ病名ヲ記シテ其原因經過療法現症ヲ詳記セシムレハ此書式ニ據ラサルモ妨ケナシ）

陸軍何兵何等軍曹　氏　名

職官氏名　印

病況書

何地大隊區副官陸軍何兵大尉　氏　名

稟賦強健嘗テ重病ニ罹リシコトナシ唯何年頃ヨリ春秋ノ際屢々諸關節ニ疼痛腫起ヲ發スルコトアリシモ毎ニ二三週日ニシテ消散セリト然ルニ何年何月何日何地方旅行ノ際驟雨ニ遇ヒ全身大ニ冷濕ヲ被リ同月同日ニ至リ全身違和、四肢倦怠、頭痛ヲ覺ヘ次テ惡寒戰慄ヲ發セリ同日午後之ヲ診スルニ體温三十九度、脉搏百至、舌上白苔ヲ被リ煩渴消スヘカラス諸關節殊ニ右膝關節ノ腫起疼痛最モ

甚シク爲ニ起立歩行スル能ハス尿ハ暗赤色ニシテ靜定スレハ瓦紅色ノ沈澄ヲ生シ大便ハ秘結セリ依テ關節急性複發痿麻質斯ト診定シ直ニ撒里矢爾酸那篤留母何瓦蘭謨ヲ内服セシメ安靜温保ヲ命セシニ一週日ヲ經テ諸關節ノ腫痛ハ大ニ緩解セシモ特リ膝關節ハ諸症依然トシテ退カス體温猶三十八度五六ノ間ニ留マルヲ以テ患部ニ氷罨法及石炭酸水罨法ヲ行ヒ撒里矢爾酸那篤留母何瓦蘭謨ヲ一日間ニ分服セシメ之ヲ持長スルコト二週日ニノ炎症大ニ消退シ體温何度ニ降ルニ何月何日上關ノ際誤テ蹉仆シ右膝ヲ打撞シ爲メニ同關節ノ炎症再ヒ增劇シ體温四十度、脉搏百二十至、患部ノ腫痛甚シク夜間呻吟眠ヲ得ス依テ解熱消炎ノ方ヲ處セシカ何月何日ニ至リ患部ニ波動ヲ觸知スル因テ探膿針ニテ一分ノ液ヲ採リテ檢スルニ果シテ膿汁ナリ故ニ關節急性化膿炎ニ轉シタルモノト診定シ防腐法ヲ嚴守シ切開シテ膿ヲ泄シ石炭酸水ニテ洗滌シ排膿管ヲ挿入シテ防腐繃帶ヲ施シ兼テ持續屈伸法ヲ行ヒシカ爾後疼痛漸ク去リ體温亦下降シ食機再ヒ振フト雖モ尚ホ膝關節ノ强剛ヲ遺スヲ以テ按摩法及他動的運動ヲ試行セシカ遂ニ輕度ノ彎曲ヲ遺シ且削瘦シ爲メニ歩行スルコト能ハス依テ該彎曲ハ全ク治癒ニ至ラサルモノ（急速治癒スルニ至ラサルモ猶何々ノ療法ヲ施セハ或ハ治癒ニ至ルヘシ）ト診定候也

何年何月何日

何府（縣）何國何郡（市）何町（村）番地

主治醫　氏名　㊞

相談醫アルトキハ
同

相談醫　氏名　㊞

十診斷證書ヲ製シタル主任ノ醫官（病況判定證書ニ係ルモノハ軍醫長）ハ下士以下ノ患者ニシテ此手續ニ據リ歸鄉ヲ命セラルヽニ際シ歩行者ナルヤ獨行シ難キモノト認メタルトキハ左ノ證書用紙美濃紙ヲ製シテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ

但當時主任醫官不在ノトキハ他ノ醫官之ヲ調製スルモノトス

第何師團何兵第何聯（大）隊第何中隊

陸軍何兵何等卒　氏名

右ハ診斷證書（病況判定證書）ノ症狀ニ依リ歩行難相成（獨行難相成）者ニ候也

何年何月何日

職　氏名　㊞

十一第二項第三項ノ願書書式左ノ如シ

願書　用紙半紙罫紙又ハ白紙但在外國ニ限リ適宜ノ洋紙ヲ用ユルモ妨ケナシ

某儀

何年何月何日何傷ヲ受ケ（何病ニ罹リ）爾來加療ノ處別紙陸軍醫官診斷證書（主治醫病況書）ノ通現今何々ノ症ヲ貽シ何々ノ用ヲ廢スル（妨クル）ニ由リ難堪在職（永久服役）ト思考候間御詮議ノ上本職被差免度（退役被仰付度）此段奉願候也

何年何月何日

職　氏名　㊞

陸軍大臣侯氏名殿

●教官技術官ノ資格アル者行政官ニ任用

明治二十年十一月
勅令第五十八號

教官技術官ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ行政官ニ任用ノ件

各般ノ學務及特別ノ學術技藝ニ關スル行政官ハ教官技術官ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ任用スルコトヲ得

●陸軍武官命課規則

明治八年十月
陸軍省達第八十五號

陸軍武官命課規則別冊之通相定候條此旨相達候事

但從前相達候諸定則中別冊ト矛盾スル者ハ悉ク廢止候儀ト可相心得事

（別冊）

陸軍武官命課規則

第一條　凡ソ將校及ヒ下士並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ諸某ノ隊ニ屬シ或ハ某ノ事務ヲ司サトルヲ職務ト云ヒ之ヲ命スルヲ課スルト云ヒ之ヲ拜スルヲ就職ト云ヒ之ヲ免スルヲ免職ト云ヒ此職ヨリ彼職ニ轉スルヲ轉職ト云ヒ此職ニ在テ彼職ヲ兼勤スルヲ兼職ト云フ

第二條　下級ノ者上級ノ職ヲ奉スルヲ某職ノ心得ト云ヒ上級ノ者一時不在或ハ闕員ノ時下級ノ者其當務ヲ代理スルヲ某職ノ代理ト云フ譬ヘハ步兵科大尉ヲ以テ步兵大隊長ト爲ス時ハ大隊長心得ト稱シ某局長不在ノ時副長其當務ヲ代理スルヲ某局長代理ト稱スル類ノ如シ

第三條　凡將官及ヒ右同等ノ諸官ニ職務ヲ命シ上長官士官准士官ハ陸軍卿ヨリ上奏シ正院ニ於テ之ヲ命シ然ル後所管長官ヨリ職務ヲ命スヘシ

第四條　下士ニ職務ヲ課スルハ所管長官之ヲ命スルノ權ヲ有スト雖モ他ノ所轄ノ者ヲ採用セント欲スルトキハ先ツ陸軍卿ニ具狀申請スヘシ卿之ヲ許可スルトキハ陸軍省ヨリ本人ニ管轄替ヲ命シ然ル後所管長官ヨリ職務ヲ命スヘシ

第五條　將校及ヒ下士卒並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ諸官ハ陸軍省ニ於テ之ヲ某地ノ出張ト云ヒ一地方ノ常務ニ服スルヲ某地在勤ト云ヒ某地ニ經歷スルヲ巡廻ト云フ

但某鎭臺附ト稱シテ定員アル者即チ裁判主理ノ類ノ如キハ在勤ト命スルノ限ニアラス

第六條　其之ヲ命スル法將官及右同等ノ諸官ハ陸軍卿ヨリ上奏シ正院ニ於テ之ヲ命シ上長官士官准士官ノ陸軍省各局ニ出仕スル者ハ陸軍省ニ於テ之ヲ命シ其下士以下ハ其所管長官ヨリ陸軍卿ニ具狀申請シ卿ノ許可ヲ得テ所管長官ヨリ之ヲ命スル者トス

第七條　其省屬各官廳ニ於テハ出張巡回ハ所管長官之ヲ命シ（長官若クハ長官闕員或ハ不在ノ時長官ノ代理タル上長官若クハ士官ハ陸軍卿ニ上申シ陸軍省ニ於テ之ヲ命スルノ例タリ）在勤ハ陸軍省ニ於テ之ヲ命シ下士以下ハ總テ所管長官ヨリ之ヲ命スル者トス

但兵隊附屬ノ輩ハ其本隊出張或ハ轉移スルトキハ固ヨリ之レニ屬スル者ナレハ別ニ之ヲ命スルコトナシ

第八條　職務ヲ課シ或ハ出張等ヲ命スルトキハ定式ノ達書ヲ用ユ之ヲ辭命ト云フ之ヲ本人ニ下付シ並ニ本人請書ヲ呈スルノ順序ハ官位記ヲ授受スルノ例ニ異ナルコトナシ

第九條　鎭臺ノ司令長官及ヒ砲工兵方面ノ提理其管內ヲ巡視スルハ陸軍卿許可ヲ請フヘシト雖モ事急遽ナルニ遇フトキハ必シモ正例ヲ踐マス然ルトキハ其旨趣ヲ詳細具狀スヘシ

第十條　諸兵卒ヲ此隊ヨリ彼隊ヘ轉シ或ハ會計部卒ヲ此課ヨリ彼課ヘ移ス等皆所管長官ノ許可ヲ請フヘシ然レトモ其所管ヲ變スルハ第四條下士ノ例ニ準ス

第十一條　各官廨及ヒ諸隊ニ附屬スル參謀科將校並會計軍醫馬醫部ノ上長官士官下士官兵卒及ヒ裁判官ハ各其本營ニ統率スト雖モ其職務ヲ課スルニ至テハ各所管長官ニ於テ其等級ニ應シ此規則ニ照準施行スルヿ將校下士卒ノ例ニ異ナルコトナシ

第十二條　士官以上其職務ヲ免セラルヽ者ヲ非職ト云フ非職將校概則ニ詳カナリ爰ニ之ヲ略ス

第十三條　現今武官人員未タ備ハラサルニ付キ往々文官出仕ヲ以テ諸職ニ服セシム

其職務ヲ課スル勅任官ハ將官奏任官ハ上長官判任官ハ下士等外吏ハ卒ニ準ス

●陸軍武官差遣巡回出張命令順序

明治二十年六月
陸軍省達第七十三號

陸軍武官差遣巡回及出張命令ノ順序左ノ通心得ヘシ

一將官並相當官ノ差遣巡回ハ內閣ヨリ各官廨ノ長官タル上長官ノ差遣巡回ハ陸軍省ヨリ之ヲ命ス（長官ノ代理タル者モ之ニ準ス）

一上長官以下ノ差遣巡回ハ所管長官（旅團又ハ營所附下士以下ニ在テハ旅團長營所司令官）之ヲ命ス但所在軍管外ニ係ルトキ及其軍管內ト雖モ職務外ニ係ルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ命スルモノトス

一省內各局出仕ノ准士官以上ノ差遣巡回ハ凡テ陸軍省ヨリ之ヲ命シ下士以下ハ其局長ヨリ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ命ス

一近衛都督鎭臺司令官（代理者モ之ニ準ス）及各官廨長官タル上長官以上ニ在テ職務上出張巡回等ヲ要スルコトアルトキハ其事由ヲ具申シ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但近衛都督鎭臺司令官及校團長其部下野外演習行軍演習並射的演習等實視ノ爲メ往復共日數七日以內ノ地ニ在テハ經伺ニ及ハス出張スルコトヲ得

一旅團長部下ノ演習ニ關シ出張巡回ヲ要スル節ハ近衛ニ在テハ都督鎭臺ニ在テハ司

令官之ヲ命シ若クハ許可スヘシ但鎮臺旅團長部下巡視及ヒ出臺ヲ要スル節モ又同シ

一營所司令官管内出張巡回又ハ出臺ヲ要スル節ハ鎮臺司令官之ヲ命シ若クハ許可スヘシ

●官記紛失ニテ再下附出願者ヘ證狀附與方

明治二十三年二月二十五日
壹第二五七號内閣書記官長ヨリ通牒

從前官記紛失等ニ依リ下附願出ノ節ハ更ニ下附セラレ候處自今右等ノ節官記ハ下附セス左式ノ證狀下附ノ事ニ決定相成候間各廳ニ於テモ右樣御取斗有之度

證狀案

明治何年何月何日何官ニ任スル所ノ官記火災水害ニ罹リ流焼紛失セシ旨ヲ具申スニ依テ此證狀ヲ附與シ其官ニ任セラレタルコトヲ證ス

年月日　官爵　姓名

勅任官並府縣知事及内閣樞密院元老院會計檢査院北海道廳等ノ奏任官ハ

●新規拜命轉任等ノ受書

明治四年九月二十五日
布告無號

新規拜命並轉任等ノ節自今御受書可差出事

但シ御受書差出候日ヲ任官當日ト致候事

●叙任請書式

明治十一年十月二十二日
陸軍省達乙第百五十一號

叙任請書式別紙之通改定候條此旨相達候事

（別紙）

叙任御請書式　△料紙美濃

叙何位
被任何官

名儀

内閣總理大臣爵　姓名　官印

其他ノ奏任官ハ

各省大臣爵　姓名　官印

補何等出仕
右御請申上候也　△判任官ヨリ奏任官ニ轉シ及ヒ新ニ任命ノ曙ハ其本貫ヲ姓名ノ肩ニ記載スヘシ

年月日　△前位

△前官　何位
何官　何某
何等出仕

△奏任官以上
内閣書記官　御中

△新任ノ者ハ（宿所第何區何小區何町何番地）居住寄留
何々幾年何月生
各試補官ヨリ本官ニ昇進ノ者ハ姓名ノミヲ記載スヘシ

奏任官命課判任官其他辭令御請書式　△料紙美濃

名儀

任陸軍何々
被補何等出仕
仰付
申付
年月日　△辭令ノ年月日ヲ記載スヘシ

右御請申上候也
年月日

△判任官以上
陸軍卿宛
△等外
第一局長宛

△前官　何官
何等出仕　何某
何々幾年月日生

△新任ノ者ハ（宿所何大區何小區何町何番地）居住寄留
△近衛各鎮臺教導團下士等其長官ニテ任スル者ハ其長官ニ宛請書スヘシ

● 敍任請書宛名　明治二十年十一月　陸軍省總通第六十二號

敍位受書宛名ノ儀ハ總テ宮内大臣宛ニ有之候條爲御心得此段及通牒候也

● 文官奏任官命課並判任官任官命課其他辭令請書等取扱方　明治二十年四月　陸軍省達第三十九號

文官奏任官命課並ニ判任官任官命課其他辭令請書ヲ請書簿ニ換ヘ左ノ通リ取扱フヘ

シ

但內閣及他ノ官廳ヨリ發達ノ分ハ從前之通リ

一　辭令ヲ直接ニ本人ヘ下附スヘキ各所管團隊等ニ於テ請書簿ヲ備置之レニ辭令文ヲ記シ署名セシムヘシ

一　各駐在官又ハ出張旅行或ハ病氣等ノ事故ニテ自カラ署名シ能ハサル場合ニ在テハ美濃紙縱八ツ切ニ辭令文年月日官姓名ヲ記シ所管團隊ヘ送附スヘシ各所管團隊ニ在テハ之レヲ簿冊ニ貼附スヘシ

一　文武奏任官敘任請書式ハ明治十一年十月達乙第百五十一號之通リ

●陸地測量官任用規則　明治二十二年三月　勅令第三十五號

陸地測量官任用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官任用規則

第一條　陸地測量師ハ陸地測量手中其任ニ適スル者ヲ選ミ陸地測量部修技所ニ於テ二箇年以上高等ノ學科ヲ修業セシメ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第二條　陸地測量手ハ陸地測量部修技所生徒ノ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第三條　本則ニ依リ陸地測量官ニ任セラレタル者他ノ技術官ニ轉任セントスルトキハ技術官任用ノ例規ニ依ル但他ノ技術官ヨリ轉任シタル者ハ此限ニアラス

第四條　本則第一條第二條ニ揭クルモノヽ外技術官其他學術技藝優等ノ者ニシテ陸地測量部ニ於テ實地試業ノ上適當ト認ムルトキハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

第五條　本則施行ノ前陸地測量部ニ出仕スル技術官陸軍屬又ハ傭員ニシテ陸地測量事業ニ從事シ學術技藝優等ナル者ハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

●陸軍下士文官採用規則　明治二十年十二月　勅令第八十三號

陸軍下士文官採用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍下士文官採用規則

第一條　陸軍下士ニシテ左ニ揭クル者ハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

一　戰役若クハ公務上ノ傷痍疾病ニ因リ免官シ尚文官ノ勤務ニ堪ル者

二　再服役以上滿期ノ下士ニシテ精勤證書所持スル者

第二條　陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ試驗ヲ要セスシテ判任官トナルコトヲ得

●陸軍下士文官採用規則舊第一條ノ資格アル者奉職請願期限　明治二十三年六月陸軍省令第十八號

今般勅令第八十六號ヲ以テ陸軍下士文官採用規則中改正相成候處右實施ノ日ヨリ前一箇年以內ニ滿期若クハ

免官ノ者ニシテ爵第一條ノ資格ヲ有シ未タ出願セサル者ハ勅令實施後三箇月間ニ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

第三條　海軍省ヲ除クノ外各官廳ニ於テ判任官ヲ任用スルニハ少クモ五人ニ付一人ハ陸軍下士ノ文官請願者ヲ以テス可キモノトス

第四條　文官タランコトヲ欲スル者ハ服役滿期前六箇月間又滿期若クハ免官後十二箇月間ニ之ヲ請願ス可シ

第五條　請願者ニ於テ教官技術官タランコトヲ望ム者アルトキハ之ヲ採用セントスル官廳ニ於テ相當ノ試驗ヲ施行スルコトヲ得

第六條　請願者ノ名簿ハ本人請願ノ順序ニ從テ調製シ之ヲ陸軍省ニ備置ク可シ

第七條　請願者ノ採用ハ其同年內ニ係ルモノハ第一條各項ノ順序ニ從ヒ其同項內ニ於テハ服役時日ノ多キ者ヨリ採用シ其服役時日ノ同シキ者ハ請願時日ノ順序ニ從ヒ採用ス可シ

第八條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用スルトキハ陸軍省ニ照會シ直ニ本人ヲ其廳ニ呼出ス可シ

第九條　陸軍省ニ於テハ前條ノ照會ニ依リ第七條ニ照シ請願者ノ氏名及履歷書ヲ其官廳ニ交付ス可シ

第十條　請願者ニ於テ其請願ヲ取消サント欲スルトキハ陸軍省ニ屆出可シ

第十一條　本則施行ニ要スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ

●陸軍下士文官採用規則中改正追加

明治二十三年五月勅令第八十六號

陸軍下士文官採用規則中左ノ通改正追加ス

第一條　陸軍下士ニシテ左ニ掲クル者ハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

一　戰役若クハ公務上ノ傷痍疾病ニ因リ免官シ尙文官ノ勤務ニ堪ヘ且伎倆證明書ヲ所持スル者

二　現役七箇年以上服役滿期ノ下士ニシテ伎倆證明書ヲ所持スル者

第二條　陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ前條恰當ノ者ハ試驗ヲ要セスシテ判任官トナルコトヲ得

第四條　文官タランコトヲ望ム者ハ服役滿期前一箇月間又滿期若クハ免役後三箇月間ニ之ヲ請願ス可シ

第七條第二項追加

本人ノ伎倆及任務ノ必要ニ依リテハ前項ノ順序ニ拘ハラス採用スルコトアルヘシ

第十一條　本則施行ニ要スル細則及伎倆證明書ノ規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ

●陸軍下士文官採用細則

明治二十一年二月陸軍省令第二號

●明治二十三年八月陸軍省令第二十五號改正追加

明治二十一年（二月）陸軍省令第二號陸軍下士文官採用細則中左ノ通追加改正ス

陸軍下士文官採用細則第一條第一號書式中診斷書割註ノ下ニ「及伎倆證明書」ノ六字ヲ加ヘ同第二第三號書式中「精勤證書」ヲ「伎倆證明書」ニ改ム

陸軍下士文官採用細則左ノ通定ム

陸軍下士文官採用細則

第一條　本則ト雖トアルモノハ陸軍下士文官採用規則ヲ云フ以下倣之第一條ニ因リ文官奉職ヲ請願セント欲スル者ニシテ第一項ニ該當スル者ハ第二書式及第三書式ニ據ルヘシ

第一書式　料紙美濃紙以下倣之

某戰役（公務上）ノ傷痍（疾病）ニ因リ過ル年月日免官相成候ニ付陸軍下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歴書（陸軍出身後ノ經歷及賞罰等ヲ詳細ニ記載シ正副二通差出スヘシ以下履歴書トアルモノヲ云フ）寫相添此段奉願候也

年月日

某　儀

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍

元何官

姓　名　印

年號月日生

年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

第二書式

來ル（過ル）年月日現役滿期相成候ニ付陸軍下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歴書並ニ精勤證書寫相添此段奉願候也

年月日

（所管長官）

職官姓名殿

第三號書式

過ル年月日現役滿期相成候ニ付陸軍下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歴書並ニ精勤證書寫相添此段奉願候也

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）戶長

姓　名　印

某　儀

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍

兵種隊名（所管）（豫備後備軍職員）

官　姓　名　印

年號月日生

年號月何年何箇月

某　儀

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍

元何官

年月日

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

道廳(府)(縣)郡(區)町(村)戶長　姓名　印

第二條　本則第五條ニ因リ敎官技術官タランコトヲ望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ム者ハ其志願ノ廳名ヲ願書中ニ記載シ又敎官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セシ學術ヲ履歷書中ニ記載シテ差出スヘシ

但シ敎官技術官タルノ志願ヲナシ合格セサル者ハ更ニ普通判任官タルヲ請願スルコトヲ得

第三條　本則第一條ノ資格ヲ有スト雖モ服役以來左ノ項目ニ觸ルヽ者ハ請願スルコトヲ得ス又既ニ請願ノ者ハ其請願無效ニ屬ス

一　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

一　賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタルモノアルトキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣

知事ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第五條　本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試驗ヲ爲セシトキハ其試驗ノ科目及ヒ合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第六條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セシ上ハ直ニ其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條　敎官技術官タランコトヲ望ム者受驗ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ總テ自辨タルヘシ

第八條　本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サントス欲スルトキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルトキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ屆出ツヘシ

●陸軍下士文官請願者伎倆證明書附與規則

明治二十三年五月
陸軍省達第百九號

陸軍下士文官請願者伎倆證明書附與規則ハ別冊ノ通定ム

（別冊）

陸軍下士文官請願者伎倆證明書附與規則

第一條　伎倆證明書ハ陸軍下士現役中行狀端正勤務ノ結果優秀ニシテ其伎倆文官ノ任務ニ適スル者ニ之ヲ證明スル爲メ附與スルモノトス

第二條　伎倆證明書ハ陸軍下士文官採用規則ニ依リ文官奉職志願ノ者ニ附與スルモノナルヲ以テ其資格ナキ者及ヒ文官奉職ノ願意ナキ者ニハ附與スルコトナシ

第三條　陸海軍刑法若クハ普通刑法其他ノ法律規則ニ依リ刑罰ヲ受ケ若クハ懲罰ノ處分ヲ受ケ其犯行ノ性質軍人ノ本分ニ背キ廉耻ノ正操ニ戻リ名譽ヲ汚損シ若クハ傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ勤務缺課多キ者ニハ何等ノ伎倆アルモ伎倆證明書ヲ附與セス

第四條　前條ノ取捨制限ハ第六條ニ揭クル諸官ノ判定ニ任ス

第五條　伎倆證明書ハ現役ヲ離ルヽ前一箇月以內ニ之ヲ附與ス

第六條　伎倆證明書ヲ附與スヘキ者ア ルトキハ現役滿期凡ソ一箇月以前（陸軍下士文官採用規則第一條第一項ノ者ハ免官前）ニ於テ中隊長若クハ直屬ノ長官ハ文官ノ任務ニ適スル伎能ノ要領ヲ擧ケ上申書ヲ作リ本人ノ考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ聯隊長（聯隊ヲ爲サヽル隊ハ其隊長以下同シ）若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ具狀シ同官ヨリ之ヲ附與スヘシ

第七條　伎倆證明書ヲ附與シタル後前條考科表ノ寫ハ順序ヲ經テ所管長官ヨリ陸軍大臣ヘ進達スヘシ

此考科表ニハ考科表規則第一條第四項ニ揭クル技能ノ詳細ヲ解說シ且某官某職ニ適合スヘキ見込ナルコトヲ說明スルモノトス

伎倆證明書書式　料紙辭令紙ニ同シ

伎倆證明書

府（縣）族籍
隊號（所管）
官位勳　姓　名

右現役中行狀端正勤務ノ結果優秀ニシテ其技倆文官ノ任務ニ適スル者ト認定ス因テ此證ヲ附與ス

年　月　日

職官位勳　姓　名　印

●各兵科及其他ノ下士ニシテ失官免官ノ者服役

明治二十三年五月
陸軍省達第九十三號

隊外各兵科下士及士官學校幼年學校戶山學校砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所教導團ノ隊附下士竝軍吏部衞生部ノ下士ニシテ刑法又ハ懲罰令等ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタル者ハ本籍所管師團（騎兵下士ニシテ本籍所管ノ師團ニ騎兵隊ノ設ケナキトキハ最寄師團）ノ各種兵隊ニ編入シ服役セシム可シ憲兵下士及各兵科ヨリ轉科シタル屯田兵下士ニシテ官職ヲ失ヒ若クシハ免

タル者亦同シ但明治九年七月達第百十七號達同十六年十月達乙第百號達廢止ス
（參照）陸軍省達第百十七號達（明治九年七月十五日）
隊外下士曹長軍曹伍長ニ限ル及士官學校教導團等隊附下士犯罪有之黜等竝戒役ノ刑ニ處スル者爾後使用ノ儀最寄鎭臺各種兵隊ノ內ヘ編入定則ノ通服役可爲致候條此旨相達候事
但其本人所轄ノ廳ニ於テ黜等ハ處刑濟戒役ハ滿日ノ後引渡各鎭臺ニ於テハ人員受取候上雙方共其旨可屆出候事
陸軍省達乙第百號達（明治十六年十月二日）
明治九年達第百十七號ヲ以テ隊外下士曹長軍曹伍長ニ限ル等犯罪ニ依リ黜等戒役之刑ニ被處候者取扱方之儀相達置候處自今各兵科下士ニシテ新刑法ニ依リ官職ヲ失ヒ卒トナリタル者ハ總テ右ニ準シ取扱候儀ト可相心得此旨相達候事

●陸軍衛生部下士ニシテ失官免官ノ者服役方

陸軍衛生部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタルトキハ原兵科ニ復シ兵卒トナシ前役ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム但原兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

明治二十三年五月
陸軍省達第九十四號

●軍吏部下士ニシテ失官免官ノ者服役方

陸軍々吏部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタルトキハ原兵科ニ復シ兵卒トナシ軍吏部下士ノ服役年期ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム但原兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

明治二十三年二月
陸軍省達第三十號

●理事主理試驗及同試補事務練習方

明治二十一年三月
勅令第十號

陸理事主理ノ試驗及試補ノ練習ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

●海軍高等武官任用條例

明治二十二年七月
勅令第九十一號

陸理事及主理ハ高等試驗ニ於テ司法官ノ例ニ依リ理事試補ハ陸軍省若クハ陸軍軍法會議主理試補ハ海軍省若クハ海軍軍法會議ニ於テ三年以上事務ヲ練習セシム

陸海軍高等武官任用條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

●明治二十二年十月海軍省達第四百號海軍高等武官任用條例第十二條ノ報告ヲ作ルニハ秘密報告罫紙ヲ用フヘシ

海軍高等武官任用條例

第一條　海軍高等武官ハ少尉候補生少技士候補生少軍醫候補生少藥劑官候補生少主計候補生ヨリ任用ス

第二條　候補生ハ現役海軍軍人トシ其身分ハ奏任ノ待遇ヲ受クルモノトス

第三條　候補生ハ各其本官ノ職務ヲ實地ニ於テ練習スルモノトス

第四條　少尉候補生ハ海軍兵學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

第五條　少技士候補生ハ造船造機造兵及火藥製造ノ各學科ヲ卒業シタル海軍技術學生若クハ相當ノ卒業證書ヲ有シ少技士候補生タランコトヲ志願シ身體檢查學術試驗ニ合格シタル者ヨリ採用ス

第六條　少軍醫候補生ハ海軍軍醫學校ノ全學科ヲ卒業シタル海軍醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ藥劑官候補生タランコトヲ志願シ身體檢查學術試驗ニ合格シタル者ヨリ採用ス

第七條　少藥劑官候補生ハ藥舖開業免狀藥劑師免狀或ハ醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ藥劑官候補生タランコトヲ志願シ身體檢查學術試驗ニ合格シタル者ヨリ採用ス

第八條　少主計候補生ハ總テ海軍少主計候補生採用規則ニ依リ採用ス

第九條　左ニ揭ケル事項ノ一ニ當ル者ハ少技士候補生及少藥劑官候補生ヲ出願スルコトヲ得ス

一　年齡二十年未滿及二十八年以上ノ者

二　禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者

三　賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四　身代限ノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ヘサル者

第十條　候補生ヲ本官トスルニハ一箇年以上試用ノ後學術試驗ヲ行ヒ合格者ニ就キ海軍省ニ於テ候補名簿ヲ作リ本官ニ缺員アル毎ニ順次海軍大臣ヨリ奏上シテ之ヲ任ス

第十一條　候補名簿ハ學術試驗毎ニ合格者ヲ武官名簿ノ順序ニ從フ

第十二條　候補生ヲ直轄スル各長官ハ一箇年以上試用セル各候補生ノ材能品行及勤惰等ノ事實ヲ詳記シ每年一回海軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條　候補生ヲ直轄スル各長官ハ品行不正或ハ傷痍疾病等ノ故ヲ以テ高等武官ニ適セスト認ムル候補生アルトキハ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十四條　候補生學術試驗ニ合格セサルトキハ六箇月ノ後再試驗ヲ行ヒ仍ホ不合格

ノ者ハ之ヲ免ス

附則

第十五條　現今海軍主計學校ニ在ル生徒ハ全學科卒業ノトキ海軍少主計候補生ニ採用ス

●海軍高等武官進級條例　明治二十二年三月勅令第二十二號

朕海軍高等武官進級條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍高等武官進級條例改正ノ件

第一條　海軍高等武官トハ海軍少尉以上及其同等官ヲ云フ而シテ其少尉以上ヲ總稱シテ將校ト云ヒ其同等官ヲ總稱シテ准將校ト云フ

第二條　凡ソ進級ハ超級ノ陞進ヲ許スコトナク而シテ左ニ揭ク實役停年海上勤務ヲ經タル者ニアラサレハ陞進スルコトヲ許サス又缺員ナキトキハ除任ヲ行フコトナシ

		實役停年	實役停年中海上勤務
將校	准將校	三年以上	二年以上
少尉	少機關士	三年以上	二年以上
	少技士	三年以上	二年以上
	少軍醫	三年以上	二年以上
	少藥劑官	三年以上	二年以上
	少主計	三年以上	二年以上

●海軍高等武官進級條例中改正追加　明治二十三年八月勅令第百六十六號

朕海軍高等武官進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第百六十六號、海軍高等武官進級條例中左ノ通改正ス、第十一條中「刑罰」ヲ「處刑」ニ改ム、第十四條中「停年」ヲ「敍任」ニ改ム、第十八條中「進級」ノ下ニ「及大佐ノ少將ニ進ム」ノ九字ヲ加フ

大尉	大機關士	大技士	大軍醫	大藥劑官
少佐	機關少監	少技監	軍醫少監	主計少監
大佐	機關大監	大技監	軍醫大監	主計大監
少將				

大主計	六年以上	三年以上
主計少監	三年以上	二年以上
主計大監	六年以上	三年以上
	三年以上	一年半以上

海上勤務トハ艦船ニ乘組ミ服務スルヲ云フ但機關大監軍醫大監主計大監大技監少技監大技士少技士及大藥劑官少藥劑官ハ海上勤務ヲ要セス

第三條　中將ノ大將ニ進ムハ歷戰者或ハ遠征ニ從事シタル者ニ就キ特旨ヲ以テ親任スルヲ例トス故ニ最下ノ期限ヲ定ムルコトナシ

第四條　大尉及同等官ノ奏任五等ヨリ四等ニ進ムハ實役停年最下期限ノ半數ヲ過キタル者ニ就キ進等セシム大佐及同等官ノ奏任二等ヨリ一等ニ進ムモ亦同シ

奏任四等大尉及同等官竝ニ奏任一等大佐及同等官現役者ノ數ハ各官現員ノ半數ヲ過クルコトヲ得ス

第五條　初メテ大尉又ハ同等官ニ任シ奏任四等ニ敍セラレタル者實役停年海上勤務ノ各半數ヲ過キタルトキハ少佐又ハ同等官ニ進級セシムルコトヲ得初メテ大佐又ハ同等官ニ任シ奏任一等ニ敍セラレタル者ノ少將及同等官ニ進級スルモ亦同シ

第六條　大尉及同等官ハ實役停年海上勤務最下期限ヲ超エタル者ト雖モ大尉及同等官ハ奏任四等ニ大佐及同等官ハ奏任一等ニ進ミタル後ニ非レハ進級セシムルコトヲ得ス

第七條　戰時ニ在テハ各官ノ實役停年海上勤務最下期限ヲ其半ニ減スルコトヲ得

第八條　前諸條ノ進級進等ハ總テ拔擢ヲ以テス但停職中ノ者ハ進級進等セシムルコトヲ得ス

第九條　左ノ場合ニ在テハ前諸條ノ例ニ依ラス進級進等セシムルコトヲ得

一　敵前ニ在テ殊勳ヲ奏シ首將之ヲ全軍ニ布告セシ者

二　戰地ニ在テ人員缺乏シ補除定規ヲ履ム能ハサルトキ

第十條　海上勤務ノ者ニシテ公務ニ原因セサル傷痍疾病其他公務ニ非サル事故ニ依リ陸上ニ在ルノ日數ハ海上勤務ニ算入セス

第十一條　休職停職收禁及刑罰中ノ日數ハ實役停年ニ算入セス但陸海軍將校分限令第四條第二項ノ第二第三第四及第六ニ因リ休職ニ入ル者ハ一箇年限リ算入スルコトヲ得

第十二條　敵ノ捕虜ト爲ルモ正當ノ理由アル者ハ其年月ヲ實役停年ニ算入スルコトヲ得

第十三條　海上勤務最下期限ヲ終ラサレハ進級スルヲ得サルノ諸官ニシテ陸上勤務必要ナルヲ以テ海上勤務ヲ命セサル者ニ限リ實役停年最下期限ヲ超ヘタルトキハ進級セシムルコトアルヘシ但陸上勤務ヲ要セサルニ至リ海上勤務ヲ命セラレ海上勤務最下期限ヲ終ラサル者モ亦同シ

第十四條　海軍大臣ハ上長官士官進級順序ヲ定ムル爲メ各所管長官ヲシテ候補名簿ヲ出サシメ之ヲ將官會議ノ調査ニ付シ決定候補名簿ヲ作ルモノトス

決定候補名簿ヲ作ルノ法ハ候補名簿中ヨリ進級セシムヘキ者ヲ撰拔シ停年順序ヲ以テ其列序ヲ定ム

第十五條　海軍高等武官決定候補名簿ハ海軍大臣ヨリ奏上シ置キ補除ヲ要スル毎ニ其順序ニ從ヒ除任ノ事ヲ奏上スヘシ

第十六條　准士官ハ士官ニ進級スルヲ得サルヲ例トスト雖モ志操確實士官タルニ堪ヘ且學術技藝拔群ノ者ハ臨時檢查ノ上士官ニ進級セシムルコトヲ得

第十七條　進級ノ資格ヲ備ヘタル者ニシテ現役ヲ退キタルトキハ其際豫備又ハ後備ノ位置ニ於テ進級進等セシムルコトヲ得

第十八條　將官及其同等官ノ進級ハ上裁ニ出ルト雖モ先ツ內旨ヲ海軍大臣ニ下シ然ル後除任スルヲ例トス

第十九條　戰軍ノ日ニ方リ戰地ニ臨ム ノ首將ニハ進級補除ノ權ヲ假スコトアルヘシ
ト雖モ其權限ハ上旨ニ出ルヲ以テ之ヲ本條例ニ揭ケス

●海軍少主計候補生採用規則　明治二十二年二月　勅令第十八號

第一條　海軍少主計候補生ハ海軍少主計候補生採用規則ニ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍少主計候補生採用規則

第二條　左ニ揭ル事項ニ當ル者ハ候補生ヲ出願スルコトヲ得ス
一　年齡二十年未滿及二十八年以上ノ者
二　有妻ノ者
三　禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者
四　賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
五　身代限ノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ヘサル者

第三條　候補生ニ採用シタル者ハ一箇年間海軍主計學校ニ於テ修學セシメ卒業ノ後

ハ實地ニ試用シ本官ニ缺員アルトキ順次本官ニ採用ス

第四條　候補生海軍主計學校ニ於テ卒業試驗ニ落第スルトキハ候補生ヲ免ス但成業ノ目的アルモノハ六箇月以內修學セシメ再試驗ヲ行フコトアルヘシ

第五條　候補生海軍主計學校ニ於テ修學中傷痍疾病等ニ因リ課程ヲ踐ミ難クシテ定期中學科ヲ修得シ能ハサル者ハ倘ホ六箇月以內修學セシメ卒業試驗ヲ行フコトアルヘシ但此試驗ニ落第スルトキハ候補生ヲ免ス

第六條　候補生ハ情願ヲ以テ辭退スルコトヲ許サス

第七條　候補生中左ニ揭ケル事項ニ當ル者ハ候補生ヲ免ス

一　品行不正ニシテ改悛ノ目的ナキ者
二　傷痍疾病等ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

●海軍造船學校卒業生ニアラサル者技工ニ任用手續　明治二十三年十一月　海軍省達第三百七十一號

海軍造船工學校卒業ノ生徒ニアラサル者ヲ技工ニ任用ヲ要スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

第一項　海軍部外ヨリ技工ヲ任用スルコトヲ要スルトキハ告示ヲ發スルモノトス

第二項　技工缺員ニ際シ各長官ニ於テ海軍部外ヨリ募集スルヲ要スルトキハ其理由人員及試験科目ヲ取調具申スヘシ

但技工檢查規格ニ依リ試験スルヲ要スルトキハ試験科目ハ具申スルニ及ハス

第三項　技工缺員ニ際シ海軍部内ニ補缺員適當ノ者アルトキハ其理由及試験ノ科目ヲ伺出テ許可ヲ得テ試験シ成績ヲ具ヘテ採用ノ義ヲ具申スヘシ

但技工檢查規格ニ依リ試験スルヲ要スルトキハ前項但書ニ同シ

●海軍准士官並服役滿期下士判任文官ニ任用方

明治二十年十二月
勅令第六十五號

朕海軍准士官並服役滿期下士判任文官ニ任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍准士官並服役滿期ノ下士ハ普通試験ヲ要セス海軍省遞信省鐵道局ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

●准士官職課辭令下附方

明治二十三年七月
海軍省達第二百六十五號

准士官職課辭令ハ左ノ場合ニ於テハ本省ヨリ下附シ其他ハ所管長官ヨリ下附スヘシ

一、准士官ニ進級スルトキ

二、定員改正ニ依リ轉勤轉乘ヲ命スルトキ

三、休職ヲ命シ又ハ休職ヨリ現職ヲ命スルトキ

四、豫備又ハ後備ヲ命スルトキ

●鐵道廳驛長任用方

明治二十三年九月
勅令第二百號

朕鐵道廳驛長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道廳驛長ハ鐵道廳長官別ニ試験規則ヲ定メ之ヲ採用スルコトヲ得

本令發布以前ヨリ驛長ノ職ニ就キ現ニ其事務ヲ執ルモノハ試験ヲ要セス直ニ驛長ニ採用スルコトヲ得

第二項ニ依リ採用セラレタルモノハ普通試験ヲ經ルニ非ラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

●教官技術官ノ資格ヲ有スル者行政官ニ任用方

明治二十年十一月
勅令第五十八號

朕教官技術官ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ行政官ニ任用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各般ノ學務及特別ノ學術技藝ニ關スル行政官ハ敍官技術官ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ任用スルコトヲ得

●出納官吏任命規程　明治二十三年二月　農商務省訓令第五號

出納官吏任命規程左ノ通之ヲ定ム

大林區署

出納官吏任命規程

第一條　大林區本署ノ收入官吏ハ大林區署會計主務ニ命スルモノトス

第二條　小林區署ノ收入官吏ハ當該小林區署長ニ命スルモノトス

第三條　派出所ノ收入官吏ハ當該派出所首席者ニ命スルモノトス

第四條　官行事業場ニ於テ經費ノ現金前渡ヲ要スルトキハ現金前渡ヲ受クル官吏ハ掛員首席者ニ命スルモノトス

第五條　官林境界調査上雇人料ノ現金前渡ヲ要スルトキハ現金前渡ヲ受クル官吏ハ掛員首席者ニ命スルモノトス

第六條　臨時ニ現金前渡ヲ受クル官吏ヲ設クルノ必要アルトキハ其都度農商務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

●出納官吏任命規程第五條更正　明治二十三年十月　農商務省訓令第五十六號

明治二十三年二月農商務省訓令第五號出納官吏任命規程第五條左ノ通更正ス、第五條　官有林野調査上使用スル雇人料及測點標ノ現金前渡ヲ要スルトキ現金前渡ヲ受クル官吏ハ掛員首席者ニ命スル

第七條　前各條ノ主任官ヲ命シタルトキハ其時々官姓名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

●府縣參事官典獄特別任用令　明治二十三年十月　勅令第二百二十七號

府縣參事官及典獄特別任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

府縣參事官典獄特別任用令

第一條　府縣參事官典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル府縣參事官竝典獄ハ高等試驗ヲ經ルニ非レハ各他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

●二等郵便局長任用方　明治二十年十二月　勅令第六十六號

朕三等郵便局長任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

三等郵便局長ハ其地ニ在住シ相當ノ資產アル者ヲ選任スルノ必要アルヲ以テ遞信大臣別ニ採用規則ヲ定メテ之ヲ選任スヘシ但該規則ニ依リ選任シタル三等郵便局長ハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

●三等郵便局長採用規則　明治二十一年四月　遞信省令第二號

明治二十年十二月勅令第六十六號ニ據リ三等郵便局長採用規則左ノ通之ヲ定ム

三等郵便局長採用規則

第一條　三等郵便局長ハ左ノ各款ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用スヘシ

第一款　其三等郵便局所在地ニ在住スル者

第二款　實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者

第三款　日常ノ算筆ニ通スル者

第四款　別ニ定ムル三等郵便局長服務規約ヲ遵奉スル者

第五款　年齡滿二十年以上ノ男子

第二條　誠實ニ職務ヲ奉シタル三等郵便局長老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在官中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タル男子年齡滿十六年以上ニ及フモノハ第一條第五款ノ制限ニ拘ハラス特ニ採用スルコトアルヘシ

第三條　非戶主ニシテ其戶主實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者保証スルニ於テハ其本人ノ資產第一條第二款ニ適合セサルモ特ニ之ヲ採用スルコトアルヘシ

三等郵便局長採用手續

明治二十一年五月遞信省訓令第四號

三等郵便局長ヲ採用スルトキハ左ノ手續ニ依リ之ヲ執行スヘシ　遞信管理局

第一條　三等郵便局長ノ採用ヲ要スルトキ遞信管理局長ハ三等郵便局長採用規則ニ合格スルモノヽ中ニ就キ郵便事務ニ適當ナリト認ル者ヲ選出シ被選人ノ諾否及身元引受人ノ有無ヲ取調ヘ履歷書（書式一號）ヲ添テ之ヲ推薦スヘシ

但辭職出願者又ハ死亡者若クハ場合ヲ除ク外ハ本大臣ノ指揮ヲ待テ後選出スヘシ

第二條　遞信管理局長ハ時宜ニ依リ三等郵便局長ノ選出ヲ郡區長ニ囑托スルコトヲ得

第三條　遞信管理局長ニ於テ三等郵便局長ノ任官辭令書ヲ傳達スルトキハ受書（書式二號）及身元引受証書（書式三號）本人非戶主ナルトキハ戶主ノ保証（書式四號）ヲ差出サシメ之ヲ本大臣ニ報告シ且採用ノ旨ヲ其地方長官及郡區長ニ通知スヘシ其免官ノトキ亦同シ

第四條　三等郵便局長ヲシテ爲替又ハ貯金ヲ取扱ハシムルトキハ遞信管理局長ニ於テ別ニ定ムル規程ノ保証品ヲ徵収スヘシ

第五條　被選人ヨリ差出シタル書類及前條ノ保證品遞信管理局ニ保管スヘシ

書式第一號

三等郵便局長採用規則中改正　明治二十三年五月遞信省令第十一號

明治二十一年（四月）遞信省令第二號三等郵便局長採用規則第一條第二款ニ左ノ但書ヲ追加ス、但滿三年以上郵便又ハ電信非役ニ從事スル官吏ハ記名公債證書ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得

履歴書

道府縣華士族平民

姓　名　印

生年月日

本籍

一道府縣何國何郡區何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父等（現ニ本籍地ニ居住スルトキハ（現今本地ニ居住）ノ數字ヲ本項ニ加ヘ次項ノ現今皆留地ヲ省クヘシ）

住所ノ移動

一何年何月何日何地ニ生レ何年何月何日マテ居住

一何年何月何日何地ニ移轉シ何年何月何日マテ居住

戸籍ノ異動

一何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方ヘ養子入婿附籍等

一何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方ヘ復籍等異動アル毎ニ之ヲ記スヘシ

兵役

○何年何月何日何鎮臺ニ入營何年何月何日何卒トナリ何年何月何日歸休ヲ命セラレ何年何月何日常備役滿期豫備軍ニ編入等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ

學事

一何年何月何日ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月何日ニ至ル所修ノ科目大略何々

一何年何月何日ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月何日卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

職業

一何年何月何日ヨリ何業ヲ營ム（何業ヲ兼子營ム）

一何年何月何日何業ヲ廢ス

一何年何月何日ヨリ何地何會社ニ傭ハレ（給料何圓）何々ノ業務ニ從事シ何年何月何日ニ至テ解傭其間給料ノ增減

一何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何業ニ從事ス

一何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何業ニ從事シ何年何月何日ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

著譯書名ヲ掲クヘシ

官職

一何年何月何日何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月何日解職
其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス以上辭ノ令左ノ如シ
此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ揭ケヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其俸給
等ヲ本文ニ記スヘシ

一何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日マテ何々ノ事務ニ從事シ何年何
月何日辭職以上ノ辭令左ノ如シ
辭令ノ全文ヲ揭ケヘシ

賞罰

一何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ケ其辭令左ノ如シ
辭令全文ヲ揭ケ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ

一何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノタメ罰ヲ受ケ
辭令アルモノハ各其全文ヲ揭ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ記シ又裁判所
ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ

身代限リノ有無

一何年何月何日何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月何日負債辨償濟（身代限ノ
處分ヲ受ケタルコトナシ）

右ノ處分ニ付裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ　右

年月日　姓名印

何遞信管理局長姓名殿

書式第二號

御請書

（此ニ辭令書ノ通リ記載ス）

右御請仕候以上

年月日

遞信大臣姓名殿

書式第三號

印紙

身元引受證書

何國何郡區何町村何某三等郵便局長ニ御採用ニ付身元引受ニ相立候ニ付テハ三等郵
便局長身元引受人御規則ニ從ヒ誠實ニ其責任ヲ盡シ可申候依テ證書差上候也

三等郵便局長
姓名印

年月日

何遞信管理局長姓名殿

書式第四號

印紙

保證書

道府縣何國何郡區何町村何番地住
戶主
族籍職業　姓名印

今般私長次男何某三等郵便局長拜命候ニ付テハ本人奉務中御局ニ對シ万一上納金其他官物等ニ付辨償可仕廉相生候節ハ本人ハ勿論私ノ財産ヲモ盡シ辨納可仕候仍テ證書差上候也

年月日

道府縣何國何郡區何町村何番地住
戶主
族籍職業　姓名印

何遞信管理局長姓名殿

●三等郵便局長ノ採用ニ關シ郡區戶長ヲシテ便宜處辨方

明治二十一年五月遞信省訓令第三號

北海道廳　府縣

三等郵便局長ノ採用ニ關シ郡區長戶長ハ遞信管理局長ノ照會又ハ依托ニ應シ便宜處辨候樣豫メ郡區長戶長ニ達示スヘシ

●三等電信局長選任方

明治二十一年六月勅令第四十五號

脫三等電信局長ノ選任及手當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三等電信局長ハ三等郵便局長ノ例ニ依リテ選任シ手當ヲ支給スヘシ

●郵便及電信局竝郵便爲替貯金局書記補任用方

明治二十三年七月勅令第百二十號

脫郵便及電信局竝郵便爲替貯金局書記補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便電信書記補郵便書記補電信書記補竝郵便爲替貯金局書記補ハ遞信大臣別ニ試驗規則ヲ定メ之ヲ採用スルコトヲ得其規則ニ依リ採用セラレタルモノハ普通試驗ヲ經

ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉任スルコトヲ得ス

●郵便及電信局竝ニ郵便爲換貯金局書記補試驗規則

明治二十三年八月
遞信省令第十六號

明治二十三年七月勅令第百三十號ニ據リ郵便及電信局竝ニ郵便爲替貯金局書記補試驗規則左ノ通之ヲ定ム

郵便及電信局竝ニ郵便爲替貯金局書記補試驗規則

第一條　年齡滿十七歲以上四十五歲以下ニシテ一年以上郵便電信又ハ郵便爲替貯金ノ業務ニ從事シタル者ハ書記補ノ試驗ニ應スルコトヲ得

第二條　郵便電信局郵便局電信局竝ニ郵便爲替貯金局ニ於テ書記補ノ任用ヲ要スル時ハ其局長ハ第一條ニ適合スル者ニ就キ別ニ定ムル試驗手續ニ依リ試驗ヲ執行シタル上其成績ヲ遞信大臣ヘ申出ツヘシ

遞信大臣ハ遞信省文官普通試驗委員ニ下附シテ之ヲ點查セシメ合格者中所要ノ人員ヲ採用スルモノトス

第三條　左ニ揭ク事項ノ一ニ當ル者ハ試驗ヲ要セス直ニ書記補ニ任用スルコトヲ得

一　本規則施行ノ前二年以上郵便電信局郵便局電信局又ハ郵便爲替貯金局ノ雇員トナリ現ニ其職ニ在ル者ニシテ遞信大臣ニ於テ事務ニ熟練シタルト認ムル者

二　遞信省規定ノ電氣通信技術員養成規則ニ依リ電氣通信技術ノ傳習ヲ卒業シ六箇月以上其業務ニ從事シタル者

●北海道廳管下三等郵便局長採用方

明治二十二年四月
遞信省令第五號

北海道廳管下ノ三等郵便局長ハ當分ノ內三等郵便局長採用規則第一條第二款ノ制限ニ滿タサル者ト雖採用スルコトアルヘシ

●東京電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者遞信技手ニ任用方

明治二十一年五月
閣令第八號

東京電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ遞信技手ニ任スルコトヲ得

●高等商業學校主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ各官廳判任官見習ニ任用方

明治二十二年三月
閣令第十號

高等商業學校主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試驗ヲ要セス各官廳判任官見習ヲ命スルコトヲ得

●東京農林學校及舊駒場農學校卒業生任用方

明治二十二年十月
勅令第百十號

朕東京農林學校及舊駒場農學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京農林學校及舊駒場農學校本科卒業生ハ高等試驗ヲ要セス其修メタル學科ニ關スル行政官試補ニ同校別科、舊速成科、舊簡易科、及舊駒場農學校別科卒業生ハ普通試驗ヲ要セス其修メタル學術ニ關スル判任官見習ニ採用スルコトヲ得

●札幌農學校卒業生任用ノ件

明治二十二年十二月
勅令第百三十七號

朕札幌農學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

札幌農學校農學科及工學科卒業生ハ高等試驗ヲ要セス其修メタル學科ニ關スル行政官試補ニ採用スルコトヲ得

●特別認可學校ノ卒業証書ヲ有スル者判任官見習ニ任用ノ件

明治二十二年十月
閣令第二十六號

文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業証書ヲ有スル者ハ普通試驗ヲ要セス各官廳判任官見習ヲ命スルコトヲ得

●營林主事補及森林監守任用方

明治二十年十二月
勅令第八十二號

朕營林主事補及森林監守任用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

林區署所在地方ニ居住シ近接森林ノ狀況並ニ土地ノ慣習ニ通曉セル者ヲ營林主事補及森林監守ニ選任スルノ必要アルトキハ農商務大臣定ムル所ノ採用規則ニ依リ之ヲ選任スルコトヲ得但該規則ニ依リ選任シタル營林主事補及森林監守ハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

●營林主事補及森林監守特別採用規則

明治二十三年三月
農商務省令第四號

營林主事補及森林監守特別採用規則左ノ通改正ス

第一條　大林區署所轄内ニ居住シ森林ノ狀況並ニ土地ノ慣習ニ通曉セル者ヲ營林主事補及森林監守ニ選任スヘキ必要アルトキハ第二十六條ニ掲クル者ヲ除クノ外左ノ科目ニ就キ試驗ヲ行フ

一　現行法令講讀
二　作文
三　算術
四　筆寫
五　當該大林區署所轄內森林ノ狀況及土地ノ慣習
六　簿記
七　地圖（特別ノ必要アルトキ又ハ受驗者ノ望ニ依リ之ヲ試驗ス）

第二條　試驗ヲ受ケント欲スル者竝ニ第二十六條ニ依リ試驗ヲ要セスシテ任用セラルヽ者ハ相當ノ期限內當該大林區署所轄內ニ現住スル者又ハ居住セシコトアル者ニ限ル

第三條　試驗ハ大林區署長ニ於テ署員二名以上ヲ選定シ委員ヲ命シテ之ヲ行ハシムヘシ

第四條　試驗ノ期日ハ大林區署長之ヲ定メ試驗期日二十日前便宜ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第五條　受驗者ノ人員ハ採用スヘキ人員ノ五倍ヨリ少カラサル數ニ限ルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ試驗ノ期日ト共ニ其ノ人員ヲ公告スヘシ

第六條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗期日七日前迄ニ履歷書及第七條ノ證明書ヲ添ヘ願書ヲ當該大林區署ニ差出スヘシ其ノ願書履歷書ハ第一號及第二號書式ニ據リ本人自ラ之ヲ認ムヘシ

第七條　試驗出願者ハ身分職業年齡及免役延期豫備徵員一年志願兵等ニ關スル事項ヲ證明シタル市區町村長ノ證明書ヲ要ス

第八條　第五條ノ場合ニ於テ受驗出願者滿員ノトキハ試驗期日七日前ト雖モ其ノ願書ヲ受理セス

第九條　試驗問題試驗日時割及受驗人心得ハ大林區署長之ヲ定メ各受驗人ニ知悉セシムヘシ

第十條　試驗ノ問題ハ林務ニ關スル事項ヲ參酌シ專ラ實務ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十一條　大林區署長ハ營林主事補ト森林監守ト試驗問題ヲ異ニシ或ハ同一トナスコトヲ得

第十二條　試驗ハ筆記及口述ノ二種トス口述試驗ハ筆記試驗ヲ終リタル後之ヲ行フ

第十三條　受驗人ハ其ノ試驗ヲ受クルノ際受驗人心得及試驗委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ當該試驗委員ヨリ直ニ退場ヲ命スヘシ其ノ退場ヲ命セラレタル者ハ當期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條　不正ノ方法ヲ以テ合格シ其ノ事ノ發覺シタルトキハ合格ノ効ヲ失ヒ又ハ不正ノ方法ヲ以テ合格セント企テタル者ハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　第十四條ニ依リ合格ノ効ヲ失ヒ又ハ之ヲ僞リタル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ百ヲ以テ最上點トシ各科目ノ點數ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ試驗科目ノ數ヲ以テ除シ得タルモノヲ諸科目平均點數トス諸科目平均點數ハ六十點ヲ以テ最下限トシ諸科目平均點數六十點未滿又ハ一科目ノ點數五十點未滿ナルトキハ合格者トスルコトヲ得ス

第十七條　試驗各科目ノ點數ハ一百ヲ以テ最上點トシ各科目ノ點數ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ試驗科目ノ數ヲ以テ除シ得タルモノヲ諸科目平均點數トス諸科目平均點數ハ六十點ヲ以テ最下限トシ諸科目平均點數六十點未滿又ハ一科目ノ點數五十點未滿ナルトキハ合格者トスルコトヲ得ス

第十八條　試驗ヲ經タル各科目ノ點數及其ノ全體ノ効果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ大林區署長上席ヲ以テ試驗ニ列席シタル委員ノ議定シタル平均點數ニ據ル

第十九條　大林區署長ハ試驗ノ終リタル後二十日以內ニ各科目試驗ノ成績ヲ取調ヘ其ノ需用ニ應シ人員ヲ限リ合格者中ヨリ選拔シテ當選者ヲ定メ應答ノ書類ヲ添付シテ上申スヘシ

第二十條　試驗合格者ノ氏名ハ其ノ試驗ヲ終リタル日ヨリ七日以內ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條　本則ニ依リ試驗ヲ受ケテ合格シタル者ハ大林區署長ヨリ營林主事補又ハ森林監守試驗合格證書ヲ附與スヘシ

第二十二條　試驗ニ及第シ合格證書ヲ得テ當選シタル者ヲ採用スルトキハ見習ヲ命シ又ハ本官ニ任ス

第二十三條　營林主事補ト森林監守ト試驗問題ヲ異ニシ森林監守ノ試驗ニ及第シ採用セラレタル者ト雖モ事務熟練ノモノト認メタルトキハ別ニ試驗ヲ要セス營林主事補ニ任用スルコトアルヘシ

第二十四條　試驗合格證書ヲ得テ其ノ際當選セサル者ハ他日當該大林區署ニ於テ需用アルトキ別ニ試驗ヲ要セス採用スルコトアルヘシ

合格證書有效ノ年限ハ其ノ日付ヨリ滿三年トス

第二十五條　試驗合格者中其ノ試驗ノ成蹟ニ據リ營林主事補ノ志願者ヲ森林監守ニ森林監守ノ志願者ヲ營林主事補ニ任用スルコトアルヘシ

第二十六條　左ニ揭ケル者ハ試驗ヲ要セス營林主事補及森林監守ニ任用ス

一　前ニ判任文官ヲ勤メタル者

二　陸軍滿期ノ下士、及陸軍滿期ノ上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者

三　滿二年以上巡查又ハ看守ヲ勤續セシ者

四　滿二年以上府縣立中學校公立小學校ノ教員ヲ勤續セシ者
五　本則施行ノ前ヨリ各官廳ノ雇員トナリ滿二年勤續ノ者
第二十七條　本則ニ依リ任用スルモノハ大小林區署判任官官等俸給令別表ニ據リ其ノ初任營林主事補ハ九等上級以下森林監守ハ十等三級以下ノ月俸ヲ支給ス
見習ヲ命シタルトキハ拾圓以下ノ月俸ヲ支給ス
第二十八條　本則ニ掲クルモノノ外試驗ニ關スル手續ハ大林區署長ノ定ムル所ニ據ル

書式　用紙美濃紙竪横行ノ内ニテ明瞭ニ記載シ一號二號各一通

（第一號）

受驗願

私儀（營林主事補）（森林監守）志願ニ付御試驗被下度別紙履歷書及兵役ニ關スル證明書相添此段相願候也

年月日

族籍戸主又ハ何某嗣子二三男兄弟
職業　氏名　生年月

現住所
氏名印

（何）大林區署長何某宛

何府縣華士族平民

（第二號）

履歷書

氏名
生年月

本籍
一何府縣何市區郡何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父等　現ニ本籍地ニ居住スルトキハ（現今本地ニ居住）ノ數字ヲ加
（次項ノ現今寄留地ヲ省クヘシ）

住所ノ移動
一何年何月何日何地ニ生レ何年何月マテ居住
一何年何月何地ニ移轉シ何年何月マテ居住
（住所ヲ移轉セシ毎ニ之ヲ記スヘシ）

現今寄留地
一何府縣何市區郡何町村何番地（何某方）寄留

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々

一何年何月ヨリ何地官公私立學校ニ入リ何學科ヲ修メ何年何月卒業ス其ノ證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其ノ科目ハ何々

一何年何月何地何學校若クハ其ノ他ニ於テ何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス其ノ證書若クハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ受驗ノ科目ハ何々

職業

一何年何月何日官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職其ノ間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其ノ辭令書寫左ノ如シ

（辭令書寫ハ各其ノ全文ヲ揭クヘシ又私立學校等ニテ辭令書ナキモノハ其ノ俸給等ヲ本文ニ記スヘシ）

一何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日辭職其ノ官記辭令書寫左ノ如シ

（官記辭令書寫ハ各其ノ全文ヲ揭クヘシ）

一何年何月ヨリ何地何會社ニ傭ハレ（給料何圓）何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解傭何年何月何圓增給滅額

一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

一何年何月ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其ノ著譯スル所ノ書名左ノ如シ

（洋書ハ其ノ著譯ノ原名ヲモ揭クヘシ）

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ク其ノ辭令書寫左ノ如シ

（辭令書寫ハ其ノ全文ヲ揭ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ）

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ク其ノ辭令書寫左ノ如シ

（辭令書アルモノハ其ノ全文ヲ揭ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ其ノ事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其ノ要ヲ記シ總テ罰ハ其ノ受罰ノ日數、科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ）

身代限處分ノ有無

一何年何月何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ク

（裁判所ノ申渡書寫ヲ記スヘシ）

一身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

右之通相違無之候也

右

年月日　氏名印

●外務省派遣清國留學生卒業者判任官ニ任用ノ件

明治二十二年二月
閣令第五號

外務省派遣清國留學生卒業者ニシテ在清國公使領事館又ハ在香港領事館附語學生トシテ在清國公使領事館ニ於テ滿三年間勤務シ且ツ其間ニ於テ領事官ノ職務ヲ練習シタル者ハ直ニ同省判任官ニ任スルコトヲ得

●稅關監吏監吏補任用方

明治二十三年七月
勅令第百四十四號

稅關監吏及監吏補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關監吏及監吏補ハ大藏大臣別ニ試驗規則ヲ定メ之ヲ採用スルコトヲ得其規則ニ依リ採用セラレタルモノハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉任スルコトヲ得ス

●巡查ヲ警部警部補ニ任用ノ件

明治二十三年二月
勅令第十號

巡查奉職滿五年以上ノ者ヲ警部警部補ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡查奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試驗試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ警部警部補ニ任用スルコトヲ得

但試驗ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

●看守ヲ看守長看守副長ニ任用方

明治二十三年七月
勅令第百四十六號

看守奉職滿五年以上ノ者ヲ看守長看守副長ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

看守奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試驗試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ看守長看守副長ニ任用スルコトヲ得

但試驗ヲ經スシテ任用シタル看守長看守副長ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

●官職ヲ失ヒタル者元官復任

明治十六年九月
總通第六十八號

刑法第二十三條禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタル者行政處分ヲ以テ之ヲ復スルヿ

ヲ得ルトハ直ニ元官ニ復スル義ニテ順次進級セシムル譯ニ無之義ト承知可有之爲念此段申入候也

●官吏辭職後再ヒ就職スル者ノ制限ヲ定ム

明治二十年四月
閣令第九號

各官廳ニ奉仕スル官吏ニシテ辭職シタル者ハ辭職後滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ就職スルヲ許サス且官等俸給其ニ前官ニ超越スルヲ得ス

●禁錮若クハ贖等ノ刑ニ處セラレタル者復任方

明治十九年五月
陸軍省令乙第八十四號

禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ贖等ノ刑ニ處セラレタル者復任ノ儀各所管長官ニ於テ犯罪ノ性質及悛改ノ情狀ヲ查覈シ復任相當ト認ムルモノハ自今經伺ニ及ハス

●官吏非職條例

明治十七年一月
第三號達（太政官）

官吏非職條例

第一條　官吏（判任官以上并ニ出仕御用掛モ之ニ準ス）奉職中各官廳ノ事務張弛其他疾病等ノ事故ニ因リ本屬長官ハ其僚屬ノ官吏ニ非職ヲ命スルコトヲ得

但勅任官ノ非職ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス

第二條　非職員ハ其本官ヲ奉シテ常ニ其職務ニ從事セス其他總テ在職官吏ニ異ナルコトナシ

第三條　本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ非職員ヲシテ更ニ其職務ニ從事セシムルコトヲ得

非職員復職スルトキ勅任官ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス

第四條　非職ハ三年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第五條　非職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第六條　廣廳廢官ノ際御用滯在ヲ命スル者アルトキハ本條例ニ準據ス

第七條　非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ市町村及學校病院會社其他法人ノ業務ニ從事シ其役員ト爲ルコトヲ得

本屬長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ太政大

●官吏非職條例中改正削除

明治二十三年七月勅令第百三十九號

官吏非職條例中改正ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム、本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

官吏非職條例中左ノ通改正ス、第七條非職員ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ地方病院及農工商陸海學校等ノ社會ノ業務ニ從事シ其役員ト爲リ又ハ商業ヲ營ムコトヲ得但此場合ニ於テハ第五條ノ俸給ヲ支給セス、第八條削除

臣ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス

第八條　非職中第七條ノ業務ニ從事シ其給料ヲ受ルノ時間ハ第五條ノ俸給ヲ支給セス

●非職官吏年限滿期ノ者屆出方

明治二十年一月
大藏省訓令第四號
廳府縣

非職官吏ハ年限滿期ノ日ニ於テ本官自ラ消滅スヘキ筈ニ付其滿期本官消滅ノ者ハ十九年閣令第一號第二條ニ照準シ其旨常省ヘ屆出ヘシ

●技術官ノ休職ニ關スル件

明治二十三年十二月
勅令第二百八十六號

第一條　技術官ノ休職ハ一年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第二條　技術官ノ休職ニ關シ特別ノ規定ナキモノハ總テ官吏非職ノ例ニ依ル

第三條　本令ハ明治二十四年二月一日ヨリ施行ス現ニ休職中ノ者ノ休職期限モ亦同日ヨリ起算ス

●公立學校職員名稱及待遇

明治十九年十二月
閣令第三十五號

公立學校職員ノ名稱ハ尋常中學校及ヒ等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長教諭助教諭書記トシ小學校及ヒ等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長訓導トシ總テ判任ヲ以テ待遇スヘシ

◎第九類

○服制

●文官服制　明治五年十一月　布告第三百三十九號

今般勅奏判官員及非役有位大禮服並上下一般通常之禮服別冊服章圖式之通被相定從前之衣冠ヲ以テ祭服ト爲シ直垂狩衣上下等ハ總テ廢止被仰出候事

但新製之禮服所持無之內ハ禮服著用之節當分是迄之通直垂上下相用不苦候事

一　武官禮服ハ從前之通タルヘキ事

（別冊服章圖式略ス）

●通常禮服製式及着用方　明治六年二月　布告第四十八號

先般禮服製式被仰出候ニ付左ノ通相達候事

一　勅奏官ハ今年十月ヲ限リ大禮服調製可致事

一　判任官ハ大禮服調製致候迄通常禮服ヲ以テ換用不苦候事

一　在職並有位ノ輩ハ當十月ヲ限リ直垂上下換用不相成候事

一　通常禮服地合ハ羅紗其外可爲隨意尤色制ハ規則ノ通可相心得事

●勅奏任官大禮服地質飾章方竝ニ官吏通常禮服ハ（フロックコード）換用方

明治十年九月
舊太政官達第六十五號

勅奏任官大禮服ノ義上下衣袴トモ黒羅紗地金飾章ノ大禮服著用可致事

但朝儀ニ係リ白鼠色ノ下衣袴著用ノ節ハ其旨兼日式部寮ヨリ可及通知事

官吏通常禮服著用ノ塲合ハ黒若クハ紺色ノ上服（英語）（フロックコート）ヲ以テ換用スルヲ得ヘシ

但判任以下各廳長官ノ見込ニヨリ羽織袴ヲ以テ代用爲致不苦候事

●文官大禮服制

明治十九年十二月
宮内省達第十五號

文官大禮服制左ノ通改定ス

改正　文官大禮服制表幷圖

服名	任別	勅任官	奏任官
概	繡色	金	同上
	飾章	五七ノ桐章ニシテ周圍ニ桐ノ唐草ヲ繞ラス	五三ノ桐章ヲ用フ他ハ同上

服名	任別	勅任官	奏任官
則	緣飾章	電紋幅五分但シ電紋ニ附屬ノ章共表中之ヲ緣章ト稱ス	無地單線幅二分五厘俗ニ和蘭繡ト稱ス表中之ヲ緣線ト稱ス
	鈕釦	金製ニシテ中凸ノ圓形ナリ其徑七分全面ニ五七ノ桐章ヲ刻ス下衣ノ分ハ其徑五分五厘トス	五三ノ桐章ヲ用フ他ハ同上
上衣（コート）	地質	表黒羅紗裏白絹	同上
	製式	燕尾服ノ製ニテ背面ノ裾端凡ソ膝（ヒザノオリカヾミ）腦ニ至ルヲ以テ其長サトス腰部ノ左右ニ側嚢ヲ附ス	同上
	襟部飾章	竪襟ニシテ飾章ノ全體ハ項ノ正中ニテ緣共ニ其幅一寸九分前面胸部ニ至ルニ沿ツテ漸次ニ窄シ桐章三箇及ヒ桐ノ唐草ヲ刺繡シ緣章ヲ附ス桐章大サ中央ノ分横九分竪八分左右ノ分横九分竪七分	飾章ハ項ノ正中ニテ緣共ニ其幅一寸三分桐章一箇ヲ付シ緣線ヲ繡ス桐章大サ横一寸竪八分他ハ同上
	袖部飾章	飾章ノ全體ハ緣共ニ其幅三寸五分袖ノ内外兩面ニ桐章各一箇ヲ附シ桐ノ唐草ヲ繞ラシ緣章ヲ付ス桐章大サ横二寸八分竪二寸六分但シ袖口ノ一邊ニハ緣章ヲ付セス袖下ノ縫目ニハ緣章一條ヲ附ス	飾章緣共ニ三寸一分緣袖下、等ニ緣線ヲ付ス其式及ヒ桐章大サ同上
	前面飾章	胸部ノ半面ニ於テ竪ニ全形ノ桐章三箇ヲ附シ其邊端ニハ半形ノ桐章三箇ヲ附ス周圍ニ桐ノ唐草アリ此半面兩箇ヲ合シテ胸部ノ全章トス緣邊ニハ曲折シテ下裾端ニ至ル迄緣章ヲ刺繡ス桐章大サ上ハ横三寸竪二寸八分中ハ横二寸八分竪二寸六分下ハ横二寸六分竪二寸四分半形桐章ノ寸法モ亦之ニ準ス左胸ノ部ニ單行九箇ノ鈕釦アリ但シ上ヨリ第五第六釦ノ間ニ至リ胸部ヲ合スルモノトス	胸部ノ飾章ナシ襟ヨリ直チニ緣線ヲ付シ曲折シテ下裾端ニ至ル
		背面項下ニ桐章一箇ヲ附シ桐ノ唐草ヲ繞ラス桐章大サ横二寸七分竪二寸五分	同上
		背面腰部ノ正中ニ桐章一箇ヲ附シ桐ノ唐草ヲ繞ラス其兩邊ニハ各一箇ノ鈕釦アリ桐章大サ横二寸八分竪二寸七分	項下ノ飾章ナシ
			背面腰部ノ飾章ハ總テ同上但シ兩邊ノ鈕釦ハ桐章ヨリ少シク下ニ附ス

後面飾章		左右ノ側邊ニ翌アリ上ニテ横幅五寸下ニテ横幅五寸四分其端ニ三稜角ヲ作ル竪幅前稜ニテ三寸二分中稜ニテ二寸後稜ニテ三寸六分桐章一箇ヲ附シ桐ノ唐草ヲ繍シ其三邊ニ絲章ヲ付ス桐章大サ横二寸五分竪二寸三分
下衣（ウエスト・コート）	地質及色	地質ハ羅紗ニシテ白色ト黒色トノ二樣アリ但シ白色ノ分ハ特逢アルトキニ用フ
	製式	腰部飾章ノ下ヨリ下裾端ニ至ル迄兩端共ニ絲章ヲ繍シ左右共裾端ニ各一箇ノ鈕釦ヲ附ス
	飾章	胸部ノ開キ方上衣ニ準ス 胸部ニ單行五箇ノ鈕釦ヲ附ス
袴（トローゼルス）	地質及色	總テ下衣ニ準ス
	飾章	左右共ニ外側面ニ電紋ノ刺繍各一條ヲ附ス其幅一寸八分
帽	地質	ブラックビーバル 黒毛羅紗
	製式	山形ニシテ其高サ四寸長サ一尺四寸五分上ニ飾毛アリ
	飾毛	白色駝鳥毛
	飾章	飾章ノ全體絲共ニ其幅二寸一分長サ四寸四分トス中央ニ一箇ノ桐章アリ上下ニ桐ノ唐草ヲ繍シ其周邊ニ絲章ヲ附ス桐章ノ下更ニ一箇ノ鈕釦アリ此飾章ヲ斜ニ帽ノ右側面ニ附ス桐章大サ横一寸竪一寸 桐章ト帽ノ全體トノ間ニ圓形ノ木理形黒絹ヲ挟ム其徑三寸五分

		更ニ右側面ノ前後ニ於テ斜ニ木理形黒絹ヲ附ス其幅一寸八分
		飾章ノ地質ハ特ニ黒羅紗ヲ用フ
劍	製式	總長サ凡ソ二尺六寸三分柄ノ一側面ヨリ絲ニ至ルノ環ヲ附ス一側面ハ絲ニヨッテ圓鍔ハ外面ニ凪曲シ鞘口ヲ覆フ飾章ハ總テ金ヲ以テ製ス
	柄	頭絲共ニ長サ四寸七分柄ハ地ニ細キ繩目ノ金線ヲ纏ヒ更ニ太キ繩目ノ金線ヲ纏フ其數十二、柄中央ニテ幅八分五厘厚サ六分其前後漸次ニ細シ兩側面ニ桐花ノ唐草ヲ刻ス絲共ニ幅三分
	頭	頭上ノ金具共ニ長サ一寸四分頭ノ幅八分厚サ六分桐章一箇ヲ附シ周圍ニ桐ノ唐草ヲ繞ラス
	縁	長サ五分五厘側面ニ鳳首アリ絲ノ中心ヨリ長サ一寸五分五厘
	環	環ノ中央ト柄ノ中央ト其距離ヲ一寸一分トシ環ニ桐花ノ唐草ヲ刻ス
	鍔	鍔面ノ直徑竪一寸四分横二寸六分五厘外面ニ桐章一箇ト桐ノ唐草ヲ透彫トス鍔端鞘身ヲ距ルヿ八分五厘
	鞘	黒革製ニシテ鞘口金具幅七分厚サ四分五厘長サ三寸五分五厘桐ノ唐草ヲ刻ス鞘ノ外面鞘口ヲ距ルヿ一寸六分ニシテ帶留ヲ附ス鐺ノ金具長サ五寸上ニテ幅四分厚サ三分五厘下ニテ幅二分五厘厚サ二分桐花ノ唐草ヲ刻シ其端ヲ球形トス

		右側面前後ノ黒絹其幅ヲ一寸七分トス其式總テ同上
		同上
	製式	同上
	柄	柄ノ地ニ細キ繩目ノ銀線ヲ用フ其他ハ總テ同上
	頭	同上
	縁	同上
	環	同上
	鍔	同上
	鞘	同上

劍	緒	平織ノ金組ニシテ長サ二尺八寸幅四分トス其兩端ヲ束ネテ總ヲ附ス　總ノ蔀ニ銀絲ヲ用フ其他ハ總テ同上
劍	帶	黑羅紗ニテ製シ白絹平織ノ組ヲ附ス　總ノ蔀共ニ長サ二寸三分總ノ中央ニテ四徑一寸一分
		（繪圖略ス）

●文官大禮服從前ノ分ハ標條ヲ除キ着用スルモ苦シカラス

明治十九年十二月
宮內省達第十六號

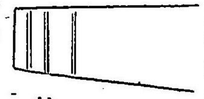
文官大禮服制改定ノ處從前ノ服ハ當分標條ヲ除キ著用スルモ苦シカラス

●八等九等相當掌典大禮服飾章ヲ定ム

明治十八年十月
舊太政官達第五十六號
官省院廳府縣

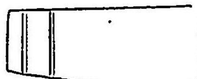
式部職中八等相當九等相當掌典大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

掌典八等相當



線五厘

掌典九等相當



飾章繡色奏任等一般ノ例ニ從フ

線無之

●東宮職勅奏任官大小禮服徽章表

明治二十二年十二月
宮內省達第二十六號

東宮職勅奏任官大禮服小禮服ヲ制定スル左ノ如シ

東宮職勅奏任官大禮服徽章表

上衣		勅任官	奏任官
式	地質	深黑紺羅紗	同上
製	前面	竪襟胸部ニ合シ腰間ヨリ漸ク開キ斜メニ流レ裾ニ至ル襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模様十三枝ヲ金繡ス　笹縁ハ總テ幅五分ノ電紋金線ヲ施シ腰部ノ兩側ニ襲各一箇ヲ付シ之レニ又菊模様ヲ金繡ス	四等以上ハ襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模様九枝五等以下ハ七枝ヲ金繡ス　笹縁ハ總テ幅四分ノ凸凹金線ヲ附ス他ハ上ニ同シ
	後面	腰下ヲ割キ其兩端裾ニ至ルノ間電紋縁竪菊模様又脊部ニ下リ菊模様二枝乗留ノ所ニ上リ菊模様三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付著ス	腰部ヲ割キ其兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ乗留ノ所ニ上リ菊模様三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付著ス
	袖章	袖口ヨリ三寸ヲ去リ電紋金線一條ヲ繞シ後部縫ヒ合セヨリ折レ口先キニ及ホシ其內半面ニ下リ菊模様二枝ヲ金繡ス	袖口ヨリ三寸ヲ去リ凸凹金線ヲ繞ラス他ハ上ニ同シ只五等以下ハ下リ菊模様一枝ヲ付ス
	領章	電紋金線二條ヲ付シ內ニ菊模様二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩花相對ス	凸凹金線二條ヲ付シ內ニ菊模様二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩當相對ス
	肩章	太サ徑四分ノ金繩二條ヲ糾合ス長サ凡ソ四寸五分ト定ムレトモ肩幅ノ長短ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ上衣ニ付著スルニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ヲ以テス	

下衣	地質	白羅紗特別大禮ノトキ用フ
		深黒紺羅紗
	釦釦	金製五七ノ桐徑五分トス距離二寸
		同上
	製式	胸部ヨリ下及腰圍ニ無紋金線幅三分ノ縁チ付ス
		同上
袴	地質	白羅紗特別大禮ノトキ用フ
		深黒紺羅紗
	製式	左右側面ニ一條ノ雷紋金線チ付ス其幅一寸
		左右側面ニ一條ノ無紋金線チ付ス其幅一寸
		同上
帽	地質	黒ノ毛天鵞絨
	製式	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ムレトモ頭ノ大小ニヨリ少シク伸縮チ加フ頂ノ緑端ニ白ノ飾毛チ付ス
		同上
	右側章	菊模様一枝チ上ニ向ケ斜メニ付シ幹邊ニ徑七分五厘ノ金製五七ノ桐釦チ以テ帽ニ付著ス模様ニ沿フテ兩端ニ幅三分ノ雷紋線チ置ク其間一寸五厘トス又兩邊ニ紅白日章ノ形チ現ス紅ハ幅二分白ハ四分
		菊模様ノ兩端凸凹線チ付ス他ハ上ニ同シ
	頂緑章	兩側ニ幅三分ノ雷紋金線二條チ付シ其間六分五厘ノ中ニ菊模様チ金繍ス
		飾毛黒他ハ上ニ同シ
	劒	總長サ凡ソ二尺六寸三分柄ハ斑鼈甲金線チ螺纏シ長サ四寸五分鞘ハ黒革卷鯉口二寸六分鐺五寸其柄頭弓形環鐺等ノ地ハ都テ石目彫刻模様ハ菊唐草
		柄ハ黒鮫他ハ上ニ同シ

圖樣ハ明治十七年十月二十九日達侍從武部兩職勅奏任官大禮服制ニ同シ

東宮職勅奏官小禮服徽章表

		勅任官	奏任官
上衣	地質	深黒紺羅紗	同上
	製式 前面	通常禮服ノ製ノ如ク腰下テクリ去リ後裾ニ及ホシ上襟及袖口ヨリ三寸ノ部分ニ黒天鵞絨チ付シ左右ニ一號釦釦八箇即チ半面ニ四箇宛ヲ付ス	袖口ノ黒天鵞絨チ除ク他ハ上ニ同シ
	後面	乘留ノ兩邊ニ一號釦二箇宛ニ裾チ離ル凡三四寸ノ位置兩端ニ同シク一號釦各一箇チ付ス	同上
下衣	地質	白羅紗及ヒ白リンチル	同上
		深黒紺羅紗	同上
	製式	襟大反シ二號釦釦三箇チ付ス	同上
袴	地質	深黒紺羅紗	同上
	製式	通常ノ製ニ均シ	同上
帽	地質	黒ノ毛天鵞絨	同上
	製式	山形長サ一尺三寸五分頂緑ニ駝鳥ノ黒毛チ付シ緑端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條チ置ク	緑端ノ金線チ除ク他ハ上ニ同シ

右側章		上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線二條ヲ付ス其間六分五厘線外ニ紅白ノ日章ヲ現ス紅ノ幅二分白四分トス線内ノ下部ニ一號鈕釦ヲ以テ帽ニ付者ス
鈕釦	一號	金製五七ノ桐徑七分
	二號	金製五七ノ桐徑四分五厘
劍		大禮服ノ劍ニ同シ

圖樣ハ明治二十一年十月八日宮內省達第十九號主殿寮勅奏任官服制ニ同シ

◉主殿寮勅奏任官服制　明治二十一年十一月　宮內省達第二十二號

主殿寮勅奏任官服制左表ノ通リ相定ム

主殿寮勅奏任官大禮服徽章表

勅任官		奏任官
上製	地質	深黑緋羅紗
前面		竪襟胸部ニ合シ腰間ヨリ漸ク開キ斜メニ流レ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模樣九枝横菊模樣十三枝ヲ金繡ス笹緣ハ總テ幅五分ノ電紋金線ヲ施シ腰部ノ兩側ニ襲各一箇ヲ付シ之レニ又菊模樣ヲ金繡ス	襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模樣九枝乘留ノ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ釦釦二箇ヲ付著ス
		同上

衣	式	後面	腰下ヲ割キ其兩端裾ニ至ルノ間電紋綾及竪菊模樣久脊部ニ下リ菊模樣二枝乘留ノ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ釦釦二箇ヲ付著ス
		袖章	袖口ヨリ三寸ヲ去リ電紋金線一條ヲ繞ラシ後部縫ヒ合セヨリ折レ口先キニ及ホシ其內每半面ニ下リ菊模樣二枝ヲ金繡ス此部分地質緋天鵞絨
		領章	電紋金線二條ヲ付シ內ニ菊模樣二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩花相對ス此部分地質緋天鵞絨
		肩章	太サ徑四分ノ金繩二條ヲ斜合ス長サ凡四寸五分ト定ムレトモ肩幅ノ長短ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ上衣ニ付著スルニ金製玉七ノ桐徑七分五厘ノ釦釦ヲ以テス
下衣	地質		白羅紗特別大禮ノトキ用フ
			深黑緋羅紗
	釦釦		金製五七ノ桐徑五分ト距離二寸
	製式		胸部ヨリ下及腰圍ニ無紋金線幅三分ノ線ヲ付ス
袴	地質		白羅紗特別大禮ノトキ用フ
			深黑緋羅紗
	製式		左右側面ニ一條ノ電紋金線ヲ付ス其幅一寸

衣式	後面	腰下ヲ割キ其兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ乘留ノ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ釦釦二箇ヲ付著ス
	袖章	袖口ヨリ三寸ヲ去リ凸凹金線ヲ繞ラス他ハ上ニ同シ
	領章	凸凹金線二條ヲ付シ內ニ菊模樣二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩當相對ス
	肩章	
下衣	地質	同上
	釦釦	同上
	製式	同上
袴	地質	同上
	製式	左右側面ニ一條ノ無紋金線ヲ付ス其幅一寸

帽　地質	黒ノ毛天鵞絨	同上
帽　製式	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ムレトモ頭ノ大小ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ頂ノ縁端ニ白ノ飾毛ヲ付ス	飾毛黒他ハ上ニ同シ
帽　右側章	菊模様一枝ヲ上ニ向ケ斜メニ付シ幹邊ニ徑七分五厘ノ金製五七ノ桐鈕釦ヲ以テ帽ニ付着ス模様ニ沿フテ両端ニ幅三分ノ霞紋線ヲ留ク其間一寸五厘トス又両邊ニ紅白日章ノ形ヲ現ス紅ハ幅二分白ハ四分	菊模様ノ両端凸凹線ヲ付ス他ハ上ニ同シ
帽　頂線章	両側ニ幅三分ノ霞紋金線二條ヲ付シ其間六分五厘ノ中ニ菊唐草模様ヲ金繡ス	
劔	惣長サ凡二尺六寸三分柄ハ斑鼈甲金線ヲ纒繞シ長サ四寸五分鞘ハ黒革登鯉口二寸六分鐺五寸其柄頭弓形環鐺鐔等ノ地ハ都テ石目彫刻模様ハ菊唐草	柄ハ黒鮫他ハ上ニ同シ

一圖式ハ明治二十一年十月宮內省達第十九號主獵局勅奏任官服制ニ同シ

主殿寮勅奏任官小禮服徽章表

	勅任官	奏任官
上衣　地質	深黒紺羅紗	同上
上衣　製式　前面	通常禮服ノ製ノ如ク腰下ヲクリ去リ後裾ニ及ホシ上襟及袖口ヨリ三寸ノ部分ニ黒天鵞絨ヲ付シ左右ニ一號鈕釦八箇即チ半面ニ四箇宛ヲ付ス	袖口ノ黒天鵞絨ヲ除ク他ハ上ニ同シ
上衣　製式　後面	乗留ノ両邊ニ一號鈕釦二箇並ニ裾ヲ離ル凡三四寸ノ位置両端ニ同シク一號鈕釦各一箇ヲ付ス	同上

	勅任官	奏任官
下衣　地質	白羅紗及ヒ白リンチル／深黒紺羅紗	同上／同上
下衣　製式	襟大反シ二號鈕釦三箇ヲ付ス	同上
袴　地質	深黒紺羅紗	同上
袴　製式	通常ノ製ニ均シ	同上
帽　地質	黒ノ毛天鵞絨	同上
帽　製式	山形長サ一尺三寸五分頂線ニ駄鳥ノ黒毛ヲ付シ縁端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條ヲ置ク	縁端ノ金線ヲ除ク他ハ上ニ同シ
帽　右側章	上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線二條ヲ付ス其間六分五厘線外ニ紅白ノ日章ヲ現ス紅ノ幅二分白四分トス線内ノ下部ニ一號鈕釦ヲ以テ帽ニ付着ス	同上
鈕釦　一號	金製五七ノ桐徑七分	同上
鈕釦　二號	金製五七ノ桐徑四分五厘	同上
劔	大禮服ノ劔ニ同シ	同上

一圖式ハ明治二十一年十月宮內省達第十九號主獵局勅奏任官服制ニ同シ

●主殿寮勅奏任官大禮服徽章表中追加

明治二十二年十月
宮内省達第十九號

明治二十一年十一月宮内省達第二十二號主殿寮勅奏任官大禮服徽章表中奏任官ノ下ニ(四等以上)ノ四字ヲ注シ同表ノ末尾ニ左ノ一項ヲ追加ス

一奏任官五等六等ニ在テハ上衣前面ノ菊模様ヲ七枝トシ袖章ノ菊模様ヲ一枝トス

●主獵局勅奏任官服制

明治二十一年十月
宮内省達第十九號

主獵局勅奏任官服制左ノ通リ相定ム

主獵局勅奏任官大禮服徽章表

	勅任官	奏任官自一等至四等	奏任官五等六等
上 地質	深黒紺羅紗	同上	同上
上 製 前面	竪襟胸部ニ合シ腰間ヨリ漸ク開キ斜メニ流レ裾ニ至ル襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模様十三枝ヲ金繡ス笹縁ハ總テ幅五分ノ電紋金線ヲ施シ腰部ノ兩側ニ囊各一箇ヲ付シ之レニ又菊模様ヲ金繡スル圖ノ如シ	襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模様九枝ヲ金繡ス笹縁ハ總テ幅四分ノ凸凹金線ヲ付ス他ハ上ニ同シ	襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模様七枝ヲ金繡ス他ハ上ニ同シ

	衣				下衣		
	式						
	後面	袖章	領章	肩章	地質	鈕釦	製式
	腰下ヲ割キ其兩端裾ニ至ルノ間電紋縁及竪菊模様又脊部ニ下リ菊模様二枝乗留ノ所ニ上リ菊模様三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付着スル圖ノ如シ	袖口ヨリ三寸ヲ去リ電紋金線一條ヲ繞ラシ後部縫ヒ合セヨリ折レ口先キニ及ホシ其内毎半面ニ下リ菊模様二枝ヲ金繡ス圖ノ如シ此部分地質深萌黄天鵝絨	電紋金線二條ヲ付シ内ニ菊模様二枝ヲ金繡ス其両幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩花相對ス此部分地質深萌黄天鵝絨	太サ徑四分ノ金繩二條ヲ糾合ス長サ凡四寸五分ト定ムレトモ肩幅ノ長短ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ上衣ニ付着スルニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ヲ以テス	白羅紗特別大禮ノトキ用フ 深黒紺羅紗	金製五七ノ桐徑五分トス距離二寸	胸部ヨリ下及腰圍ニ無紋金線幅三分ノ縁ヲ付圖ノ如シ
	腰下ヲ割キ其兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ乗留ノ所ニ上リ菊模様三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付着スル等圖ノ如シ	袖口ヨリ三寸ヲ去リ凸凹金線ヲ繞ラス他ハ上ニ同シ	凸凹金線二條ヲ付シ内ニ菊模様二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩雷相對ス		同上	同上	同上
	同上	菊模様ノ金繡一枝他ハ上ニ同シ	同上		同上	同上	同上

袴	地質	白羅紗特別大禮ノトキ用フ	同上	同上	同上	同上	同上
	製式	深黑紺羅紗	同上	同上	同上	同上	同上
		左右側面ニ一條ノ電紋金線ヲ付ス其幅一寸圖ノ如シ	左右側面ニ一條ノ無紋金線ヲ付ス其幅一寸圖ノ如シ	同上	同上	同上	同上
帽	地質	黑ノ毛天鵝絨	同上	同上	同上	同上	同上
	製式	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ムレトモ頭ノ大小ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ頂ノ緣端ニ白ノ飾毛ヲ付ス	飾毛黑他ハ上ニ同シ	同上	同上	同上	同上
	右側章	菊模樣一枝ヲ上ニ向ケ斜メニ付シ幹邊ニ徑七分五厘ノ金製五七ノ桐鈕釦ヲ以テ帽ニ付着ス模樣ニ沿フテ兩端ニ幅三分ノ電紋線ヲ置ク其間一寸五厘トス又兩邊ニ紅白日章ノ形ヲ現ス紅ノ幅二分白ハ四分圖ノ如シ	菊模樣ノ兩端凸凹線ヲ付ス他ハ上ニ同シ	同上	同上	同上	同上
	頂緣章	兩側ニ幅三分ノ電紋金線二條ヲ付シ其間六分五厘ノ中ニ菊模樣ヲ金繡スル圖ノ如シ					
劒		總長サ凡二尺六寸三分柄ハ斑鼈甲金線ヲ螺纏シ長サ四寸五分鞘ハ黑革卷鯉口二寸六分鐺五寸其柄頭弓形環鐺鍔等ノ地ハ都テ石目彫刻模樣及下ケ緒圖ノ如シ	柄ハ黑鮫下ケ緒ハ圖ノ如ク他ハ上ニ同シ				

（繪圖略ス）

主獵局勅奏任官小禮服徽章表

	勅任官	奏任官
上衣 地質	深黑紺羅紗	同上
上衣 製式 前面	通常禮服ノ製ノ如ク腰下ヲクリ去リ後裾ニ及ボシ上襟及袖口ヨリ三寸ノ部分ニ深萌黃天鵝絨ヲ付シ左右ニ一號鈕釦八箇即チ半面ニ四箇宛ヲ付ス圖ノ如シ	袖口ノ深萌黃天鵝絨ヲ除ク他ハ上ニ同シ
上衣 製式 後面	乘留ノ兩邊ニ一號鈕釦二箇並裾ヲ離ル凡三四寸ノ位置兩端ニ同シク一號鈕釦各一箇ヲ付ス圖ノ如シ	同上
下衣 地質	白羅紗及ヒ白リン子ル	同上
下衣 地質	深黑紺羅紗	同上
下衣 製式	襟大反シ二號鈕釦三箇ヲ付ス圖ノ如シ	同上
袴 地質	深黑紺羅紗	同上
袴 製式	通常ノ製ニ均シ	同上
帽 地質	黑ノ毛天鵝絨	同上
帽 製式	山形長サ一尺三寸五分頂緣ニ駄鳥ノ黑毛ヲ付シ緣端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條ヲ置ク	緣端ノ金線ヲ除ク他ハ上ニ同シ

右側章	上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線二條ヲ付ス其間六分五厘線外ニ紅白ノ日章ヲ現ス紅ノ幅二分白四分トス線内ノ下部ニ一號鈕釦ヲ以テ帽ニ付著ス圖ノ如シ	同上	
鈕釦 一號	金製五七ノ桐徑七分	同上	
鈕釦 二號	金製五七ノ桐徑四分五厘	同上	
劍	大禮服ノ劍ニ同シ	同上	

（繪圖略ス）

●主馬寮中頭權頭助權助車馬監調馬師服制 明治廿一年十二月宮内省達第廿四號

主馬寮中頭權頭助權助車馬監調馬師服制左表ノ通リ相定ム

大禮服		頭	權頭助權助	車馬監	調馬師
上	地質	深黑紺羅紗	同上	同上	同上
上	製 前章	竪襟胸部ニ合シ腰間ヨリ漸ク開キ斜メニ流レ裾ニ至ル襟ヨリ裾ニ至ルノ間半面ニ横菊模樣十三枝ヲ金繡ス笹緣ハ總テ幅五分ノ電紋金線ヲ施シ腰部ノ兩側ニ囊各一箇ヲ付シ之レニ又菊模樣ヲ金繡ス	襟ヨリ裾ニ至ルノ間各半面ニ横菊模樣九枝ヲ金繡ス笹緣ハ總テ幅四分ノ凸凹金線ヲ付ス他ハ上ニ同シ	竪襟背廣形襟ヨリ腰部ニ至リ曲折シテ後面ニ及フノ間各半面ニ菊模樣斜メニ七枝ヲ金繡シ側囊ヲ除ク笹緣ハ上ニ同シ	菊模樣六枝ヲ金繡ス他ハ上ニ同シ

衣						下	
式							
後章	袖章	領章	肩章	地質	鈕釦	地質	鈕釦
腰下ヲ割キ其兩端裾ニ至ルノ間電紋緣及竪菊模樣又背部ニ下リ菊模樣二枝乘留ノ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付著ス	袖口ヨリ三寸ヲ去リ電紋金線一條ヲ繞ラシ後部縫ヒ合セヨリ折レ口先キニ及ホシ其内毎半面ニ下リ菊模樣二枝ヲ金繡ス此部分地質緋羅紗	電紋金線二條ヲ付シ内ニ菊模樣二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩花相對ス此部分地質緋羅紗	太サ徑四分ノ金繩二條ヲ斜合ス長サ凡四寸五分ト定ムレトモ肩幅ノ長短ニヨリ少シク伸縮ヲ加フ上衣ニ付著スルニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦ヲ以テス	深黑紺羅紗	金製五七ノ桐徑五分トス距離二寸	同上	同上
腰下ヲ割キ其兩端ハ單ニ凸凹金線ヲ付シ乘留ノ所ニ上リ菊模樣三枝ヲ金繡シ其兩邊ニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ鈕釦二箇ヲ付著ス	袖口ヨリ三寸ヲ去リ凸凹金線ヲ繞ラス他ハ上ニ同シ	凸凹金線二條ヲ付シ内ニ菊模樣二枝ヲ金繡ス其兩幹前部ノ左右ヨリ各一幹ヲ起シ後部ニ至リ兩當相對ス他ハ上ニ同シ		同上	同上	同上	同上
背後下端ノ中心ヨリ菊幹ヲ交叉シテ左右ニ起ス	彎形菊模樣一枝ヲ金繡ス他ハ上ニ同シ	同上	太サ徑四分ノ金繩二條ヲ斜合シ肩上ノ一端ニ桐章ヲ付シ金繩ノ襷ヲ付ス	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	右方ニノミ襷ヲ添テ付ス他ハ同上	同上	同上	同上	同上

衣	製式	胸部ヨリ下及腰圍ニ無紋金線幅三分ノ緣チ付ス
	地質	白羅紗
	裁式	乘馬袴キロット形
袴	地質	黑ノ毛天鵞絨
帽	製式	山形長サ一尺五寸高サ凡四寸五分ト定ムレトモ頭ノ大小ニヨリ少シク伸縮チ加フ頂ノ緣端ニ白ノ飾毛チ付ス
	右側章	菊模樣一枝チ上ニ向ケ斜メニ付シ幹ノ一端ニ徑七分五厘ノ金製五七チ付ス他ハ上ニ同シ 菊模樣ノ兩端凸凹線ノ桐鈕チ以テ帽ニ付ス模樣ニ沿フテ兩端ニ幅三分ノ龍紋線チ置ク其間一寸五厘トス又兩邊ニ紅ノ日章ノ形チ現ス紅ノ幅二分白ハ四分
	頂緣章	兩側ニ幅三分ノ電紋金線二條チ付シ其間六分五厘ノ中ニ菊模樣チ金繡ス
劍		總長サ凡二尺六寸三分柄ハ班鼈甲金線チ纏纏サ四寸五分鞘ハ黑革卷鯉口ニ寸六分緒五寸其柄頭弓形裏蠟錆等
靴		黑ヴェーシ塗長靴
小禮服	地質	深黑紺羅紗
	製式	前章
		後章
	上衣	袖章
		領章
		肩章
	下衣	地質
		製式

帽	頂緣章	ハ部チ金地石目彫刻模樣ハ菊唐草
靴		黑ヴェーシ塗長靴
小禮服	地質	深黑紺羅紗
	製式	前章
		竪襟背廣形襟ヨリ腰部ニ至リ曲折シテ後ヘニ及フノ間各半面ニ上リ菊模樣七枝チ黑絲ニテ繡シ黑ノ笹緣一條チ付ス
	上衣	後章
		背後下端ノ中心ヨリ菊幹チ交叉シテ左右ニ起ス
		袖章
		袖口ヨリ三寸チ去リ黑線一條チ繞ラシ後部縫ヒ合セヨリ曲折シテ口先キニ及ホシ其內ニ彎形菊模樣一枝チ黑絲ニテ繡ス此部分地質緋羅紗
		領章
		黑線二條チ付シ內ニ菊模樣二枝チ黑絲ニテ繡ス其模樣前部ノ左右ヨリ各一幹チ起シ後部ニ至リ兩當相對ス此部分地質緋羅紗
		肩章
		太サ徑四分ノ白茶色絹繩二條チ斜合シ其一端チ領邊ニ付着スルニ金製五七ノ桐徑七分五厘ノ釦チ以テシ肩上ニ五七ノ桐章右方ニノミ襠チ添テ付ス他ハ同上
	下衣	地質
		製式

袴	地質	白羅紗
	製式	乘馬袴キロット形
帽	地質	黒ノ毛天鵞絨
	製式	山形長サ一尺五寸高サ凡ソ四寸五分頂ノ縁端ニ黒ノ飾毛ヲ付ス
	右側章	金線ヲ綯シタル長サ四寸幅一寸三分許ノ長方形ノモノヲ頂上ヨリ斜ニ垂下シ下端ヲ金製五七ノ桐釦ニテ帽ニ付着シ其周邊ニ紅白日章ノ形ヲ現ハス　同上
劔		總長サ凡ソ二尺六寸柄ハ黒鮫金線ヲ螺旋シ長サ四寸五分鞘ハ黒革卷鯉口二寸六分鐺五寸其柄頭ニ彎環ヲ付ス鐺鍔等ハ都テ金地石目彫刻唐草　同上
靴		黒ヴァニーシ塗長靴　同上

主馬頭以下大禮服制中改正追加

明治二十二年十月
宮内省達第二十號

明治二十一年十二月宮内省達第二十四號主馬頭以下大禮服制表中標目（頭）及（權頭助權助）ノ二欄ヲ左ノ如ク改メ同表ノ末尾ニ更ニ一項ヲ追加ス

頭	勅任	奏任官四等以上
權頭	奏任	同
助	奏任	同

一奏任官五等六等ノ助ニ在テハ上衣前章ノ菊模樣ヲ七枝トシ袖章ノ菊模樣ヲ一枝トス

皇宮警察官服制及提燈旗章

明治十九年六月
宮内省達第九號

皇宮警察官服制及ヒ提燈旗章左ノ通リ相定ム

	皇宮警察長	皇宮警察次長	皇宮警部	皇宮警部補	皇宮警手
帽 正帽	地質	羅又ハ張抜黒塗	同 上	同 上	同 上
	製式	桃子樣兜形圖ノ如シ	同 上	同 上	同 上
	前章	金色菊御紋徑九分葉金色總横幅二寸一分竪一寸五分横二寸及二分金線二條ヲ周ラシ竪輪ツナキ一條ヲ添付ス圖ノ如シ	同 但横線三分一條二分一條トス 上	同 但横線一寸一條二分一條トス 上	同 上
帽 略帽	地質	緋又ハ黒羅紗	同 上	同 上	同 上
	製式	圓形圖ノ如シ	同 上	同 上	同 上
	前章	正帽ニ同シ但金横線ヲ黒線トス 上	同 上	正帽ニ同シ但金横線ヲ黒線トス 上	同 上
平常之ヲ用ユ		黒又ハ紺羅紗	同 上	正帽ニ同シ	

正服	上衣	地質	黒又ハ紺羅紗	同	上	同	上
		製式	面左右各二箇ヲ附シ腰部両側ニ三稜ノ垂ヲ附シ其周圍ニ幅一寸ノ金線ヲ施ス	同	上	フロックコート製竪襟胸釦七箇二行後ニ二箇ヲ附シ	短フロックコート製竪襟胸釦五箇二行後面左右ニ二箇ヲ付ス丈ケ手ヲ垂レ中指ノ中節ニ至ルヲ度トス餘ハ圖ノ如シ
		領章	金笹縁ヲ四方ニ回シ中ニ金五七桐三箇ヲ唐草ツナキニ繍ス餘ハ圖ノ如シ	同	上	金笹縁ヲ三方ニ回シ中ニ金五三桐唐草模様二箇ヲ両端ニ繍ス餘ハ圖ノ如シ	同
		袖章	幅一寸ノ金線一條ヲ幅二分金線二條ヲ付ス他ハ圖ノ如シ	同	上	但金線ハ幅一寸一條ヲ付ス	幅五分及二分ノ金線二條ヲ付ス圖ノ如シ
		釦	金色縁磨キ中石目地ニ五七桐ヲ付ス一號形徑七分五厘三號形徑三分五厘	同	上	但五三桐ヲ付ス一號形徑六分五厘ト	但金線ハ三分一條ニ分一ルヲ付ス圖ノ如シ
	袴	地質	黒又ハ紺羅紗	同	上	同	上
		製式	普通ノ製	同	上	同	上
		側章	幅七分ノ金線二條ヲ付シ内ニ幅三分ノ白線一條ヲ挟ム但一分ツヽスク	同	上	但金線ノ幅一寸ヲ幅七分ノ金線一條ヲ付ス	幅二分ノ白羅紗一條ヲ付ス
	夏服	地質	黒又ハ紺絨適宜	同	上	同	上
		製式	略服ニ同シ	同	上	同	上
		側章	略服ニ同シ	同	上	同	上
略服	冬袴	地質	黒又ハ紺絨適宜	同	上	同	上
		製式	普通ノ製	同	上	同	上
		側章	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同	上	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同
	夏袴	地質	黒又ハ紺絨地質適宜	同	上	同	上
		製式	略服ニ同シ	同	上	同	上
		側章	略服ニ同シ	同	上	同	上

略服	冬服上衣	製式	長シヤツト製丈ケ手ヲ垂レテ手首ニ達スルヲ以テ度トス胸部ニ毛繍ヲ以テ五箇所ニ揚ケ巻結ノ飾ヲ二行ニ施シ全體ノ周圍ハ一寸後面ハ五分ノ毛繍ヲ左右二行ニ繍シ餘ハ圖ノ如シ	同	上	同	上
		袖章	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同	上	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同
	夏服上衣	製式	前	同	上	但胸部ノ飾ヲ五箇二行トス餘ハ圖ノ如シ	同
		袖章	前	同	上	同	上
	袴	地質	略服ニ同シ	同	上	同	上
		製式	普通ノ製	同	上	同	上
		側章	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同	上	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同
略服	冬袴	地質	黒又ハ紺絨適宜	同	上	同	上
		製式	普通ノ製	同	上	同	上
		側章	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同	上	正服ニ同シ但金線ヲ黒線トス	同
	夏袴	地質	黒又ハ紺ヘル地但腰回リ裏リンネル	黒又ハ紺ヘル地但裏黒毛繻子	上	黒又ハ紺ヘル地但裏毛繻子	上
		製式	正服ニ同シ	正服ニ同シ但裏ハ胴背ヌキ袖裏ヲ付ス	上	正服ニ同シ	上
		側章	幅二分ノ白羅紗一條ヲ付ス	○	上	○	上

	正服		略服	外套					
	劍		劍飾鈎帶	地質	製式	袖章	釦	帽兩覆	肩掛
	飾具	鈎帶							
皇宮警察官提灯及旗	柄白鮫鞘磨鐵金物金色腕貫ノ緒總金餘ハ圖ノ如シ	表黑革裏適宜前章金色五七桐ヲ付ス餘ハ圖ノ如シ	正劍ニ同シ但腕貫緒適宜	黑又ハ紺羅紗裏適宜	圖ノ如シ	三分金線一條ヲ喰出ニ付ス但袖口表エ五箇裏面ヘ二箇釦ヲ付ス	金色五七桐	圖ノ如シ但丈手ヲ垂レ手根ニ達スルヲ度トス	
警察長	同上 但柄黑腕貫ノ緒總ヲ金トス	同上 但前章五三ノ桐トス	正劍ニ同シ但腕貫緒適宜	同上	同上	同上 但袖口表ヘ三箇裏面ヘ二箇釦ヲ付ス	同上	同上	同上
警察次長	同上	同上	同上	同上	同上	一分金線一條ヲ喰出ニ付ス但袖口釦ナシ	金色五三桐	同上	同上
警部	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
警部補	同上	黑革前章眞鍮五三桐ヲ付ス餘ハ圖ノ如シ	○	黑又ハ紺軍艦羅紗	同上 但丈踵圖六寸襟丈三寸	○	金色五三桐	同上	同上
警手	柄黑鮫鞘磨キ金物眞鍮腕貫革餘ハ圖ノ如シ								

	提灯				旗					
	手燈	高張			指揮旗			大旗		
	徽章	製式	徽章		地質	製式	徽章	地質	製式	徽章
警察長	中央徑二寸五分菊御紋三箇 上 幅一寸五分一條三分四條ノ赤線 下 幅五分ダンダラ赤線一條ヲ周ラス	圖ノ如シ	中央ニ徑四寸五分菊御紋三箇ヲ付シ上ニ幅二寸一條四分四條ノ赤線ヲ周ラス		白縮緬	圖ノ如シ	中央ニ徑二寸五分御紋上ニ幅一寸五分一條三分四條赤線ヲ付ス	白縮緬	圖ノ如シ	中央徑四寸五分菊御紋ヲ付シ上ニ幅二寸一條四分四條ノ赤線ヲ付ス
警察次長	中央同上 上 同上但三分線ヲ三條トス 下 同上				同上	同上	中央 同上 但三分線ヲ三條トス			
警部	中央同上 上 幅一寸一條三分二條ノ赤線ヲ周ラス 下 同上				同上	同上	中央 同上 幅一寸一條三分二條ノ赤線ヲ付ス			
警部補	中央同上 上 同上但三分線ヲ一條トス 下 同上 代理者用ハ三分線ヲ除ス				同上	同上	中央 同上 幅一寸一條三分二條ノ赤線ヲ付ス			
警手	正面皇宮警手ト記シ左右側面ニ菊御紋二箇ヲ附ス上ニ幅一寸一條下ニ五分ダンダラ線一條ヲ周ラス				同上	同上	中央 同上 幅一寸一分三條ノ赤線ヲ付ス			

（圖式略ス）

●皇宮警手夏服袴地及皇宮警察長同次長提燈徽章改定

明治十九年十一月
宮内省達第十四號

明治十九年六月達第九號皇宮警察官服制及ヒ提灯徽章中皇宮警手夏服袴地ヲ上等白晒小倉トナヲ皇宮警察長同次長提打徽章一寸五分第一線ヲ除キ上部ヲ總テ赤色トシ左圖ノ如ク改定ス

（繪圖略ス）

●參内參賀ノ節服裝心得

明治二十一年十月
陸軍省達乙第三五五四號副官ヨリ

參内參賀等之節服裝之義ニ付別紙之通式部主事ヨリ通知越候條爲心得此段及御通牒候也

（別紙）

式部主事ヨリ通牒　明治廿一年十月十九日

自今參内參賀等ノ場合ニ於テ當省ヨリ著服之儀ニ付通常禮服又ハ通常服ト記載候節ハ通常禮服ハ燕尾服通常服ハフロックコートト御承知有之度此段豫テ及御通牒候也

●官吏通常禮服ハ（フロックコート）換用場合心得方

明治十一年五月
陸軍省達乙號外

別紙壹第三千百九十一號ノ通式部寮ヨリ申來候ニ付爲心得此旨相達候事

（別紙）

十年九月第六十五號ヲ以テ官吏通常禮服著用ノ場合若クハ紺色ノ上服（英語フロックコトヲ以テ換用ヲ可得旨御達ノ趣ハ尋常參賀御用召其他通常禮服ヲ可著用場合ニ限候儀ニ有之壬申十一月第三百七十三號ヲ以テ被定候新年朝拜以下大禮服著用日及臨時本寮ヨリ大禮服著用ノ儀相達候節ニ於テ六年二月第四十八號同第六十二號御達ニ基キ通常禮服ヲ以テ大禮服ニ換用ノ輩更ニフロックコート換用ハ不相成且勳章佩用ノ場合ニ於テ同斷換用不相成儀ニ候條此旨爲念及御達候也

●祝節御祭典ノ節禮服着用方

明治十九年十二月
陸軍省總務局通第百三十二號

祝節御祭典等ノ節參賀參拜ノ輩大禮服等着用日年中恒例ト被相定候旨別冊ヲ以テ式部長官ヨリ通知ニ付爲御心得及御廻送候

（別冊）

○朝拜參賀一月一日
一各大臣勅任官在京地方勅任官同夫人大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內
一公爵同夫人大禮服著用參內
一文武奏任官在京地方奏任官大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內
一各廳准奏任ノ輩有位（七位以下ハ大禮服無位ハ通常禮服（燕尾服以下之ニ倣フ）著用參內
一宮內省准奏任ノ輩有位ハ大禮服無位ハ通常禮服著用參內
○同一月二日
一侯伯子男爵同夫人大禮服著用參內
一非役從六位以上同勳六等以上幷各廳准奏任及ヒ判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上在京地方官ニシテ同上ノ輩有位ハ大禮服無位ハ通常禮服著用（退職雇役武官ハ正裝）參內
一神佛各宗派管長ハ祭服法衣神官奏任ハ祭服著用參內
一准勅任雇外國人同夫人准奏任雇外國人並勳六等以上外國人大禮服（自國ノ官服ヲ有セサル者ハ通常禮服著用參內
○元始祭一月三日
一各大臣勅任官在京地方勅任官大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內
一奏任官在京地方奏任官並有位准奏任ハ大禮服（陸軍武官ハ正裝）無位准奏任ハ通常禮服著用參拜
一判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上在京地方官ニシテ同上ノ輩有位ハ大禮服無位ハ通常禮服著用參拜
一有爵者並非役從六位以上同勳六等以上ノ輩ハ大禮服無位勳六等以上ノ輩ハ通常禮服著用（退職雇役武官ハ正裝）參拜
一神佛各宗派管長ハ祭服法衣神官奏任ハ祭服著用參拜
○政始一月
一各大臣元老院議長警視總監東京府知事フロックコート著用宮內省供奉並掛員ニシテ高等官ハ小禮服著用
○新年宴會一月五日
一各大臣勅奏任官有爵有位華族等大禮服着用
○陸軍始一月
一勅奏任官中觀兵式拜觀トシテ來場ノ輩ハ大禮服着用
○孝明天皇御例祭一月三十日
元始祭ニ同シ
○紀元節並御祭典二月十一日

一各大臣勅任官在京地方勅任官大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內
一奏任官在京地方奏任官並有位准奏任ハ大禮服（陸軍武官ハ正裝）無位准奏任ハ通常禮服著用參賀參拜
一判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上在京地方官ニシテ同上ノ輩有位ハ大禮服無位ハ通常禮服著用參賀參拜
一有爵者並非役從六位以上同勳六等以上ノ輩ハ大禮服無位勳六等以上ノ輩ハ通常禮服著用（退職葙役武官ハ正裝）參賀參拜
一神佛各宗派管長ハ祭服法衣神官奏任ハ祭服著用參賀參拜
○春季祭（春分日）
元始祭ニ同シ
○神武天皇御例祭（四月三日）
元始祭ニ同シ
○大祓（六月三十日）
一內閣各省元老院建築局警視廳東京府ノ勅奏判任官一人宛總代トシテフロックコート著用參內
○秋季祭（秋分日）

元始祭ニ同シ
○神嘗祭（十月十七日）
元始祭ニ同シ
○天長節（十一月三日）
一各大臣勅任官在京地方勅任官大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內
一奏任官在京地方奏任官並有位准奏任ハ大禮服（陸軍武官ハ正裝）無位准奏任ハ通常禮服著用參賀
一宮內省奏任官並有位准奏任ハ大禮服無位准奏任ハ通常禮服著用參內
一判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上在京地方官ニシテ同上ノ輩有位ハ大禮服無位ハ通常禮服著用參賀
一有爵者並非役從六位以上同勳六等以上ノ輩ハ大禮服無位勳六等以上ノ輩ハ通常禮服著用（退職葙役武官ハ正裝）參賀
一神佛各宗派管長ハ祭服法衣神官奏任ハ祭服著用參賀
一勅奏任官中觀兵式拜覲トシテ來場ノ輩ハ大禮服著用
○新嘗祭（十一月廿三日）
一各大臣勅任官在京地方勅任官大禮服著用（陸軍武官ハ正裝）參內

○賢所御神樂十二月中旬
一各大臣及內閣各省元老院警視廳東京府ノ勅任官一人宛大禮服著用參內
○歲末御祝詞
一各大臣勅奏任官在京地方勅奏任官幷准奏任ノ輩フロックコート著用參內
一判任官以下ニシテ從六位以上勳六等以上在京地方官ニシテ同上ノ輩フロックコート著用參內
一有爵者幷有位華族ノ輩フロックコート著用參內
一神佛各宗派管長幷神官奏任ハ通常禮服著用參內
○大祓十二月三十一日
六月ニ同シ

●陸軍將校服制改正

明治十九年七月
勅令第四十八號

朕陸軍將校服制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校服制圖例幷服制圖

名稱	
第一種帽	外套
第二種帽	雨覆
正衣	夏飾
軍衣	夏袴帶
袴	日覆懸章
短袴	夏外套

第	名稱	地質	日章	眼庇	頤紐	縱橫章 品質	縱橫章 裝式	頂上章 品質	頂上章 裝式	製式	形狀
大將 中將 少將	前立刀	漉紺絨	金色 徑一寸七分	革表 夏黑 萌黃	黑革幅三分 五厘金色 櫻形花ヲ附スト徑三分	蛇腹組金線幅九分 大線幅一分 小線五厘	橫章大線各一條小線ハ大將三條中將二條 少將一條外ニ小線各一條ヲ附ス 上下部縫際ニ縱章前後ハ直 左右ハ斜ニ小線 各部三條ヲ附ス	蛇腹組金線幅一分 五厘	環狀ニ尖線ノ內五分ヲ尖頭ノ星章ヲ離レ一箇ヲ附ス	下部高サ一寸八分 大線ハ幅一分 五厘ノ蛇腹組金線六條ヲ合ス 縱橫線ノ間隙ハ各一分	如圖、
監督長 軍醫總監	同	同	同	同	同	同	少將ニ同シ	蛇腹組金銀線幅一分 五厘	將官ニ同シ但星章ハ銀線ヲ用フ	同	同

帽

第一種

大佐 中佐 少佐	一等・二等・三等監督、一等・二等軍醫監、軍醫正、藥劑監、獸醫監	大尉 中尉 少尉	監督補、一等・二等・三等 軍吏・軍醫・藥劑官・獸醫	一等軍樂長	上等監護	二等軍樂長	下副官
濃紺絨 憲兵ハ上部緋絨下部黒天鵞絨 近衛隊ハ緋絨	濃紺絨	濃紺絨 憲兵ハ上部緋絨下部黒天鵞絨 近衛隊ハ緋絨	濃紺絨	茜絨	濃紺絨	茜絨	濃紺絨 憲兵ハ上部緋絨下部黒天鵞絨 近衛隊ハ緋絨
同	同	同	同	同	同		同
同	同	同	同	同	同		同
同	同	同	同	同	同		同
蛇腹組金線幅一分五厘	同	同	同	同	同		同
横章大佐ハ六條中佐ハ五條少佐ハ四條外ニ各一條ヲ上下部縫際ニ附ス 縦章前後ハ直左右ハ斜ニ各部二條ヲ附ス	一等監督及一等軍醫監ハ大佐ニ二等監督及二等軍醫監ハ中佐ニ三等監督軍醫正藥劑監獸醫監ハ少佐ニ同シ	横章大尉ハ三條中尉ハ二條少尉ハ一條外ニ各一條ヲ上下部縫際ニ附ス 縦章前後ハ直左右ハ斜ニ各部一條ヲ附ス	監督補及各部一等ハ大尉ニ各部二等ハ中尉ニ各部三等ハ少尉ニ同シ	少尉ニ同シ	横章一條ヲ上下部縫際ニ附ス 縦章尉官ニ同シ		同
蛇腹組金線幅一分五厘	蛇腹組銀線幅一分五厘	蛇腹組金線幅一分五厘	蛇腹組銀線幅一分五厘	蛇腹組金線幅一分五厘	同		同
將官ニ同シ	將官ニ同シ 但星章ハ銀線ヲ用フ	將官ニ同シ	將官ニ同シ 但星章ハ銀線ヲ用フ	將官ニ同シ	同		同
下部高サ一寸八分 縦横線ノ間隙ハ各一分	同	下部高サ一寸八分 横線ノ間隙ハ各一分	同	下部高サ一寸八分	同		同
同	同	同	同	同	同		同

第二種

名稱	將官 監督長 軍醫總監	歩兵 騎兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 佐官	監督 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監
地質	濃紺絨	同	同
星章	金色中心ヨリ尖頭ニ至ル五分	同	同
眼庇	黒革	同	同
横章	將官緋絨 監督長花色藍絨 軍醫總監深緑絨 大線幅六分 小線幅一分 頂端線幅一分五厘	黄絨 近衛隊ハ緋絨 大線幅七分 小線幅一分 頂端線幅一分五厘	監督花色藍絨 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監 深緑絨 同
製式	下部高サ一寸七分強大線小線各二條其線ノ間隙ハ各一分頂端線ハ喰ミ出シニ附ス	同 但小線ヲ一條トス	同 但書同シ
形狀	如圖	同	同

種帽	名稱	正				
大將		中將　少將	監督長　軍醫總監	憲兵大佐　歩兵砲兵工兵輜重兵電田兵中佐　少佐		
	地質	濃紺絨	同	同		
	鉢	胸部及後ノ方ニ大サ十七分ノ小ト留メ袖口ニ大サ十二分ノ小ト裂キ目ヲ附シ剣ヲ佩ス	同	同		鉢將官ニ同シ
	襟章	金線幅一分縫下線ハ一條中央ハ龜甲形ニ縫ヒ其ノ龜ノ甲ノ下ノ八分ノ上下部縫際ヨリ上ノ五分ノ上端ヨリ上ハ共ニ金線ヲ以テ縫フ	金銀線幅一分縫下線ハ一條中央ハ龜甲形ニ縫ヒ其ノ龜ノ甲ノ下ノ八分ノ上下部縫際ヨリ上ノ五分ノ上端ヨリ上ハ共ニ金銀線ヲ以テ縫フ	金線幅一分縫上線ハ一條ノ次ニ幅五分ノ二ノ條及下線ハ二條ノ龜形ニ地質ト同シキ兵ハ緋絨ヲ以テ縫ヒ但襟ノ上端ヨリ上ハ露ス緋絨ヲ以テ縫フ		
	袖章	金線縫幅一分ノ蛇腹組ヲ三條ニ縫ヒ其ノ間隙ハ各一分ノ菱形ニ縫ヒ尖頭ハ肩縫際ヨリ凡ソ六寸ノ地ニ共ニ金線ヲ以テ縫フ	金銀線縫幅一分ノ蛇腹組ヲ三條ニ縫ヒ其ノ間隙ハ各一分ノ菱形ニ縫ヒ尖頭ハ肩縫際ヨリ凡ソ六寸ノ地ニ共ニ金銀線ヲ以テ縫フ	金線幅一分ノ蛇腹組ヲ二條ニ縫ヒ其ノ間隙ハ各一分ノ菱形ニ縫ヒ尖頭ハ肩縫際ヨリ凡ソ六寸ノ地ニ共ニ金線ヲ以テ縫フ		
	製式	七條中將ハ六條少將ハ五條ヲ左右ヨリ交叉シ四箇ニ止ル但突起章ノ中央ニ長サ二寸五分ノ龜甲ヲ下ル八寸ノ上下部縫際ヨリ上ハ共ニ金線ヲ以テ縫フ	同　但突起章ヲ附セス直チニ袖口ニ沿ヒ長サ二寸五分ノ龜甲ヲ下ル八寸ノ上下部縫際ヨリ上ハ共ニ金線ヲ以テ縫フ	同　但突起章ヲ附セス直チニ袖口ニ沿ヒ長サ二寸五分ノ龜甲ヲ下ル八寸ノ上下部縫際ヨリ上ハ六條中大佐ハ五條少佐ハ四條ヲ縫着ス袖口ニ沿ヒ地ハ襟同色トス		
	形狀	襟幅一寸四分袖長腕關節ニ止ル	同	襟幅一寸四分袖長腕關節ニ止ル但袖口ノ縁ノ玉緒ハ共ニ金線ヲ以テ附ス		如圖

種帽	名稱	正				
大將		監督補佐官　軍醫監督補佐官　獸醫監督補佐官	歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵電田兵尉官	歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵電田兵下副官	上等監護	監督軍醫獸醫官
	地質	黄絨	同	紺絨	同	同
	鉢	花色藍絨ヲ以テ製シ金線幅一寸ノ大線ヲ七分ノ頂端線幅一ノ大線ヲ以テ縫フ	同	同	同	同
	襟章	深綠絨ヲ以テ製シ金線幅一寸ノ大線ヲ七分ノ頂端線幅一ノ大線ヲ以テ縫フ	同	同	同	同
	袖章	黄絨ヲ以テ製シ金線幅一寸ノ大線ヲ七分ノ頂端線幅一ノ大線ヲ以テ縫フ	但小線ヲ附セス	但書同シ	但小線ヲ附セス大線一條トス	但書同シ
	製式	同	同	同	同	同
	形狀	突起章ハ錨ニ沿ヒル長サ二寸其兩縁ハ一條中央ハ龜甲下ル八寸上下部縫際ヨリ上ハ五分ノ上端ヨリ上ハ金線ヲ以テ縫フ袖口ヨリ尖頭形ニ縫着ケ錨ノ尖ニ至ル二寸兩脚ハ一寸後裂ノ裏面ニ附スル物入左右ニ附ス袖長腕關節ニ止ル				

衣

騎兵大尉	騎兵中尉	騎兵少尉
同	同	同
但胸部裂ケ及後ノ方十七箇所ト口ノ箇所ト袖口ノ箇所トニ小六釦大六箇ヲ附ス　胸打組左右ニ各二條黒色絹紐ヲ附ス　袖口ハ尖頭形ニ換ヘ金線二分絹打組ヲ用フ	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	同	同
長脛骨上端ヨリ下ル一寸五分上下部縫際脛骨上端ヨリ上ル一寸後裂上下部縫際ニ止ル袖口ヨリ尖頭ニ至ル二寸兩脚ハ一寸全線邊及背部ノ飾紐ハ總テ三分幅蛇腹組黒毛絲物入後裂ノ裏面左右ニ附ス	同	同

憲兵歩兵	砲工兵大尉	輜重兵中尉	輜重兵少尉
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同

騎兵	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
下副官	下副官
同	同
佐官ニ同シ	同
同	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

監督	一等軍醫	二等軍醫	三等軍醫	藥劑官	獸醫
同	同	同	同	同	同
將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ
金線縫金箔幅一分	金線縫金箔幅一分	金線縫金箔幅一分	金線縫金箔幅一分	金線縫金箔幅一分	金線縫金箔幅一分
監督ニ同シ但電形ニ換ヘ金線二條ヲ用フ	同	同	同	同	同
蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分
監督ニ同シ但監督袖及各部一等ハ金線二條銀線二等ハ金線一條各部三等ハ銀線一條トス	同	同	同	同	同
將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ
同	同	同	同	同	同

騎兵	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
下副官	下副官
同	同
佐官ニ同シ	同
同	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

砲工兵上等監護	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
二等軍樂長	下副官
同	同
同	同
金線縫金箔幅一分	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

一等軍樂長	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
同	下副官
同	同
同	同
金線縫金箔幅一分平織金絲幅五分	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

監督	一等軍醫	二等軍醫	三等軍醫	藥劑官	獸醫
同	同	同	同	同	同
將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ
金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分	金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分	金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分	金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分	金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分	金線縫金箔幅一分平織銀絲幅五分
監督ニ同シ但電形ニ換ヘ金線二條ヲ用フ平織フルニ	同	同	同	同	同
蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分	蛇腹組金銀線幅一分
監督ニ同シ但監督袖及各部一等ハ金線二條銀線二等ハ金線一條各部二等ハ金銀線一條各部三等ハ銀線一條トス	同	同	同	同	同
將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ	將官ニ同シ
同	同	同	同	同	同

騎兵	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
下副官	下副官
同	同
佐官ニ同シ	同
同	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

砲工兵上等監護	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
二等軍樂長	下副官
同	同
同	同
金線縫金箔幅一分	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

一等軍樂長	憲兵歩兵砲工兵輜重兵
同	下副官
同	同
同	同
金線縫金箔幅一分平織金絲幅五分	蛇腹組金線幅一分
同	同
同	同
同	同
同	同
同	同

名稱	地質	胸章	袖章 品質	袖章 模式	製式	形狀
軍　大將　中將　少將　監督長　軍醫總監	濃紺絨	角打黒毛縧組径二分胸部左右各五箇ヲ附ス	蛇腹組黒毛縧幅一分	突起狀ノ毛縧ニ沿ヒ大將ハ七條中將ハ六條少將及相當官ハ五條ヲ左右ヨリ交叉シ圓形六箇圓錐形一箇ニ縫着シ其線ノ間隙ハ各一分圓錐形ノ尖頭肩縫際ヲ距ルコト凡三寸トス	襟幅一寸二分　袖長腕關節ニ止ル　長臗骨上端ヨリ下ルコト三寸五分　袖口毛縧突起狀ハ尖頭下端一寸五分兩脚ハ七寸五分ヲ上リ八分幅黒毛縧ヲ附ス　全縧邊及背面ノ縫際ニ八分幅黒毛縧ヲ附ス　兩脇ノ下端ヲ裂クコト三寸五分　物入前面ノ左右各一箇ヲ附ス	如圖
憲兵　歩兵　砲兵　工兵　輜重兵　屯田兵　大佐　中佐　少佐　大尉　中尉　少尉	同	同	同	突起狀ノ毛縧ニ沿ヒ大佐及相當官ハ六條中佐及相當官ハ五條少佐及相當官ハ四條大尉及相當官ハ三條中尉及相當官ハ二條少尉及相當官ハ一條ヲ左右ヨリ交叉シ圓形二箇圓錐形一箇	同	同
一二三等監督　監督補　一二三等軍吏　軍醫						

名稱	地質	胸章	袖章 品質	袖章 模式	製式	形狀
二一藥獸一二三一 等等　等等等等 軍劑醫軍藥獸軍 醫　劑　藥 正監監醫官醫長				ニ縫着シ其線ノ間隙ハ各一分圓錐形ノ尖頭肩縫際ヲ距ルコト凡三寸トス		
騎兵　大佐　中佐　少佐　大尉　中尉　少尉	同	角打黒毛縧組將官ニ同シ　釦金色圓形内ニ櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部及後裂ニ十七箇ヲ附ス	同	同	襟幅一寸二分　袖長腕關節ニ止ル　長臗骨上端ヨリ下ルコト三寸五分　上下部縫際臗骨上端ヨリ上ルコト一寸　後裂上下部縫際ニ止ル　袖口毛縧突起狀ハ尖頭下端一寸五分兩脚ハ七分五厘ヲ上リ八分幅黒毛縧ヲ附ス　全縧邊及背部ノ飾組ハ總テ三分幅蛇腹組黒毛縧但襟ハ八分幅黒毛縧ヲ用フ　物入後裂ノ左右各二箇ヲ附ス	同
上等監護　二等軍樂長	同	將官ニ同シ	黒毛縧幅三分	突起狀ノ毛縧ニ沿ヒ一條ヲ同形ニ附ス其間隙ヲ一分トス	將官ニ同シ	同
憲兵　歩兵　砲兵　工兵　輜重兵　屯田兵　下副官	紺絨	同	同	同	同	同
騎兵　下副官	同	佐官ニ同シ	同	同	佐官ニ同シ	同

名稱	將官及軍醫總監	將官及軍醫監督長	大將 中將 少將	將官及軍醫監督長	大將 中將 少將
地質	表 裏	表 裏	表 裏	表 裏	表 裏
	漉紺絨 緋絨	漉紺絨 緋絨	漉紺絨 緋絨	漉紺絨 緋絨	漉紺絨 緋絨
側章製式形狀	金色圓形内櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部十二箇側部十二箇緊收紐一箇	金色圓形内櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部十二箇側部十二箇緊收紐一箇	金色圓形内櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部十二箇側部十二箇緊收紐一箇	金色圓形内櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部十二箇側部十二箇緊收紐一箇	金色圓形内櫻花ヲ附ス徑七分五厘胸部十二箇側部十二箇緊收紐一箇
袖章製式形狀	黒羅面留三箇後裂四箇ヲ附ス	黒羅面留三箇後裂四箇ヲ附ス	黒羅面留三箇後裂四箇ヲ附ス	黒羅面留三箇後裂四箇ヲ附ス	黒羅面留三箇後裂四箇ヲ附ス
	一分幅蛇腹紐線將官ハ金線ヲ以テ相當官ハ銀線各一條ヲ袖口ヨリ八寸ヲ上リ周圍ニ附ス	一分幅蛇腹紐線將官ハ金線ヲ以テ相當官ハ銀線各一條ヲ袖口ヨリ八寸ヲ上リ周圍ニ附ス	一分幅蛇腹紐線將官ハ金線ヲ以テ相當官ハ銀線各一條ヲ袖口ヨリ八寸ヲ上リ周圍ニ附ス	一分幅蛇腹紐線將官ハ金線ヲ以テ相當官ハ銀線各一條ヲ袖口ヨリ八寸ヲ上リ周圍ニ附ス	一分幅蛇腹紐線將官ハ金線ヲ以テ相當官ハ銀線各一條ヲ袖口ヨリ八寸ヲ上リ周圍ニ附ス
	分五厘將官ハ金色相當官ハ銀色而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス	分五厘將官ハ金色相當官ハ銀色而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス	分五厘將官ハ金色相當官ハ銀色而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス	分五厘將官ハ金色相當官ハ銀色而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス	分五厘將官ハ金色相當官ハ銀色而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス
	章線ニ沿ヒ表半面ニ附ス	章線ニ沿ヒ表半面ニ附ス	章線ニ沿ヒ表半面ニ附ス	章線ニ沿ヒ表半面ニ附ス	章線ニ沿ヒ表半面ニ附ス
袖章製式形狀	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

名稱	將官及相當官	佐官及相當官	騎兵下副官	憲兵 工兵 輜重兵 下副官
地質	白絨或ハ白革	袴地ニ同シ	茜絨	紺絨 憲兵 電田兵 藍絨 電田兵 藍霜降絨
側章製式形狀	萌黄絨 同	袴ノ側章ニ同シ	萌黄絨 同	歩兵 工兵 輜重兵 黄絨 同
袖章製式形狀	長袴上ニ止ル袖口ヲ裂ク凡五寸之レニ角各二箇ヲ付ス	同	佐官ニ同シ但小線一條ヲ附シ其裾口ヲ裂ク凡五寸之レニ角各二箇ヲ付ス	但書同シ 同

名稱	將官及軍醫總監	將官及軍醫監督長	騎兵	歩兵 工兵 輜重兵 佐官	監督補佐官 軍醫正 軍醫監 軍樂長	監督補佐官 軍醫正 軍醫監 軍樂長	騎兵	歩兵 工兵 輜重兵 佐官	監督補佐官 軍醫正 軍醫監 軍樂長	監督補佐官 軍醫正 軍醫監 軍樂長
地質	緋絨	緋絨	茜絨	紺絨 歩兵 藍絨 電田兵 藍霜降絨	花色藍絨	花色藍絨	茜絨	紺絨 歩兵 藍絨 電田兵 藍霜降絨	花色藍絨	花色藍絨
側章製式形狀	大線幅一寸一分小線幅二分	大線幅一寸一分小線幅二分	萌黄絨 同	緋絨 歩兵 黄絨 工兵 藍絨	大線幅一寸三分	大線幅一寸三分	萌黄絨 同	緋絨 歩兵 黄絨 工兵 藍絨	大線幅一寸三分	大線幅一寸三分
袖章製式形狀	長靴踵ノ上際ニ止ル大線二條小線一條ヲ附ス其間隙ハ各一分	長靴踵ノ上際ニ止ル大線二條小線一條ヲ附ス其間隙ハ各一分	長袴上ニ止ル大線一條ヲ附シ其裾口ヲ裂ク凡五寸之レニ箇ヲ附ス	但大線一條ヲ附ス 同	將官ニ同シ但大線一條ヲ附ス	將官ニ同シ但大線一條ヲ附ス	長袴上ニ止ル大線一條ヲ附シ其裾口ヲ裂ク凡五寸之レニ箇ヲ附ス	但大線一條ヲ附ス 同	將官ニ同シ但大線一條ヲ附ス	將官ニ同シ但大線一條ヲ附ス
袖章製式形狀	如圖	如圖	但小線一條ヲ附ス 同	同	同	同	但小線一條ヲ附ス 同	同	同	同

名稱	地質	胸章	製式	形狀
覆				
佐官及相當官 尉官及相當官 准士官	表裏 濃紺絨 黑毛繻子	同	同	同
下副官	紺絨	同	同	同
夏衣				
將官及相當官	白布	角打白絲組徑二分 胸部左右各五箇ヲ附ス	同	同
佐官及相當官 尉官及相當官	同	同	同	同
准士官	同	同	同	同
下副官	白小倉織	同	白內記打幅三分	同
夏袴				
將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官 准士官	白布	長靴踵ノ上際ニ止ル物入兩股各一箇ヲ附ス	一	如圖
下副官	白小倉織	長靴踵ノ上際ニ止ル物入兩股各一箇ヲ附ス	一	如圖

名稱	地質	胸章	製式	形狀
雨				
將官及相當官	表裏 濃紺絨 緋絨	黑角徑五分五厘 胸部三箇ヲ附ス		
套				
佐官	表裏 濃紺絨 黑毛繻子	同	一分幅蛇腹組金線一條及一分幅黃絨線一條ヲ袖口ヨリ六寸ヲ上リ周環ニ附ス其間隙ハ一分但近衛隊ハ緋絨線トシ憲兵ハ袖口ヨリ線際ニ至ルヲ緋絨トス	同
監督軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監	同	同	一分幅蛇腹組銀線各一條及監督ハ一分幅花色藍絨線一條軍醫監及軍醫正藥劑監獸醫監ハ一分幅深緑絨線一條ヲ袖口ヨリ六寸ヲ上リ周環ニ附ス其間隙ハ各一分	同
尉官	同	同	一分幅黃絨線一條ヲ袖口ヨリ六寸ヲ上リ周環ニ附ス但近衛隊ハ緋絨線トシ憲兵ハ袖口ヨリ線際ニ至ルヲ緋絨トス	同
監督補 軍吏 軍醫 藥劑官 獸醫 一等軍樂長	同	同	監督補及軍吏ハ一分幅花色藍絨線一條軍醫及藥劑官獸醫ハ一分幅深緑絨線一條軍樂長ハ一分幅紺絨青絨線一條ヲ袖口ヨリ六寸ヲ上リ周環ヲ附ス	同
上等監護 二等軍樂長	同	同	三分幅黃絨線一條ヲ袖口ヨリ尖頭ニ至ル六寸兩脚及後面ハ三寸ヲ上リ突起狀ニ附ス但軍樂長ハ紺青絨線近衛隊ハ緋絨線トシ憲兵ハ袖口ヨリ線際ニ至ルヲ緋絨トス	同
下副官	紺絨	同	長手甲ノ隱ルヲ度 襟幅二寸トス	同

名稱	品質	飾金具	製式	形狀
日覆	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官 准士官	薄白布	憲兵及軍樂部ハ第一種帽ニ其他ハ第二種帽ニ適合ノ縫裁トナス	同
日覆	下副官	雲齊		
夏外套	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官 准士官	紺或ハ黑色ノ薄毛織或ハ絨	長靴踵ノ上際ヲ距ルヿ大約八寸 黑角釦徑五分五厘覆面留三箇及前部五箇ヲ附ス	同
前立	將官及相當官	駝鳥毛	緋色ノ部蒂共高サ三寸 白色ノ部高サ六寸 金具金色	如圖
前立	佐官及相當官 尉官及相當官 准士官 下副官	鳥毛	緋色ノ部蒂共高サ二寸七分 白色ノ部高サ四寸 金具金色	同
名稱	品質	飾金具	製式	形狀
大將 中將 少將	丸打金線徑二分五厘	星章銀色中心ヨリ尖頭ニ至ル三分五厘 釦金色徑五分	金線十二條ノ鎖狀組トシ之レニ星章大將ハ三箇中將ハ二箇少將ハ一箇及上端釦各一箇ヲ附ス 長サ凡五寸トス以上同シ	如圖

肩章				
監督長 軍醫總監	丸打金銀線徑二分五厘	星章金色大サ前ニ同シ 蛇杖金色長サ一寸幅四分 釦前ニ同シ	金線銀線各六條ノ鎖狀組トシ之ニニ監督長ハ星章一箇軍醫總監ハ蛇杖一箇及上端釦各一箇ヲ附ス	同
大佐 中佐 少佐	丸打金線徑二分五厘	星章釦共ニ將官ニ同シ	金線八條ノ鎖狀組トシ之レニ星章大佐ハ三箇中佐ハ二箇少佐ハ一箇及上端釦各一箇ヲ附ス	同
一等 二等 三等 監督 軍醫監 一等 二等 軍醫正 藥劑監 獸醫監	丸打金銀線二分五厘	星章金色大サ將官ニ同シ 蛇杖軍醫總監ニ同シ 花葉金色長サ一寸一分幅中央六分 釦將官ニ同シ	金線銀線各四條ノ鎖狀組トシ之レニ星章一等監督ハ三箇二等監督ハ二箇三等監督ハ一箇軍醫監ハ星章三箇蛇杖一箇一等軍醫正ハ星章蛇杖各一箇二等軍醫正及藥劑監ハ蛇杖一箇獸醫監ハ花葉一箇及上端釦各一箇ヲ附ス	同
大尉 中尉 少尉	丸打金線徑二分五厘	星章釦共ニ將官ニ同シ	金線四條ノ鎖狀組トシ之レニ星章大尉ハ三箇中尉ハ二箇少尉ハ一箇及上端釦各一箇ヲ附ス	同
監督補 二等 二等 三等 軍吏 軍醫 藥劑官 獸醫	丸打金銀線徑二分五厘	星章金色大サ將官ニ同シ 蛇杖軍醫總監ニ同シ 花葉獸醫監ニ同シ 釦將官ニ同シ	金線銀線各二條ノ鎖狀組トシ之レニ星章監督補及一等軍吏ハ三箇二等軍吏ハ二箇三等軍吏ハ一箇一等軍醫及藥劑官ハ星章二箇蛇杖一箇二等軍醫及藥劑官ハ星章蛇杖各一箇三等軍醫及藥劑官ハ蛇杖一箇一等獸醫ハ星章二箇花葉一箇二等獸醫ハ星章花葉各一箇三等獸醫ハ花葉一箇及上端釦各一箇ヲ附ス	同
一等軍樂長	丸打金線徑二分五厘	樂器章銀色長サ九分幅五分五厘 釦將官ニ同シ	尉官ニ同シ 但星章ヲ附セス樂器章一箇ヲ附ス	同

名稱	品質	製式	形狀
二等軍樂長	丸打白茶絹絲線徑二分五厘	同但樂器章ヲ金色トス	同
上等監護 下副官	同	絹絲線四條ノ鎖狀組トシ之レニ樂器章一箇及上端釦一箇ヲ附ス	同
飾緒 將官	丸打金線徑二分	絹絲線四條ノ鎖狀組トシ之レニ上端釦一箇ヲ附ス	同
飾緒 參謀官	丸打金線徑一分八厘	金線長サ二丈四尺五寸ノ兩端ヲ鎖狀組トシ之レニ金具各一箇ヲ附ス	如圖
飾 大將 中將 少將	金線三條緋絹絲線四條幅各二分五厘筋織	金線長サ蕃共六寸圓徑一寸五分星章銀色中心ヨリ尖頭ニ至ル二分五厘トス而シテ大將ハ三箇中將ハ二箇少將ハ一箇ヲ各蕃ノ半面ニ附ス	同
飾 監督長	銀線三條花色藍絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	銀線大サ前ニ同シ星章金色大サ前ニ同シ但一箇ヲ附ス	同
飾 軍醫總監	銀線三條深絲絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	長凡五尺其兩端總各一箇ヲ附ス留金具金色	如圖
帶 憲兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 佐官	白絹絲線三條緋絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	金線長サ蕃共六寸圓徑一寸五分	同
帶 監督	白絹絲線三條花色藍絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	銀線大サ前ニ同シ	同
帶 軍醫監 軍藥劑監 獸醫監	白絹絲線三條深絲絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	同	同
帶 憲兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 尉官	佐官ニ同シ	緋絹絲長サ蕃共六寸圓徑一寸二分	同
帶 監督補 軍藥劑官	監督ニ同シ	花色藍絹絲大サ前ニ同シ	同
帶 軍醫監 獸醫監	軍醫監ニ同シ	深絲絹絲大サ前ニ同シ	同
帶 一等軍樂長	紺青絹絲線三條緋絹絲線四條幅各一分五厘ノ筋織	尉官ニ同シ	同
懸 傳令使 佐官 尉官	黃毛絲線三條幅各二分白絹絲線二條幅各三分ノ筋織	黃毛絲長サ蕃共五寸五分圓徑一寸二分	長凡五尺其兩端總各一箇ヲ附ス緒締黃毛絲製楕圓形長徑一寸三分短徑一寸ノモノ一箇ヲ以テ兩端ヲ交叉貫通ス	同

章	名稱	劍			名稱
衛戍巡察周番 佐官 尉官		大將 中將 少將 監督長 軍醫總監	監督 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監	監督 軍醫補 軍醫吏 藥劑官 獸醫官	
緋毛絲線三條幅各二分白絹絲線二條幅各三分ノ筋織	鍔	金色地ハ石目旭章ヲ置ク 星章ハ銀色中心ヨリ尖頭ニ至ル二分大將ハ三箇中將ハ二箇少將及相當官ハ一箇ヲ附ス	同 但星章ヲ附セス	同 但書同シ	中身
緋毛絲大サ前ニ同シ	頭	金色地ハ石目頂上ニ日章ヲ置キ周圍ノ上下電形ニシテ中央兩面ニ蜻蛉各一箇ヲ置ク	同	同 但電形ヲ附セス	鍔
同 但緒締ハ緋毛絲ヲ用フ	柄	鎧甲 絲金線三條	水牛角 絲前ニ同シ	同	柄
	鞘	黑革 鞘口金色無地 帶留楕圓形ノ日章金色 鐺金色下端ニ櫻葉ヲ置ク	同	同	鞘
	總摸樣	櫻唐草	同	同 但柄ノ絲及鐺ヲ無地トス	
同	形狀	如圖	同	同	形狀

刀					
將官	憲兵 步兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 佐官	騎兵佐官	憲兵 步兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 尉官 一等軍樂長	騎兵尉官	上等監護 二等軍樂長 憲兵 步兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 下副官
鍊鐵 灣曲五分	同	同	同	同	同
金色 櫻唐草	同	金色 無地ニシテ五箇ノ透シヲ穿ツ	將官ニ同シ	佐官ニ同シ	眞鍮 無地
鎧甲 絲金線三條背面ヲ覆フタル金具ハ金色地ハ石目櫻唐草ヲ置ク	水牛角 絲及背面ヲ覆フタル金具ハ前ニ同シ	同	水牛角 絲金線三條背面ヲ覆フタル金具ハ金色地ハ石目其上部ノミ櫻唐草目釘ノ兩部ニ櫻花ヲ置ク	同	牛角 絲眞鍮線一條背面ヲ覆フタル金具ハ眞鍮無地トス
鐵 鍍尼結兒トシ第一第二兩箇ノ釣鐶ヲ附ス	同	同 但第二ノ釣鐶ヲ附セス	將官ニ同シ	佐官ニ同シ	鐵 釣鐶ヲ附スルヿ將官ニ同シ
如圖	同	同	同	同	同

名稱	劍 帶	品質	製式	形狀
	騎兵下副官	同	鐵無地ニシテ五箇ノ透シナシ穿ツ	同
總	將官　陸軍軍樂長　陸軍軍樂副長　陸軍軍樂長　陸軍監獄副監長　陸軍監獄監長　陸軍監獄總監 表　將官ハ金線二條緋絹絲線三條ノ筋織 陸軍軍樂副長　陸軍軍樂長　陸軍監獄副監長　陸軍監獄監長 表　監督長ハ銀線二條花色藍絹絲線三條ノ筋織 陸軍監獄總監 表　總監ハ銀線二條深緑絹絲線三條ノ筋織 裏　紅革 但軍服用ハ表ヲ黒革トス	金色圓徑一寸三分五厘幅一寸鈒差長サ六寸締メ輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス	但背面ヲ覆フタル金具ヲ鐵トス	但第二ノ釣鎖ヲ附セス　同
緒	同	同	如圖	同
形狀	同	同	同	同

名稱	刃 帶			
	將官　陸軍軍樂長　陸軍軍樂副長　陸軍監獄副監長　陸軍監獄監長　陸軍監獄總監 佐官　一等軍樂長　一等工兵副長　一等砲兵副長　一等輜重兵副長　一等騎兵副長　一等歩兵副長　一等還田兵副長 尉官　一等軍樂長　一等工兵副長　一等砲兵副長　一等輜重兵副長　一等騎兵副長　一等歩兵副長　一等還田兵副長	騎兵 佐官 尉官	上等軍樂長　上等監獄副監長 二等工兵副長　二等砲兵副長　二等輜重兵副長　二等騎兵副長　二等歩兵副長　二等還田兵副長 下副官	騎兵下副官
總	表　黒護謨革 裏　將官及佐官ハ紅革尉官及軍樂長ハ藍革	黒護謨革	黒單革	同
	同		將官ニ同シ	
緒	長凡三尺五寸幅一寸釣革長サ第一ノ分八寸第二ノ分二尺二寸ニシテ幅七分其下端茄子銀ヲ附ス締メ輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス茄子銀其他金具金色トス	長凡三尺釣鎖及茄子銀共長七寸幅七分綻尼結兒トシピツヨ銀其他ノ金具ハ金色トス締メ輪幅五分二箇ヲ附ス	將官ニ同シ但茄子銀ヲ附セス	佐官ニ同シ但鎖ニ換ヘ長サ五寸幅七分ノ革ヲ用ヒ其下端ニ茄子銀ヲ附ス
形狀	同	同	同	同

正緒				
大將 中將 少將 監督長 軍醫總監	將官ハ金線 相當官ハ銀線 長サ蒂共二寸五分圓徑中央ニテ一寸一分	將官ハ金線 相當官ハ銀線 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締（將官ハ金線 相當官ハ銀線）幅三分五厘圓徑四分五厘	如圖
佐官 監督 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監	佐官ハ金線 相當官ハ銀線 長サ蒂共二寸五分圓徑中央ニテ九分五厘	佐官ハ金線 相當官ハ銀線 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締（佐官ハ金線 相當官ハ銀線）幅三分五厘圓徑四分五厘	同
尉官 監督補 軍吏 軍醫 藥劑官 獸醫 一等軍樂長	尉官 軍樂長ハ金線 相當官ハ銀線 長サ一寸一分圓徑中央ニテ八分	尉官 軍樂長ハ金線 相當官ハ銀線 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締（尉官 軍樂長ハ金線 相當官ハ銀線）幅三分五厘圓徑四分五厘	同
上等監護 二等軍樂長 下副官	黑護謨革 長サ二寸二分圓徑上部下部共ニ五分	黑絹絲丸打徑一分五厘 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締黑護謨革幅三分五厘圓徑四分五厘	同

（圖式略ス）

劍緒			
將官 監督長 軍醫總監	正緒ニ同シ	黑絹絲丸打徑一分五厘 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締正緒ニ同シ	同
監督 監督補 軍吏 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監 軍醫 藥劑官 獸醫	黑絹絲 長サ一寸五分圓徑中央ニテ八分	同	同

刀緒			
將官	正緒ニ同シ	同	同
佐官 尉官 一等軍樂長	黑護謨革 長サ二寸二分圓徑上部下部共ニ五分	同	同
上等監護 二等軍樂長 下副官	正緒ニ同シ	正緒ニ同シ	同

●陸軍將校服制中改正　明治二十三年十二月勅令第二百八十七號

陸軍將校服制中左ノ通改正ス

陸軍監督長同一二三等監督同監督補ノ第二種帽横章袴及短袴側章外套袖章ノ「花色藍絨」ヲ「銀茶絨」ニ改メ飾帶品質及總ノ「花色藍絹絲線及花色藍絹絲」ヲ「銀茶絹絲線及銀茶絹絲」ニ改メ「劒帶品質中花色藍絹絲線」ヲ「銀茶絹絲線」ニ改ム

●陸軍將校馬具制改正　明治二十年六月勅令第二十二號

陸軍將校馬具制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校馬具制

名稱	品質	章形狀
轡銜	將官及相當官　佐官及相當官　尉官及相當官　鐵　但鍍尼結兒	金色金物全徑縱八分橫一寸二分五厘櫻花徑縱三分但將官及相當官ハ全徑六分櫻花徑二分五厘佐尉官及相當官ハ金色金物將官及相當官ハ鍍金佐尉官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ端ニ各一箇ヲ附ス但章形將官及相當官ハ頭絡ニ同シ佐尉官及相當官ハ周圍ノ櫻枝ヲ除ク
副銜	將官及相當官　佐官及相當官　尉官及相當官　鐵　但鍍尼結兒	如圖
名稱	品質	具製式形狀
轡	將官及相當官　佐官及相當官　尉官及相當官　革　但固有色	但將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫　轡端ニ鞭ヲ附ス　如圖
副銜	將官及相當官　佐官及相當官　尉官及相當官　鐵　但鍍尼結兒	如圖
名稱	品質	具形狀
副轡	將官及相當官　佐官及相當官　尉官及相當官　革　但固有色	將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫　如圖

●陸軍將校馬具制中改正

明治二十三年十二月勅令第二百九十二號

陸軍將校馬具制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校馬具制中左ノ通改正ス

鞍轡ノ部

監督長、監督ノ下「花色藍絨」ニ「銀茶絨」ヲ改メ監督補ノ下ニ「銀茶絨」ノ三字ヲ加ヘ「花色藍絨」ノ四字ヲ軍吏ノ下ニ移ス、鞍轡外覆ノ部ヲ督長ノ下「花色藍絨」ヲ「銀茶絨」ニ改メ監督部

名稱	品質	形狀
鞍		
將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但固有色	
轡		
將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	鐵 但將官及相當官ハ鍍金 佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫	如圖
釣金		
將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	鐵 但鍍尼結兒	如圖

名稱	地質	品質	裝邊式	形狀
鞍				
大將 中將 少將	濃紺絨	綾織金線	保革	黑色如圖
監督長	花色藍絨	大線幅二寸 小線幅四分		
軍醫總監	深綠絨			
佐官	濃紺絨	綾織金線		
騎兵科佐官	濃紺絨	大線幅二寸 小線幅四分		
監督	花色藍絨	緋絨 大線幅二寸 小線幅四分 舊絨 大線幅二寸 小線幅四分		
軍醫監 軍醫正 藥劑官	深臙絨	緋絨 大線幅二寸		
轡				
大將 中將 少將	濃紺絨	綾織金線	保革	黑色如圖
監督長	花色藍絨	大線幅二寸 小線幅四分		
軍醫總監	深綠絨			
佐官	濃紺絨	綾織金線		
騎兵科佐官	濃紺絨	大線幅二寸 小線幅四分		
監督	花色藍絨	緋絨 大線幅二寸 小線幅四分 舊絨 大線幅二寸 小線幅四分		
軍醫監 軍醫正 藥劑官	深臙絨	緋絨 大線幅二寸		

大小線各一條ヲ附シ其間隙ヲ二分トス

ノ下ニ「ハ銀茶絨」四字ヲ加フ

名稱	品質	形狀
褲		
獸醫監		
尉官 砲兵科下副官 輜重兵科下副官	濃紺絨	小線幅四分
騎兵科尉官 騎兵科下副官	濃紺絨	緋絨 線幅二寸
監督補 軍吏	花色藍絨	舊絨 線幅二寸
軍醫 藥劑官 獸醫	深綠絨	緋絨 線幅二寸
鐙		
將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	鐵 但鍍尼結兒	如圖

一條ヲ附ス

●陸軍將校馬具制中改正

明治二十三年六月勅令第九十四號

朕陸軍將校馬具制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校馬具制中左ノ通改正ス

名稱	品質	製式	形狀
靴	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但固有色	鐵	如圖
鞍嚢	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但固有色	鐵 但將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫	左右嚢裡ニ蹄鐵嚢各一箇ヲ附ス	如圖

名稱	品質	製式	形狀
鞍	將官 監督長 軍醫總監	革 但表將官ハ濃紺絨監督長ハ花色藍絨軍醫總監ハ深緑絨ヲ以テ覆フ裏紅色	
	佐官 騎兵科佐官	緑 品質 裝式 綾織金線 大線幅一寸四分 小線幅四分	大小線各一條ヲ附シ其間隙ヲ二分トス
		緑 品質 裝式 緋絨 大線幅一寸四分 小線幅四分	
		緑 品質 裝式 茜絨 大線幅一寸四分 小線幅四分	
		櫻章	金色金物全徑縦三寸九分横三寸四分櫻花徑一寸左右各一箇ヲ附ス
		連合革	
		形狀	

鞍嚢外覆ノ部一段第八區畫ヲ「近衛騎兵下副官」ト改メ同區畫ノ下ヲ一本隊所用ノ鞍覆前部ヲ用ヒ櫻章ハ金色金物櫻花徑三寸左右各一箇ヲ附シ緑邊ハ茜絨線幅二寸一條ヲ附ス」ト改ム

備考中「鞍褥」ノ下ニ「近衛騎兵下副官ハ鞍褥」ノ十字ヲ加フ

鞍嚢外覆圖中「下副官」ヲ「近衛騎兵下副官」ト改ム

名稱	品質	製式	形狀
嚢外覆	監督 軍醫監 軍醫正 藥劑監 獸醫監	革 但表各兵佐尉官ハ濃紺絨監督部軍吏部ハ花色藍絨軍醫部獸醫部ハ深緑絨ヲ以テ覆フ裏固有色	
	尉官	緋絨 大線幅一寸四分 小線幅四分	
	騎兵科尉官	緋絨 線幅二寸	
	監督補 軍吏 軍醫 藥劑官 獸醫	茜絨 線幅二寸	
		緋絨 線幅二寸	一條ヲ附ス
	騎兵科 砲兵科 輜重兵官 下副官	但草形ハ頭絡ニ同シ	金色金物全徑三寸左右各一箇ヲ附ス 但草形ハ轡銜ニ同シ
		固有色	
		如圖	
名稱	品質	製式	形狀
腹帶	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	麻苧 但白色	鐵 但鍍錫	如圖

各兵隊所用ノ鞍覆前部ヲ用ヒ櫻章ハ金色金物櫻花徑三寸左右各一箇ヲ附ス但緑邊騎兵科ハ茜絨線砲兵科輜重兵科ハ緋絨線各幅二寸一條ヲ附ス

名稱		品質	櫻章金具	形狀
靷	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 固有色	金色金物全徑一寸二分五厘櫻花徑五分 但章形ハ頭絡ニ同シ	鐵 但將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫	如圖

名稱		品質	櫻章	金具	形狀
鞦	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但固有色	金色金物全徑九分櫻花徑三分五厘 但章形ハ頭絡ニ同シ	鐵 但將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫	如圖

名稱		品質	留革	連合革	金具	形狀
旅嚢	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但表黒裏固有色	固有色	表黒裏固有色	鐵 但將官及相當官ハ鍍金佐官及相當官ハ鍍銀尉官及相當官ハ鍍錫	如圖

名稱		品質	金具	繫縄	形狀
野繫	將官及相當官 佐官及相當官 尉官及相當官	革 但固有色	鐵 但鍍錫	紺染麻 但長凡五尺	如圖
備考	騎兵科砲兵科輜重兵科下副官ハ鞍褥及鞍褫外裰ヲ除クノ外各兵隊所用ノ馬具ヲ用フ				

（圖式略ス）

●將校以下夏服著用ノ季節ハ正裝軍裝トモ夏袴著用苦シカラス

明治十九年七月
陸軍省總務局通第七六號

將校以下夏服著用ノ季節ハ正裝軍裝共夏袴相用不苦儀ニ付此段及御通牒候也

●陸軍高等官衙副官ハ懸章ヲ佩用スルモノトス

明治二十一年五月
陸軍省達第二十二號

陸軍高等官衙副官ハ自今懸章ヲ佩用スヘキ事ニ定メラル
但其制式ハ陸軍將校服制中傳令使ノ懸章ニ同シ

●陸軍服裝規則　明治十九年十月　陸軍省令乙第百四十四號

陸軍服裝規則別冊ノ通改正ス

但馬具裝ノ儀ハ從前ノ通

（別冊）

陸軍服裝規則

第一章　總則

第一條　陸軍軍人ノ服裝ハ左ノ五種ニ區分ス

一　正裝

一　軍裝

一　禮裝

一　通常禮裝

一　略裝

第二條　第一第二及ヒ第五ハ將校（相當官准士官モ含有ス以下皆同シ）下士卒皆著用スル所ノ服裝トス

第四ハ將校ノミ著用スル所ノ服裝トス

第三條　正裝ハ儀式祭典等總テ大禮ノトキ著用スルモノニシテ其場合概ネ左ノ如シ

一　新年

一　三大節（新年宴會　紀元節　天長節）

一　歲暮ノ參賀

一　天機伺其他靡アリテ拜謁ノ爲メ參內スルトキ

一　陸軍始

一　靖國神社大祭

一　觀兵式又ハ儀仗ノ爲メ出場スルトキ

一　任官敍位敍勳

一　條例規則等ニ於テ明文アル場合

一　一般大禮服著用ノ場合

一　自家ノ賀儀葬祭（下士以下ニ在テハ親族ノ賀儀葬祭ニモ亦之ヲ用ユ）

第四條　軍裝ハ將校及ヒ下士卒ニ論ナク概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス

一　戰時出征

一　非常出兵

一　軍隊諸勤務

一衛戍勤務
一週番勤務（將校ニ限ル）
一大演習
一小演習
一廉アル野外演習等

第五條　禮裝ハ概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス
一宮中ニ於テ　御宴ニ陪スルトキ
一廉アリテ上官ニ對謁スルトキ
一夜會其他廉アル宴會等ニ臨ムトキ
一一般通常禮服（燕尾服ヲ云フ）著用ノ場合
一親族ノ賀儀葬祭

第六條　通常禮裝ハ概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス
一補職又ハ命課ノ辭令書拜受ノトキ
一天覽ノ場所ニ臨ミ陪覽スルトキ
一行幸行啓等ノ場所ヘ參集スルトキ
一任官敍位敍勳ノ御禮及ヒ之ニ齊シキ場合ニテ參內スルトキ

一通常ノ宴會ニ臨ムトキ
一一般「フロックコート」著用ノ場合
一一般ノ賀儀葬祭

第七條　略裝ハ公私ノ別ナク平常著用スル所ノ服裝トス

第八條　夏衣ハ炎暑ノ際（凡ソ六月一日ヨリ九月盡日迄ノ間以下皆同シ）略裝ニノミ著用スルヲ得ルモノトス然レトモ平時ノ勤務及ヒ演習等ニ在テハ時宜ニ依リ軍裝ニモ亦之ヲ著用スルヲ得但夏衣ヲ著用スルトキハ必ス夏袴ヲ著用スルモノトス

第九條　夏袴ハ炎暑ノ際著用スルモノニシテ何レノ服裝ニ在テモ袴ニ代用スルコトヲ得

第十條　外套ハ何レノ服裝ヲ論セス雨雪天ノトキ又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ著用スルモノトス然レトモ軍裝略裝ニ在テハ防寒ノ爲メ室內ニ於テモ亦之ヲ著用スルコトヲ得但觀兵式其他儀式ノ場所及ヒ上官ノ居室內ニ在テハ之ヲ著用スルコトヲ許サス

第十一條　雨覆ハ外套ノ上ニ著用スルヲ正則トス然レトモ時宜ニ依リ雨覆ノミヲ著用スルモ妨ナシ

第十二條　頤紐ハ何レノ服裝ヲ論セス隊伍ニ列スルトキハ必ス之ヲ用ユヘシ但其他

●陸軍服裝規則中追加改正削除　明治二十年六月陸軍省達第七十五號

ノ場合ニ在テハ各自ノ便宜ニ依リ之ヲ用ユルモノトス

第十三條　日覆ハ炎暑ノ際軍裝略裝ニ在テ第二種帽ニ用ユルモノトス然レトモ第二種帽ノ制ナキ者ハ第一種帽ニ用ユルコトヲ得

第十四條　勳章及ヒ從軍記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用ス然レトモ大勳位及ヒ勳一等ニ在テハ菊花大綬章又ハ旭日大綬章ハ正裝及ヒ禮裝ニノミ佩用シ軍裝及ヒ通常禮裝ニハ菊花章又ハ旭日重光章ノミヲ佩用スヘシ但略裝ハ勿論軍裝ト雖モ場合ニ依リ之ヲ佩用セサルコトヲ得

第二章　將校ノ服裝

其一　通則

第十五條　刀ハ將官並ニ各兵佐尉官准士官及ヒ軍樂長之ヲ佩用シ劍ハ將官並ニ相當官及ヒ監督軍吏軍醫獸醫部ノ上長官士官之ヲ佩用ス

第十六條　將官ハ正裝及ヒ禮裝ニハ劍ヲ佩用シ其他ノ服裝ニ在テハ各自ノ便宜ニ依リ刀或ハ劍ヲ佩用スルヲ得ル然レトモ軍隊ノ長タル將官ハ何レノ服裝ニ在テモ必ス刀ヲ佩用スヘシ

第十七條　刀及ヒ劍ノ佩用方ハ（第一圖其三其四）其正衣ヲ著セシトキハ衣ノ上ニ軍衣ヲ著セシトキハ衣ノ下ニ刀（劍）帶ヲ締メ之ヲ佩用ス而シテ其刀ハ室ノ內外ヲ論セス何レ

明治十九年十月省令乙第百四十四號ノ但書ヲ削除シ及陸軍服裝規則中別紙ノ通リ追加改正削除ス

（別紙）一第十七條末文「又」以下二十五字ヲ削除ス、一第二十六條中「短靴ヲ穿ツトキハ必ス」ヲ「短靴ハ必ス之ヲ袴下ニ穿チ」ニ改ム、一第二十七條中ヘ左ノ通追加ス、此服裝ニ在テ乘馬スルトキハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス（第六圖）、一頭絡（豫備轡鎖及鼻皮共）一轡銜（轡鎖共）一副銜、一韁、一副韁、一鞍、一鐙靴、一鞍褥、一鞍囊、一鞍囊外覆、一腹帶、一朝鞦、一第三十條中ヘ左ノ通追加ス、此服裝ニ在テ乘馬スルトキハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス（第七圖）但將官ハ

ノ場合ト雖モ上部ノ鐶ヲ刀帶ノ釣金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ヲ掛ケサルヲ法トス但騎兵科將校ハ正衣軍衣ニ論ナク衣ノ下ニ佩用ス又軍裝略裝ニ在テ乘馬セシトキハ其鞍側ニ附著スルコトヲ得

第十八條　正緒ハ正裝禮裝通常禮裝著用ノトキ刀或ハ劍ニ裝著ス（第四圖第五圖）

第十九條　刀緒ハ刀ニ裝著シ劍緒ハ劍ニ裝著スルモノニシテ軍裝略裝ノトキニ用ユ（第四圖第五圖）

第二十條　飾緒ハ將官並ニ參謀官ノ佩用スヘキモノニシテ將官ハ正裝ノトキニ限リ之ヲ用ヒ參謀官ハ何レノ服裝ニモ必ス之ヲ用ユ（第一圖其一其二其三第二圖其一其二）但事務執行ノ場合等ニ在テハ脫除シアルモ妨ケナシ

第二十一條　飾緒ハ金線（モール）製ノモノヲ用ユルハ勿論ナリト雖モ略裝ニ在テハ絹糸製白茶色ノモノヲ用ユルモ妨ナシ但軍裝ニ在テモ場合ニ依リ本例ニ準スルコトヲ得

第二十二條　懸章ハ傳令使、週番、衛戍巡察ノ諸將校佩用スヘキモノニシテ何レノ服裝ニ在テモ必ス之ヲ用ユルヲ例トス而シテ其佩用方ハ右肩ヨリ左脇ニ斜ニ掛ク但週番及ヒ衛戍巡察ハ服務中ニ在ルモ現ニ勤務セサル場合（例ヘハ週番ノ隊務ニ在ラサルトキ巡察ノ巡察ヲナサヽルトキヲ云フ）ニ在テハ之ヲ佩用セス又傳令使ハ事務執行ノ場合等ニ在テハ脫除シアルモ妨ナ

旅嚢ヲ裝セス、一頭絡（豫備轡鎖共、鼻皮ヲ除ク）一野繋、一轡銜、轡鎖共、一副銜、一韁、一副韁、一鞍（鞍尾ヲ付ス）、一鐙靴、一鞍褥、一鞍嚢、一旅嚢、一腹帶、一靷鞦、一第三十四條中ヘ左ノ通追加ス、此服裝ニ在テ乘馬スルトキハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス、一頭絡（豫備轡鎖及鼻皮共）、一轡銜（轡鎖共）、一副銜、一韁、一副韁、一鞍、一鐙靴、一鞍褥、一腹帶、一靷鞦、一第三十六條中ヘ左ノ通追加ス、此服裝ニ在テ乘馬スルトキハ其馬具ハ左ニ列記スルモノヲ裝具ス但鞍褥ハ各自ノ便宜ニ依リ普通ノ鞍下ノミヲ用ユルコトヲ得、一頭絡（豫備轡鎖及鼻皮ヲ除ク）、一轡銜（轡鎖共）、一副銜、

シ、

第二十三條　短袴ハ何レノ服裝ニ在テモ長靴ヲ穿ツトキ著用スルモノトス而シテ炎暑ノ際ハ夏袴ヲ短袴製ニ調製シ著用スルモ妨ナシ

第二十四條　手套ハ何レノ服裝ヲ論セス白色革製ノモノヲ用ユヘシ

第二十五條　下襟ハ何レノ服裝ニ在テモ白布製ノ立襟ヲ用ユヘシ

第二十六條　何レノ服裝ヲ論セス短靴ヲ穿ツトキハ必ス留革（スーピ）ヲ附著シ又乘馬本分ノ者ハ短靴長靴共ニ必ス拍車ヲ附著スヘシ

其二　正裝

第二十七條　正裝ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一第一種帽
一前立
一正衣
一袴
一肩章
一飾帶（第三圖其一其二其三）
一刀（劍）

一韁、一副韁、一鞍、一鐙靴、一鞍褥、一腹帶、一第三十九條中ヘ左ノ一項ヲ追加ス、此服裝ニ在テ乘馬スルトキ馬具ノ裝具ハ通常禮裝ニ同シ、一第四十三條末文「佩用ス」ノ「ス」ヲ「シ」ニ改メ其下ニ「又徒卒刀ヲ佩用スル者ニシテ外套ヲ著シ背嚢ヲ負フ場合ニ在テハ之ヲ外套ノ上ニ佩用ス」ノ三十九字ヲ加フ、一第四十九條第三項中「鍬兵ハ其工具」ヲ「歩兵（携帶器具ヲ携帶スル者ニ限ル）ハ其携帶器具」ニ改ム、一第五十二條中「第五項」ヲ「第四項」ニ改メ「適用セス」ノ下ニ「但脚絆ハ之ヲ袴下ニ著スル等適宜ニ之ヲ取捨スルコトヲ得」ノ二十五字ヲ加ヘ末文「等」以下十三字ヲ「モ妨ケナシ」ニ

一正緒
一手套
一下袴
一靴

第二十八條　此服裝ニ在テハ何レノ場合ト雖モ騎兵科將校ハ長靴ヲ穿チ其他ノ者ハ總テ短靴ヲ穿ツヲ法トス但砲兵及ヒ輜重兵隊附將校ノ隊伍ニ列スルトキハ短袴長靴ヲ穿ツヘシ

第二十九條　炎暑ノ際ハ夏袴ヲ以テ袴ニ代用スルコトヲ得ルト雖モ室内ニ於テ儀式等ニ列スルトキハ必ス袴ヲ穿ツヘシ

其三　軍裝

第三十條　軍裝ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一帽
一軍衣
一袴
一刀（劍）
一刀緒（劍緒）

改ム（圖面略ス）

●服裝規則中改正追加

明治二十一年五月陸軍省達第百二十三號

服裝規則中左ノ通改正追加ス

第二十二條　懸章ハ高等官衙副官、傳令使、週番、衛戍、巡察ノ諸將校何レノ服裝ヲ論セス之ヲ用ユルモノトス其佩用方ハ右肩ヨリ左脇ニ斜ニ掛ク但高等官衙副官、傳令使ハ特ニ長官ニ隨從スル時週番及ヒ衛戍巡察ハ現ニ勤務ニアル時（例ヘハ週番ノ隊務ニアルトキ巡察ノ巡察ヲナストキヲ云フ）ノ外ハ之ヲ佩用セサルモ妨ナシ、第二十六條ヘ左ノ但書、但第一種靴ハ略裝ニ限リ之ヲ袴上ニ穿ツモ妨ナシ

一手套
一下襟
一靴

第三十一條　帽ハ第一種帽ヲ著スルヲ正則トス然レトモ時宜ニ依リ第二種帽ヲ用ユルコトヲ得

第三十二條　此服裝ニ在テハ乘馬本分ノ者ハ必ス短袴長靴ヲ穿チ其他ノ者ハ短靴ヲ穿チ脚絆ヲ著シ而シテ乘馬本分ニアラサル隊附尉官ハ背嚢ヲ負フヲ法トス但週番及衛戍巡察等ノ如キハ時宜ニ依リ脚絆ヲ著セス背嚢ヲ負ハサルモ妨ナシ

第三十三條　背嚢ヲ負フ者ハ之ニ雨覆又ハ夏外套ヲ附著ス其之ヲ負ハサル者ハ雨覆又ハ夏外套ヲ卷キ左肩ヨリ右脇ニ斜ニ掛クルヲ法トス但時宜ニ依リ之ヲ背嚢ニ附著セス又肩ニ掛ケサルモ妨ナシ

其四　禮裝

第三十四條　禮裝ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一第一種帽
一正衣
一袴

●陸軍服裝規則中追加

明治二十三年五月陸軍省達第百五號

明治十九年（十月）省令乙第百四十四號陸軍服裝規則中左ノ通追加改正ス

第二十八條中「砲兵」ノ上ニ「野戰」ノ二字ヲ加フ、第四十九條第一項及第三項中「歩兵」ノ下ニ各「要塞砲兵」ノ四字ヲ加ヘ同條第一項及第五項中「砲兵」ノ上ニ各「野戰」ノ二字ヲ加フ、同條第八項ヲ削除シ左ノ三項ヲ追加ス、一砲兵工兵監護並諸工長同下長及諸職工亦前項ニ同シ但野戰砲兵隊附砲兵監護及同諸工長同下長ニ在テハ徒卒刀ニ代フルニ砲兵刀ヲ以テス、一騎兵砲兵

一肩章
一刀（劍）
一正緒
一手套
一下襟
一靴

第三十五條　此服裝ニ在テハ騎兵科將校ハ長靴ヲ穿チ其他ハ總テ短靴ヲ穿ツヲ法トス

其五　通常禮裝

第三十六條　通常禮裝ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一帽
一軍衣
一袴
一刀（劍）
一正緒
一手套

一下襟
一靴

第三十七條　帽ハ第一種帽ヲ用ユルヲ正則トス然レトモ時宜ニ依リ第二種帽ヲ用ユルコトヲ得

第三十八條　此服裝ニ在テハ騎兵科將校ハ長靴ヲ穿チ其他ハ短靴ヲ穿ツヲ例トス然レトモ乘馬本分ノ將校（騎兵科ヲ除ク）ニシテ乘馬セシ儘其場ニ臨ム場合ニ在テハ各自ノ便宜ニ依リ短袴長靴ヲ穿ツモ妨ナシ

其六　略裝

第三十九條　略裝ノ著裝ハ概ヲ通常禮裝ト同一トス只帽ハ第一種第二種ニ論ナク之ヲ用ユルコトヲ得又刀（劍）ニ正緒ヲ裝著セス刀（劍）緒ヲ裝著スルヲ異ナリトス

第四十條　此服裝ニ在テハ靴ハ短靴又ハ長靴ヲ穿チ或ハ脚絆ヲ著シ又ハ著セサル等總テ各自ノ便宜ニ任ス

第四十一條　騎兵科將校ハ何レノ服裝ニ在テモ袴（騎兵科ノ袴）ヲ用ユルハ勿論ナリト雖モ此服裝ニ在テハ隊外服務ノ者ハ他兵科ノ袴ト同製ノモノニシテ地茜色側章前黃色ノ袴ヲ用ユルコトヲ得但隊附將校ト雖モ隊務ニ在ラサルトキハ之ヲ用ユルモ妨ナシ

（輜重兵蹄鐵工長同下長ハ總テ當該兵科ノ下士ニ同シ、一隊附砲兵火工長同下長ハ當該各隊第十下士ニ同シ、第五十條第三項但書ノ上ニ一縫工長靴工長竝砲兵隊附監護及騎兵砲兵隊附蹄工長同下長ハ除ク」ノ割註ヲ加フ）

第四十二條　騎兵科將校ハ此服裝ニ在テハ刀帶ノ釣鎖ヲ釣革ニ換ヘ用ユルコトヲ得

第三章　下士卒ノ服裝

其一　通則

第四十三條　刀、劍、砲兵刀、徒卒刀ノ佩用方ハ何レノ服裝ヲ論セス衣ノ上ニ革帶ヲ締メ之ヲ佩フ然レトモ騎兵ニ在テハ心ス衣ノ下ニ之ヲ佩フルモノトス又外套ヲ著スルトキハ憲兵歩兵（屯田兵モ含有ス以下皆同シ）砲兵工兵ニ在テハ外套ノ上ニ佩用シ其ノ他ハ外套ノ下ニ佩用スル而シテ刀ヲ佩フル者ハ革帶ヲ外套ノ下ニ締メ刀ノ柄ヲ左側ノ裂目ヨリ出シ乘馬ニテ隊伍ニ列スルトキハ其釣革ヲ左側ノ裂目ヨリ出シ刀ヲ外部ニ出スヘシ但曹長（憲兵ハ之ヲ除ク）ハ何レノ兵種ヲ論セス背嚢ヲ負ハサル場合ニ在テハ皆外套ノ下ニ佩用ス

第四十四條　手套ハ其給與アル者ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ用ユルハ勿論ナリト雖モ其給與ナキ者ニ在テモ隊伍ニ列セサルトキハ之ヲ用フルモ妨ナシ

第四十五條　下襟ハ何レノ服裝ニ在テモ白襟布ヲ衣ノ襟幅ヨリ稍々廣ク折リ之ヲ頸ニ卷クヘシ

第四十六條　小倉衣袴ハ兵卒平常屯營內ニ在ルトキ及ヒ練兵等ヲナストキノミ著用スルモノトス

●陸軍服裝規則中追加

明治二十三年二月陸軍省達第十六號

陸軍服裝規則中第四十八條一ツ書ノ次ヘ「但對馬警備隊ニ在テハ當分ノ內第二種帽ヲ用ユ」ノ但書第四十九條第三項第三行背嚢ノ下ヘ「對馬警備隊歩兵隊ニ在テハ背負嚢」ノ割註同條第五項ヘ「但對馬警備隊砲兵隊一二等軍曹及兵卒ニ在テハ銃劍（助卒ハ徒卒刀）ヲ佩ヒ短靴ヲ穿チ脚絆ヲ袴下ニ著シ隊伍ニ列スルトキハ背負嚢ヲ負ヒ彈藥盒（助卒ヲ除ク）ヲ附著シ（銃助卒ヲ除ク）ヲ携持ス」ノ但書及第五十條一ツ書ノ次ヘ「一對馬警備隊ニ在テハ外套ヲ卷キ左肩ヨリ右脇ニ掛ケシメ山足袋ヲ穿チ木綿脚絆ヲ著セシムルコトアリ」ノ一ツ書ヲ追加ス

第四十七條　兵卒屯營內ニ在ルトキ及ヒ練兵ヲナストキハ前條ニ揭クル如ク小倉衣袴ヲ著用スヘシト雖モ時宜ニ依リ之ヲ要スルトキハ隊長ノ存意ヲ以テ絨衣袴ヲ著用セシムルコトヲ得然ルトキハ肩章ハ騎兵ニ在テハ之ヲ除去シ其他ニ在テハ卸ヲ外シ之ヲ卷キ置クモ妨ナシ

其二　正裝

第四十八條　正裝ハ兵種ニ依リ區別アリト雖モ總テ一般ニ著裝スルモノ概ネ左ノ如シ

一第一種帽
一前立
一衣袴
一下襟
一靴

第四十九條　各兵種ニ依リ區別アルモノ左ノ如シ

一曹長ハ其兵種ノ如何ヲ問ハス皆刀ヲ佩ヒ歩兵工兵ニ在テハ短靴ヲ穿チ脚絆ヲ袴下ニ著シ騎兵ニ在テハ長靴ヲ穿チ憲兵砲兵及ヒ輜重兵ニ在テハ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ

一憲兵曹長一二等軍曹及ヒ兵卒ハ刀ヲ佩ヒ拳銃ヲ携帶シ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ

一歩兵工兵一二等軍曹及ヒ兵卒ハ革帶ヲ締メ銃劍ヲ佩ヒ短靴ヲ穿チ脚絆ヲ袴下ニ著ス而シテ隊伍ニ列スル者ハ背嚢ヲ負ヒ（負革ヲ肩章ノ下ニス）彈藥盒ヲ附著シ銃ヲ携持ス但背嚢ニハ外套ヲ蹄鐵狀ニ附着シ而シテ工兵及鍬兵ハ其工具ヲ束裝ス

一騎兵一二等軍曹及ヒ兵卒ハ刀ヲ佩ヒ長靴ヲ穿ツ而シテ隊伍ニ列スル者ハ槍又ハ銃ヲ携持ス（銃ヲ携持スル者ハ彈藥盒ヲ附著ス）

一砲兵一二等軍曹及ヒ兵卒ハ砲兵刀ヲ佩ヒ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ而シテ隊伍ニ列スルトキ徒歩ノ者ハ背嚢ヲ負ヒ外套ヲ蹄鐵狀ニ附著ス

一輜重兵一二等軍曹及ヒ兵卒ハ刀ヲ佩ヒ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ而シテ一二等卒ノ隊伍ニ例スル者ハ彈藥盒ヲ附著シ銃ヲ携持ス

一軍吏部軍醫部及ヒ軍樂部ノ下士卒ハ總テ徒卒刀ヲ佩ヒ短靴ヲ穿チ脚絆ヲ袴下ニ着ス

一砲工兵監護及ヒ騎砲兵諸工長同下長並ニ同諸職工モ亦前項ト同一トス但隊附砲兵火工長同下長ニ在テハ砲兵下士ト同一トス

其三　軍裝

第五十條　軍裝ハ概ネ第四十八條第四十九條ニ揭クル正裝ノ著裝ト同一トス但左

●陸軍服裝規則中改正追加

明治二十三年八月陸軍省達第百七十號

明治十九年（十月）省令乙第百四十四號陸軍服裝規則中左ノ通改正追加ス

一徒卒刀トアルハ總テ徒歩刀ニ改ム

一第四十八條但書對馬警備隊ノ下ヘ「各輜重踰卒」ノ五字ヲ加ヱ第四十

九條第六項第一行刀ノ下ヘ（「踰卒ハ徒歩刀」）同第二行袴上ニノ下ヘ（「踰卒ハ脚絆ヲ袴下ニ著シ」）同第三行携持スノ下ヘ（「踰卒ハ脊負袋ヲ負ヒ外套ヲ卷キ左肩ヨリ右脇ニ掛ク」）ノ割註ヲ加フ、一第四十九條第八項砲兵工兵監護ノ次ニ「砲臺監守」ノ四字ヲ加ヱ諸職工長同下長ノ下「及諸職工」ノ四字ヲ削ル、一同條第十項ノ次ニ左ノ二項ヲ追加ス、一縫靴工長同下長同職工ハ各其所屬隊下士兵卒ニ同シ、但銃劍佩用ノ隊ニ附屬スル者ハ徒歩刀ヲ佩フ、一隊外ニ奉職スル軍曹ハ總テ軍刀ヲ佩用ス

ニ掲クルモノヲ取捨スルヲ異ナリトス

一前立ヲ裝セス又時宜ニ依リ第二種帽ヲ用ユルコトヲ得

一水筒ヲ携帶ス

一徒歩ニシテ隊附ノ者ハ總テ背嚢ヲ負フ但第四條第一第二ノ塲合ニ在テハ隊外ノ者ニ在テモ亦同シ

一背嚢ヲ負フ者ハ之ニ飯盒及ヒ豫備靴ヲ附著ス又時宜ニ依リ毛布ヲ附著スルコトアリ

一脚絆ヲ著モノハ之ヲ袴上ニス

其四　略裝

第五十一條　略裝ノ著裝ハ概ヲ軍裝ニ同シ只帽ハ第二種帽ニ限リ之ヲ用ユルヲ異ナリトス但第二種帽ノ制ナキモノハ此限ニアラス

第五十二條　此服裝ニ在テハ第五十條第二項乃至第五項ニ掲クルモノヲ適用セス又隊外奉職ノ者ハ各自ノ便宜ニ依リ脚絆ヲ附著セサル等適宜ニ之ヲ取捨スルコトヲ得

（繪圖略ス）

●陸軍服裝規則中著用心得方

明治十九年十月
陸軍省總務局通第一一二號

今般省令乙第百四十四號ヲ以テ陸軍服裝規則改正相成候處左ノ件々ハ實際ニ於テ取捨候テ可然儀ニ候條御心得マテ此段及御通牒候也

一　將校前立ハ馬車内等ニ在テハ之ヲ除キ置クモ妨ケナシ

一　將校禮裝及通常禮裝ノ時馬具裝ハ禮裝ニ在テハ正裝（上長官士官ニ在テモ衣嚢ヲ裝セス）通常禮裝ニ在テハ略裝（必ス靴鞦ヲ裝スルモノトス）トス

一　去ル七月十四日總通第七五號通牒第四項新制衣袴並ニ裝具等悉皆整頓最終ノ期迄ハ將校舊制ノ衣袴並ニ裝具等用ユル者ハ何レノ服裝ヲ論セス從前ノ服裝規則ニ從フ

但禮裝通常禮裝ノ塲合ニ在テハ禮裝ハ從前ノ正裝（飾帶ヲ除ク）通常禮裝ハ從前ノ軍裝ヲ適用ス

一　去七月十四日總通第七五號通牒第三項中飾緒帽新舊制混用妨ケナキコトハ消滅ニ屬ス又外套ハ混用妨ケナシト雖モ上長官以下ニ在テハ裏緋不相成事

一　下士以下ノ外套著用ノ時其下ニ佩刀スヘキ者ハ現今外套ノ左側ニ裂目ナキヲ以テ當分外套ノ上ヨリ佩刀スルモ妨ケナシ

一　歩砲工兵下士ノ隊外奉職ノ者ニシテ砲兵刀又ハ銃劍ヲ佩フ可キ者ハ該刀又ハ銃劍支給相成候迄ハ從前ノ通

一 徒卒刀ヲ佩フヘキ者ハ該刀支給相成候迄ハ従前ノ通

一 隊外服務ノ雑卒ハ尋常出務中ハ勿論其往復途中等ハ小倉衣袴ヲ著用シ之ヲ要スルトキハ其長官ノ命令ニ依リ絨衣袴ヲ著用スルモノトス

●陸軍將校及下士以下服制中改正

明治二十一年七月
勅令第五十一號

朕陸軍將校及下士以下服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校服制圖例及下士以下服制圖例憲兵第一種帽上部ノ緋絨衣ノ襟袖玉縁肩章ノ緋絨袴ノ藍絨ヲ共ニ茜絨ニ又側章ノ緋絨ヲ黒絨ニ改ム

●陸軍服制中下士以下服制

明治十九年二月
内閣達第十四號

陸軍服制中下士以下服制別册ノ通改正ス

(別册)

陸軍服制圖例 下士以下着具ノ部

第一種帽

名稱	歩兵 騎兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 曹長 軍曹	憲兵 曹長 軍曹	砲兵 工兵 騎兵 砲兵 監護 諸工長 同下長 會計書記 看護長 看馬長	軍樂次長 軍樂手	歩兵 騎兵 砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 兵卒
品質	革	上部絨 下部天鵞絨	絨	絨	革
種別	黒 近衛ハ中央朱	上部緋 下部黒	紺	茜	黒 近衛ハ中央朱
日章	眞鍮 徑二寸	眞鍮 徑一寸七分	同	眞鍮 徑一寸七分	眞鍮 徑二寸
眼庇	革 表黒 裏萌黄	同	同	革 表黒 裏萌黄	同
頤紐	黒革 金物眞鍮 ビジヨ鋲黒	黒革 釦眞鍮	同	黒革 釦眞鍮	黒革 金物眞鍮 ビジヨ鋲黒
縦横章 品質		蛇腹組 黄毛絲	同	蛇腹組 黄毛絲	
縦横章 線幅		一分五厘	同	一分五厘	
縦横章 裝式		横章 縦章 上下部縦際ニ一條ヲ附ス 前後ハ直左右ハ斜ニ各一條ヲ附ス		横章 縦章 上下部縦際ニ一條ヲ附ス 前後ハ直左右ハ斜ニ各一條ヲ附ス	
頂上章 品質		蛇腹組 黄毛絲	同	蛇腹組 黄毛絲	
頂上章 線幅		一分五厘	同	一分五厘	
頂上章 裝式		環狀線ノ內ニ五分ヲ離レ星章一個ヲ附ス	同	環狀線ノ內ニ五分ヲ離レ星章一個ヲ附ス	
形狀	如圖	同	同	同	同

前	名稱	第一種帽			
憲兵歩騎砲工輜重兵兵兵兵兵兵 曹長 軍曹 兵卒		會看看鞍縫蹄鐵銃 計護馬木鐵銀 卒卒工工工卒	樂手補生	憲兵卒	教導團生徒 校團喇叭卒 樂卒
	品質	同	綫	上部綫 下部天鵞綫	同
		紺	茜	上部緋 下部黒	黒、
		同	同	眞鍮 徑一分七厘	同
	製式	同	同	同	同
		同	同	黒革	同
		同	同	蛇腹 黄毛絲組	
		同	同	一分五厘	
		同	同	横章 縦章 上下部縫際ニ一條附ス 前後ハ直條斜ニ各一條附ス	
		同	同	蛇腹 黄毛絲組	
		同	同	一分五厘	
	形狀	同	同	環狀綫ノ内ヲ離レ五分ニ星章一個ヲ附ス	
		同	同	同	同

立	名稱	第二種帽		
砲兵監 工兵騎兵砲兵諸工長同下長 護 曹長 軍曹 兵卒		歩騎砲工輜重兵兵兵兵兵兵 田		
會看看軍軍樂樂教校逃會看諸 計護馬樂手樂喇叭卒計護馬職 導次生叭 卒卒卒卒卒卒徒生補手長長長記長		砲兵監 工兵騎兵砲兵諸工長同下長 護 曹長 軍曹 兵卒		
熊 毛	品質	綫	綫	
	色別	紺	紺	
上部白 高サ 二寸五分	星章	眞鍮 中心尖頭マテヨリ 五分	眞鍮 中心尖頭マテヨリ 五分	
下部緋 高サ 二寸二分	眼庇	黒革	黒革	
金物 眞鍮	頤紐	黒革 眞鍮	黒革 眞鍮	
如圖	横章 品質線幅一裝式 形狀	黄綫 大線一寸四分 頂端線一分五厘 頂端線ハ喰出シニ附ス	近衛隊ハ緋綫 大線一寸四分 頂端線一分五厘 頂端線ハ喰出シニ附ス	如圖
		黄綫 大線一寸四分 頂端線一分五厘 頂端線ハ喰出シニ附ス	黄綫 大線一寸四分 頂端線一分五厘 頂端線ハ喰出シニ附ス	同

第二種帽

名稱	會計書記	看護長	歩騎砲工輜屯田兵	士官生徒	會計縫工	看護卒
品質	同	同	同	同	同	同
色別	同	同	同	同	同	同
形狀	同	同	同	同	同	同
製式	花色藍絨	深綠絨	黃絨 近衛隊ハ緋絨	紺絨	花色藍絨	深綠絨
帽章	同	同	同	同	同	同
帽緒	同	同	同	同	同	同
帽纓	同	同	同	同	同	同
帽章製式	同	同	同	同	同	同

衣

名稱	憲兵 歩兵 曹長 一等軍曹 二等軍曹	砲兵 工兵 輜重兵 屯田兵 一等軍曹 二等軍曹	騎兵 曹長 一等軍曹 二等軍曹
品質	絨	同	同
色別	紺	同	同
袖章 卸	赫銅 大徑八分 小徑五分 五厘	赫銅 大徑八分 小徑五分 五厘	赫絹 大徑八分 小徑五分 五厘
袖章 襟章	憲兵 歩兵 緋絨	胸部ノ五個ヲ砲兵黃絨 肩章及工兵烏絨 劒留ノ三個ヲ輜重兵藍絨	後襞ノ二個ヲ萌黃絨 肩章ノ大トシ二個ヲ 小トス
袖章 品質	平織金線	黃絨	同
袖章 線幅	金線 二分	大線 八分	小線 二分
袖章 裝式	金線大線ハ各一條小線ハ一條ヲ袖口ヨリ二寸ヲ上ニ附着シ各半面ニ一條ヲ間隙ヲ置キ二等軍曹ノ長ニ當リ一等軍曹ノ二條ヲ歩兵屯田兵ハ大線ニ密着ス	憲兵及近衛隊ハ緋絨 小線ヲ金線ニ密着ス	金線大線ハ各一條小線ハ一條ヲ袖口ヨリ二寸ヲ上ニ附着シ各半面ニ一條ヲ間隙ヲ置キ二等軍曹ノ長ニ當リ一等軍曹ノ二條ヲ歩兵屯田兵ハ大線ニ密着ス
肩章	憲兵 歩兵 緋絨	砲兵 工兵 輜重兵 黃絨 烏絨 藍絨	黃毛絲組紐 近衛隊ハ緋毛絲組紐 記號 眞鍮
肩章製式	長サ肩上端ヨリ下腕骨上端ヨリ下ルコト四寸全襟幅一寸四分袖長腕圍ニ止ル肩章幅二寸兩脇ノ下端ヨリ裂ク四寸物入左胸部ノ裏面ニ一個ヲ附ス但工兵ニ限リ尚ホ右胸部ニ一個ヲ附ス近衛隊ハ襟同色ノ絨ヲ以テ縁邊及劒留共玉緑ヲ附ス	如圖	長サ肩上端ヨリ下腕骨上端ヨリ下ルコト三寸五分全襟幅一寸四分袖長腕圍ニ止ル上下部縫際ハ腕骨上端ヨリ一寸全緑邊及胸部背部ノ總テ三分幅ハ蛇腹組黃毛絲近衛隊ハ蛇腹組緋毛絲トス物入左胸部ノ裏面ニ一個ヲ附ス
形狀	同	同	同

砲兵 工兵 監護 騎兵 砲兵 諸工長同下長	會計 一等 二等 三等 書記	一等 二等 看護長 三等 一等 二等 看馬長 三等
絨	同	同
紺	同	同
赫銅 大徑八分 小徑五分五厘 胸部ノ五個ヲ大トシ肩章及劔留ノ三個ヲ小トス	同	同
騎兵科萌黃絨 砲兵科 黃絨 工兵科 鳶絨		
平織金線 黃線	平織銀線 花色藍絨	平織銀線 深綠絨
金線二分 大線八分 小線二分	同	同
金線大線ハ各一條小線ハ曹長同等三條一等軍曹同等二條二等軍曹同等一條ヲ袖口ヨリ一寸五分ヲ上リ表半面突起狀ニ附シ各間隙ヲ一分トシ金線ハ大線ニ密着ス	銀線大線ハ各一條小線ハ一等三條二等二條三等一條ヲ袖口ヨリ二寸ヲ上リ表半面ニ附着シ各間隙ヲ一分トシ銀線ハ大線ニ密着ス	同
騎兵科萌黃絨 砲兵科 黃絨 工兵科 鳶絨	花色藍絨	深綠絨 蛇杖 花葉白絨
長 腕骨上端ヨリ下ルコト四寸 全襟幅 一寸四分 袖長 腕關節ニ止ル 肩章幅 二寸 兩脇ノ下端ヲ裂クコト四寸 物入 左胸部ノ裏面ニ一個ヲ附ス	同	同
同	同	同

衣

軍樂次長 一等 二等 軍樂手	憲兵卒
同	同
同	同
赫銅 大徑八分 小徑五分五厘 胸部及後裂ノ七個ヲ大トシ肩章及劔留ノ三個ヲ小トス	赫銅 大徑八分 小徑五分五厘 胸部ノ五個ヲ大トシ肩章及劔留ノ三個ヲ小トス
茜絨 樂器 眞鍮	緋絨
平織金線 紺青絨 袖口茜絨	緋絨
同	八分
金線大線ハ各一條小線ハ軍樂次長三條一等軍樂手二條二等軍樂手一條ヲ袖口絨ノ上端ヨリ下ヘ周環ニ附ス各間隙ヲ一分トシ金線ハ大線ニ密着ス	一條袖口ヨリ二寸ヲ上リ表半面ニ附着ス
茜絨 玉緣 紺青絨	緋絨
長 腕骨上端ヨリ下ルコト六寸 全襟幅 一寸四分 袖長 腕關節ニ止ル 袖口 深サ四寸 肩章幅 二寸 樂器 襟ノ兩端上方ニ向ケ各一個ヲ斜ニ附ス 上下部縫際ハ腕骨上端ヨリ上ルコト五分 物入 左胸部ノ裏面ニ一個ヲ附ス	長 腕骨上端ヨリ下ルコト四寸 全襟幅 一寸四分 袖長 腕關節ニ止ル 肩章幅 二寸 兩脇ノ下端ヲ裂クコト四寸 物入 左胸部ノ裏面ニ一個ヲ附ス
同	同